

(様式第10)

東医歯病監第 9 号

令和 4 年 10 月 5 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 国立大学法人東京医科歯科大学

学長 田中 雄二郎

東京医科歯科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和3年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45
氏名	国立大学法人 東京医科歯科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

国立大学法人 東京医科歯科大学病院

3 所在の場所

〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45
電話(03)5803-6111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科				有			
内科と組み合わせた診療科名等							
<input type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
<input type="radio"/>	5神経内科		6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科				11リウマチ科
診療実績							
腎臓内科、血液内科、内分泌内科、代謝内科、リウマチ科については、合同内科において診療を行っている。							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科		2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
○	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科		8小児外科
診療実績							
乳腺外科については、合同外科において診療を行っている。 小児外科については、小児科において診療を行っている。							

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
○	1小児歯科	○	2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	形成外科	2	病理診断科	3	リハビリテーション科	4	感染症内科	5	
6		7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
41	0	0	0	772	813

(単位: 床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	299	344.8	643.8
歯科医師	111	145.1	256.1
薬剤師	73	0	73
保健師	0	0	0
助産師	30	0.7	30.7
看護師	1007	15.4	1022.4
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	36	2.4	38.4
管理栄養士	12	0.5	12.5

職種	員数
看護補助者	68
理学療法士	27
作業療法士	9
視能訓練士	8
義肢装具士	0
臨床工学士	41
栄養士	0
歯科技工士	26
診療放射線技師	61

職種	員数	
診療エックス線技師	0	
臨床検査	臨床検査技師	101
	衛生検査技師	0
	その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0	
医療社会事業従事者	10	
その他の技術員	41	
事務職員	291	
その他の職員	0	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	63	眼科専門医	5
外科専門医	34	耳鼻咽喉科専門医	8
精神科専門医	9	放射線科専門医	7
小児科専門医	14	脳神経外科専門医	7
皮膚科専門医	1	整形外科専門医	12
泌尿器科専門医	8	麻酔科専門医	9
産婦人科専門医	10	救急科専門医	7
		合計	194

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (内田 信一) 任命年月日 令和 4 年 4 月 1 日

H28.4.1から病院長就任前のR2.3.31までは医療安全担当の副病院長として医療安全管理委員会への出席や、レベル3b以上の事例及び死亡退院事例検証会の検証結果の報告を受ける等、院内の医療安全管理に携わり、R2.4.1～ 医療安全管理委員会委員長として関わっている。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	449.4 人	29.9 人	479.3 人
1日当たり平均外来患者数	1974.4 人	1286.4 人	3260.8 人
1日当たり平均調剤数	外来:261.1 入院:805.8		剤
必要医師数	155		人

必要歯科医師数	4	人
必要薬剤師数	16	人
必要(准)看護師数	349	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数		心電計	
集中治療室	249 m ²	SRC(一部S)	12 床	有	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	210	m ²	病床数	17 床
	[移動式の場合]	台数		台		
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積		41		m ²
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	611 m ²	SRC(一部S)	(主な設備)	検体検査自動分析装置一式、検体検査情報システム一式		
細菌検査室	104 m ²	SRC(一部S)	(主な設備)	同定・感受性分析装置一式、細菌検査情報システム一式		
病理検査室	544 m ²	SRC(一部S)	(主な設備)	病理標本作製システム一式		
病理解剖室	54 m ²	SRC(一部S)	(主な設備)	緩衝ホルマリン作成装置一式、病理解剖撮影システム一式		
研究室	949 m ²	SRC(一部S)	(主な設備)	高速液体クロマトグラフィー式		
講義室	0 m ²	SRC(一部S)	室数	室	収容定員	人
図書室	65 m ²	SRC(一部S)	室数	2 室	蔵書数	冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	81.0	%	逆紹介率	56.6	%
算出根拠	A: 紹介患者の数		22743		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		17291		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		2010		人
	D: 初診の患者の数		30524		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況

中島 勸	埼玉医科大学総合医療センター 医療安全管理学 教授	○	埼玉医科大学総合医療センター医療安全管理学教授として、医療安全に対し豊富な経験と知識を有している。	無	1
児玉 安司	新星総合法律事務所 弁護士 国立がん研究センター 理事 医師		医療安全の問題に取り組むなど、医学及び法学の立場から幅広い視野視点を有し、医療安全に関し精通している。	無	1
豊田 郁子	NPO法人 架け橋 理事長		患者・家族と医療をつなぐNPO法人架け橋理事長として、患者・家族と医療従事者のより良い関係の促進やコミュニケーションに関する豊富な知見を有している。	無	2
福田 桂子			看護業務や地域医療、療養生活支援等に対し豊富な経験と知識を有している。	無	3
木津喜 雅	本学東京都地域医療政策学 講座 准教授		東京都における地域医療政策に対し豊富な経験と知識を有している。	有	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
本学及び本院のHPに掲載。	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	同種造血幹細胞移植	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 造血器腫瘍、難治性造血器疾患に対する同種造血幹細胞移植治療			
医療技術名	CAR-T療法(キメラ抗原受容体発現T細胞療法、チサゲンレクルユーセル)	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 患者自身のTリンパ球を用いて、腫瘍細胞の表面の抗原(CD19)を認識するキメラ抗原受容体を発現させ改変する技術。難治性急性リンパ性白血病またはびまん性大細胞型B細胞リンパ腫に対する免疫療法の一つ。			
医療技術名	治療抵抗性の多発性筋炎・皮膚筋炎に対するリツキシマブの使用	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 既承認薬が無効の難治性病態であり、世界各国の最新知見に基づき、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	治療抵抗性のSLE、皮膚筋炎/多発性筋炎、成人発症スナル病、血管炎症候群、全身性強皮症に対するミコフェノール酸モフェチルの使用	取扱患者数	25
当該医療技術の概要 既承認薬無効の難治性病態であり、世界各国より発出されている本剤の有効性を示唆する学術報告に基づき、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	治療抵抗性の全身性エリテマトーデスに対するリツキシマブの使用	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 既承認薬無効の難治性病態であり、当該薬は有効性が世界で評価されているものの開発が困難な状況が確認されているため、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	治療抵抗性の関節リウマチに対するリツキシマブの使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬での治療困難な難治性病態であり、当該薬は世界的には公知の治療薬であるいっぽう本邦では開発要望に対して現時点では承認見込みが立っていないことから、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	治療抵抗性の特発性好酸球増多症候群に対するヒドロキシカルバミドの使用	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 きわめて希少疾病であり保険承認された治療薬がほとんど存在しないため、海外等の学術論文等に基づき、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	治療抵抗性の高安静脈炎に対するインフリキシマブの使用	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取り扱い患者数の合計(人)	51

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	治療抵抗性の多発性筋炎・皮膚筋炎に対するアバタセプトの使用	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	TAFRO症候群に対するリツキシマブの使用	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 きわめて希少疾病であり保険承認された治療薬がほとんど存在しないため、海外等の学術論文等に基づき、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	TAFRO症候群に対するリツキシマブとトシリズマブの併用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 きわめて希少疾病であり保険承認された治療薬がほとんど存在せず、難治性の病態であるため、海外等の学術論文等に基づき、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	自己免疫性溶血性貧血に対するリツキシマブの使用	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	成人発症スティル病に対するトシリズマブの使用	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 既承認薬無効の難治性病態であり、本剤は当時開発中であつたが治験参加基準対象外の患者であつたため、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	治療抵抗性の全身性強皮症に対するトシリズマブの使用	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	TNF受容体関連周期性症候群 (TRAPS) に対するエタネルセプトの使用	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 きわめて希少疾病であり保険承認された治療薬がほとんど存在しないため、海外等の学術論文等に基づき、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	エルドハイムチェスター病に対するペガシス(ペグインターフェロンアルファ2a)の使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 きわめて希少疾病であり保険承認された治療薬がほとんど存在しないため、海外等の学術論文等に基づき、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	8

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	治療抵抗性の乳び胸水、乳び腹水に対するサンドスタチン注の使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	コンコトーム筋生検	取扱患者数	11
当該医療技術の概要 現在主流となっている開放筋生検よりも低侵襲で実施できる筋生検法であり、皮膚筋炎・多発性筋炎の診断における有用性が示されており、カリンスカ医科大学にて技術習得し医学部倫理審査委員会の承認を得て実施している。			
医療技術名	治療抵抗性のベーチェット病に対するトシリズマブの使用	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認新規医薬品等評価委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	A20ハプロ不全症に対するアダリムマブの使用	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 きわめて希少疾病であり保険承認された治療薬がほとんど存在しないため、海外等の学術論文等に基づき、当院が設置している未承認新規医薬品等評価委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	A20ハプロ不全症に対するゴリムマブの使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 きわめて希少疾病であり保険承認された治療薬がほとんど存在しないため、海外等の学術論文等に基づき、当院が設置している未承認新規医薬品等評価委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	治療抵抗性の家族性地中海熱に対するヒドロキシクロロキンの使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	治療抵抗性の高安動脈炎に対するトファチニブの使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	治療抵抗性の石灰沈着症に対するトファチニブの使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	19

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	原発性抗リン脂質症候群に対するヒドロキシクロロキンの使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	ステロイド及び免疫抑制剤に治療抵抗性の好酸球性多発血管炎性肉芽腫に対するリツキシマブの使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	キャッスルマン病/TAFRO症候群に対するトシリズマブ(アクテムラ)皮下注射の使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	T細胞の異常活性化を伴う自己免疫性疾患に対するアバタセプトの使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	再発性多発軟骨炎に対するゼルヤンツの使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	特発性心外膜炎に対するアダリムマブの使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	治療抵抗性の高安動脈炎に対するリツキシマブの使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	治療抵抗性の多発性筋炎・皮膚筋炎に対するウステキヌマブの使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、治験による実薬を含めたウステキヌマブの投与が有効であった。治験終了に伴い、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	8

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	再発性多発軟骨炎に対するゴリムマブの使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	パーチェット病に対するリツキシマブの使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	血球貪食症候群に対するフィルゴチニブの使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	CSII(インスリンポンプ療法)/SAP(Sensor Augmented Pump)療法	取扱患者数	20
当該医療技術の概要 電動式携帯ポンプにより可変的かつ持続的に皮下にインスリンを注入する治療			
医療技術名	副腎静脈サンプリング	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 左右の副腎静脈より採血してアルドステロン濃度を測定することで、原発性アルドステロン症の責任病変を同定する検査(放射線科と共同で施行)			
医療技術名	選択的動脈内カルシウム注入試験(SACI試験)	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 腹部動脈よりカルシウムを注入して肝静脈のホルモン濃度の変化を検査することで、内分泌腫瘍の責任病変を同定する検査(放射線科と共同で施行)			
医療技術名	難治性内分泌疾患に対する薬物療法	取扱患者数	427
当該医療技術の概要 先端巨大症、プロラクチン産生腫瘍、原発性副甲状腺機能亢進症、クッシング症候群、副腎不全、性腺機能低下などの難治性内分泌疾患に対する専門的な薬物治療			
医療技術名	診断困難症例の診断	取扱患者数	60
当該医療技術の概要 他の医療機関で診断が不明で紹介された症例について診察し、最終的に診断することができた。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
扱い患者数の合計(人)	520

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	MR enterocolonography (MREC)	取扱患者数	300
当該医療技術の概要 前処置および撮影方法の工夫により、一回の検査で小腸および大腸を同時に評価するMR検査。主な適応疾患はクローン病			
医療技術名	シングルバルーン胆道内視鏡 (SBERC)	取扱患者数	30
当該医療技術の概要 ダブルバルーン内視鏡により、通常の方法では到達が困難な術後などの症例に対し胆道鏡を行う。			
医療技術名	シングルバルーン内視鏡による外来小腸内視鏡検査	取扱患者数	212
当該医療技術の概要 入院せず外来で、経肛門的にシングルバルーン内視鏡を挿入し、低侵襲に小腸を検査する。			
医療技術名	内視鏡的小腸狭窄拡張術	取扱患者数	39
当該医療技術の概要 深部小腸の狭窄に対し外科的手術を回避し低侵襲に内視鏡的に治療を行う。			
医療技術名	Nudix hydrolase 15 (NUDT15) 遺伝子codon139の遺伝子多型検査	取扱患者数	350
当該医療技術の概要 炎症性腸疾患の治療におけるチオプリン製剤の重篤な副作用の予測に有用なNUDT15 (Nudix Hydrolase 15) 遺伝子多型を検出することにより、チオプリン製剤による治療選択を補助し、最適な治療法の提供や医療費の適正化に貢献する。			
医療技術名	C型肝炎ウイルスの遺伝子解析による薬剤耐性変異検査	取扱患者数	50
当該医療技術の概要 C型肝炎に対する抗ウイルス療法への耐性を規定するC型肝炎ウイルス変異を測定し、高精度の治療効果予測を行う。			
医療技術名	総合的な非侵襲的肝線維化・脂肪化診断に基づく個別化診療	取扱患者数	1200
当該医療技術の概要 複数の非侵襲的肝線維化診断法・脂肪評価法を駆使した病態リスク評価に基づく個別化医療。			
医療技術名	画像支援システムを駆使した肝癌ラジオ波治療	取扱患者数	100
当該医療技術の概要 総合画像診断と造影超音波および画像ナビゲーションシステムを駆使した肝癌局所療法。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
扱い患者数の合計(人)	2281

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	造血幹細胞移植	取扱患者数	11
当該医療技術の概要 同種骨髄、末梢血幹細胞、臍帯血を移植することにより、難治性白血病や、遺伝子異常に起因する先天性免疫不全症の根治治療をする。原発性免疫異常症に対する移植は、白血病に対する移植と異なり、様々な合併症があり難易度の高い移植である。また家族内ドナーからのHLA半合致移植も行っている。また、小児悪性軟部肉腫に対する大量化学療法・自家末梢血幹細胞採取も行っている。			
医療技術名	TCRabCD19除去移植	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 DNA損傷応答機構に異常を有し、放射線感受性を有する免疫不全症の移植には、HLA半合致移植のGVHD予防に大量のシクロフォスファミドを用いることができない。また重篤な感染症を有し、移植まで急ぐケースではGVHDを生じうるT細胞をあらかじめ除去したTCRabCD19除去移植が欧米を中心に行われている。本法は、輸血部との連携は必須であり、除去装置の取り扱いを習得する必要がある。			
医療技術名	小児リウマチ性疾患に対する、標的治療薬による治療	取扱患者数	50
当該医療技術の概要 リウマチ性疾患および自己炎症性疾患は小児疾患の中でもまれであるが、難病指定されている疾患である。現在使用されている3種類の標的治療薬(抗IL-1抗体、抗IL-6製剤、抗TNF製剤)の静注薬あるいは皮下注製剤を病態に応じて、治療を行っている。従来の治療薬では改善が見込めなかった患者に対して適宜使用することによって、極めて高い寛解を図ることが可能となっている。			
医療技術名	肺動脈性肺高血圧症に対する標的治療薬による治療	取扱患者数	12
当該医療技術の概要 小児肺高血圧症の中でも、肺動脈性肺高血圧症はその大部分を占め予後不良であり難病指定されている。近年、肺高血圧症の新規標的治療薬の開発が進み予後は大幅に改善しているが、エボプロステノールの持続皮下注射の導入や管理、エコーやカテーテル検査による適切な評価と方針の決定などを行える施設は限られている。特に小児の重症肺高血圧症の専門治療を行える施設は非常に少ない。			
医療技術名	長時間ビデオ脳波同時記録	取扱患者数	40
当該医療技術の概要 てんかん治療の進歩(外科治療など)に伴い、てんかん発作型の詳細な解析が重要性を増している。そのための最も標準的な方法はデジタル脳波計を用いて数時間～数日に及ぶ長時間ビデオ脳波同時記録を行うことであるが、小児においては記録・判読共に熟練を要し、施行可能な医療機関は限られている。			
医療技術名	先天性副腎皮質酵素欠損症(先天性副腎過形成:CAH)および性分化疾患の遺伝学的検査を含めた包括的な診断および治療	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 先天性副腎皮質酵素欠損症(先天性副腎過形成:CAH)および性分化疾患は、多くの細分化された病型があり、その治療法の選択は病型によっても異なる。さらに性分化疾患では正確な病態把握以外に、社会的性決定という特殊かつ高度な医療社会的判断を必要とする。当院では、これらに対し、遺伝学的手法を利用した包括的かつ正確な診断を行い、それに基づいた社会的性決定およびそれらに基づく治療の提供を行っている。			
医療技術名	難治性ネフローゼ症候群に対する分子標的薬療法	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 難治性ネフローゼ症候群は、通常免疫抑制剤であるシクロスポリンやミゾリピンでは、寛解を維持できない疾患である。このような上記疾患に対して分子標的薬(リツキシマブ)は、近年有効であることが示されたものであるが、顕著なInfusion reactionを呈することや、投与後一定期間Bリンパ球が枯渇することに伴うカリニ肺炎や、発熱性好中球減少性や白質脳炎出現の危険性が伴うため、薬剤の特性を熟慮した医師が、十分な注意をしつつ投与する必要がある。当院では、年4-5例程度であるが、5年以上の期間、この薬剤投与の経験を有しており、安全に投与することが可能である。			
医療技術名	小児に対する急性血液浄化療法	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 急性血液浄化療法は、急性の機能不全、または慢性機能不全の急性増悪に陥った臓器に対する機能補助、もしくはサイトカインや抗体などの各種成分の除去を目的とした体外循環による治療である。小児ではその特性として、循環血液量が少ないため血行動態の変動が大きく危険性が高いこと、そのために1ml単位の細かな管理が必要であること、血管が細くブラッドアクセスの確保が困難であること、から高い専門技術を必要とする。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の数	8
取扱い患者数の合計(人)	125

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	新生児遷延性肺高血圧に対する一酸化窒素吸入療法	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 新生児遷延性肺高血圧症に対する一酸化窒素吸入療法は、血管拡張作用のある一酸化窒素ガスを直接肺に吸入することにより、肺血管抵抗を下げて、循環動態を改善させる治療法である。他の薬剤療法と比べ、体血圧には影響を与えず肺動脈のみを選択的に拡張させることが利点であり、比較的安全に施行可能であるが、血小板機能障害やメトヘモグロビン血症などの副作用に注意して行う必要がある。			
医療技術名	再発・難治急性リンパ性白血病に対するCAR-T「キムリア」療法	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 本治療法は、遺伝子組換えレンチウイルスベクターを用いて、CD19を特異的に認識するキメラ抗原受容体(CAR)発現遺伝子を患者由来のT細胞に導入した再生医療等製品である。非常に予後不良であった再発難治B細胞型急性リンパ性白血病に対して、多くの症例において単回投与で長期寛解を維持できるなど、画期的な結果が得られている。CAR細胞療法は、サイトカイン放出症候群や中枢神経合併症など、時にICU管理を必要とする治療合併症が知られており、副作用が発現した際に集中治療を含めた必要な対応をとることができるよう、院内多職種連携のもと本治療が行われている。			
医療技術名	脊髄性筋萎縮症に対する核酸医薬品「ヌシネルセン」髄注	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 本治療法は、脊髄性筋萎縮症において、SMN2を標的として機能性SMN蛋白の産生を増加させる核酸医薬品である。今まで根本的治療のなかった本疾患に対し、画期的な効果が得られている。投与経路は髄注であり、投与にあたっては患者の神経学的評価を並行して行うことが必要である。当院は脊髄性筋萎縮症の診療経験を有しており、安全に適切に投与することが可能である。			
医療技術名	脊髄性筋萎縮症に対する遺伝子治療薬「オナセムノゲン アベパルボベク」	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 本治療法は、脊髄性筋萎縮症に対する遺伝子治療薬であり、有効性は非常に高い。アデノ随伴ウイルス9型のベクター製品であり、カルタヘナ法を遵守した投与が必要となる。また投与後の長期的なフォローも重要である。当院は脊髄性筋萎縮症の診療経験を有しており、またカルタヘナ法に対応した投与体制が整っており、安全に投与することが可能である。			
医療技術名	重症原発性免疫不全症に対するTREC,KREC測定	取扱患者数	2290
当該医療技術の概要 本検査法は、原発性免疫不全症の中でもT細胞、B細胞欠損症に対するスクリーニング検査として、その有効性は非常に高い。現在新生児スクリーニングに向けて、実用化が進められているが、他の免疫異常症に対する免疫能の簡便な検査として、保険適用を目指し開発中であり、免疫異常症患者等で検査を行った。			
医療技術名	マルチカラーフローサイトメーターを用いた原発性免疫異常症、造血細胞移植後などに対するリンパ球解析	取扱患者数	385
当該医療技術の概要 本検査法は、マルチカラーのフローサイトメーターを用いて、少量の血液で、非常に詳細なリンパ球分化について解析可能な方法であり、有効性は非常に高い。免疫異常症および造血細胞移植後の免疫系の再構築の評価のため、多数例の検討を行った。			
医療技術名	クロザピンによる治療抵抗性統合失調症患者の治療	取扱患者数	11
当該医療技術の概要 従来の抗精神病薬に抵抗する難治性症状のため不安定な状態が続く統合失調症患者に対し、クロザピンによる治療を行う。クロザピンは、治療効果が高い反面、無顆粒球症、心筋障害、耐糖能異常等の副作用を引き起こし重症化し易い問題があるため、所定の講習を得た登録医により、血液内科・循環器内科・糖尿病・内分泌・代謝内科・薬剤部の協力体制が確立している限定された施設でのみ実施が許可されている。			
医療技術名	修正型電気けいれん療法による難治性精神疾患の治療	取扱患者数	21
当該医療技術の概要 薬物療法に抵抗する難治性のうつ病、双極性障害、統合失調症、口腔内セネストパチー、器質性精神疾患等を対象として、手術室において麻酔科による全身麻酔の管理のもとで、前頭部に電極を装着し、矩形波出力型のパルス浪通電装置を用い、脳への通電を行う。けいれんを生じさせず、副作用のリスクを低減した方法であり、修正型と呼ばれ、全身麻酔管理のできる施設と医師を要する高度な医療である。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	2710

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	ロボット支援下胃切除術	取扱患者数	43
当該医療技術の概要 手術支援ロボット「ダビンチ・Xi」と「ダビンチ・X」を用いた胃切除術を行っている。手術支援ロボットの特長である、自然な3D画像、多関節機能、手振れのない手術操作により、従来の腹腔鏡手術と比較し、より精細な手術を行うことが可能となっている。術式は幽門側胃切除術、胃全摘術、噴門側胃切除術を施行している。			
医療技術名	腹腔鏡下大腸全摘術	取扱患者数	9
当該医療技術の概要 潰瘍性大腸炎の手術治療(大腸全摘)は、全身状態不良な患者が多く、時には緊急手術を要する場合があります、手術侵襲も高いことから高難度である。さらに腹腔鏡下大腸全摘術は手技の定型化が確立されておらず特に難易度が高い。一方で、腹腔鏡手術が完遂できた場合は、その手技の低侵襲性から術後回復は比較的速やかである。この腹腔鏡下手術を積極的に取り入れ、緊急下においても安全に施行し得ている。			
医療技術名	骨盤内臓器全摘術、ロボット支援下腹腔鏡下骨盤内臓器全摘術	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 他臓器浸潤を伴うような高度進行直腸癌患者や直腸癌術後骨盤内局所再発患者に対する根治手術として骨盤内臓器全摘術が適応になることがあるが、腸管切除のみではなく泌尿生殖器臓器の合併切除と再建(人工肛門および回腸導管)が必要であり、高難度の術式である。中でも再発患者に対する手術については前手術の影響があり難易度がさらに上がる。			
医療技術名	ロボット支援下腹腔鏡下直腸切除手術	取扱患者数	72
当該医療技術の概要 従来、開腹手術や腹腔鏡下手術で行ってきた直腸癌に対する前方切除術を手術支援ロボットを用いて行っている。ロボット支援下手術は、ロボットの特性や利点欠点を熟知した上で扱う必要があり、その特徴を最大限に活かすことによって、機能温存を保ちつつ確実な直腸癌根治術が可能となる。			
医療技術名	ロボット支援下腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	取扱患者数	17
当該医療技術の概要 本邦においては保険未収載であり、多くの症例は開腹手術もしくは腹腔鏡下手術で行われている結腸悪性腫瘍切除術を手術支援ロボットを用いて行っている。手術支援ロボットの特性を活かして、腔内での腸管切除と再建を行い、より低侵襲で安全性の高い手術を実施することが可能となっている。			
医療技術名	乳癌における皮下乳腺全摘と腹部穿通枝脂肪弁を用いた同時再建	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 乳癌手術では、乳房皮膚を温存し全乳腺を切除する。その全乳腺の代用として腹部の脂肪を遊離移植(マイクロを用いた血管吻合あり)し、乳癌手術と同時に再建を行う。(形成外科との協力)			
医療技術名	遺伝性乳癌卵巣がん症候群の方に対する予防的乳房切除	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 遺伝科や婦人科と共同で診療にあたり、BRCA遺伝子変異が認められた方に行われる、高い倫理性が求められる手術である。			
医療技術名	腹腔鏡下肝切除術	取扱患者数	40
当該医療技術の概要 開腹手術ではなく腹腔鏡手術下に肝切除を行なう。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	191

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	腹腔鏡下腓体尾部切除術	取扱患者数	20
当該医療技術の概要 開腹手術ではなく腹腔鏡手術下に腓体尾部切除を行なう。			
医療技術名	腹腔鏡下腓頭十二指腸切除術	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 開腹手術ではなく腹腔鏡手術下に腓頭十二指腸切除を行なう。			
医療技術名	ロボット支援下腓体尾部切除術	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 開腹手術ではなくロボット支援下に腓体尾部切除を行なう。			
医療技術名	ロボット支援下腓頭十二指腸切除術	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 開腹手術ではなくロボット支援下に腓頭十二指腸切除を行なう。			
医療技術名	難治性てんかんに対する迷走神経刺激	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 薬剤コントロール困難な難治性てんかん症例において、手術で迷走神経刺激装置を埋め込むことで発作を緩和する			
医療技術名	術中脳波、ナビゲーションシステム等マルチモダリティによるてんかん焦点切除	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 てんかん症例において、手術中に脳波、PETガイド、MRIナビゲーションを使用することでより効果的で安全性の高い焦点切除術を遂行する			
医療技術名	頭頸部および頭蓋底の腫瘍に対する手術	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 脳神経外科、頭頸部外科、形成外科、耳鼻咽喉科の医師がチームとして頭頸部、頭蓋底部、ないしはその両方にまたがる腫瘍症例の摘出術を遂行する			
医療技術名	Met-PETガイド悪性脳腫瘍摘出術	取扱患者数	20
当該医療技術の概要 手術前に施行したアミノ酸代謝PETにおける結果(アミノ酸の悪性腫瘍細胞への取り込み)をもとに、適切な手術範囲の計画や手術中のガイド(摘出部位、摘出範囲)に役立てる			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取り扱い患者数の合計(人)	82

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	非造影MRIによるASL perfusion MRI	取扱患者数	250
当該医療技術の概要 脳虚血性疾患(頭蓋内動脈狭窄/閉塞症、頸動脈狭窄/閉塞症、もやもや病、など)において、造影剤を使用することなく非侵襲に脳循環動態を計測することができる			
医療技術名	治療困難な脳動脈瘤に対するFlow diverterステント留置術	取扱患者数	19
当該医療技術の概要 通常のコイル塞栓術(ステント併用を含む)では治療困難な脳動脈瘤に対して、動脈瘤内にコイルを留置することなく下記のステントとは全くことなるflow diverterステントのみを留置して動脈瘤を閉塞する新たな治療法。術者と実施施設が限定された治療法のため他の脳神経外科施設から治療依頼がある。			
医療技術名	硬膜動静脈瘻に対する塞栓術	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 稀少な疾患、かつ重篤化する可能性のある硬膜動静脈瘻に対し、脳血管造影による適切な診断を基に、適切な治療法を決定する。血管内治療が可能な症例については、カテーテルを用いて「コイル」や「液体塞栓物質」を用いて標的血管をつめる治療を行う。			
医療技術名	膝前十字靭帯再建術	取扱患者数	42
当該医療技術の概要 関節鏡視下に解剖学的に前十字靭帯を再建する。			
医療技術名	膝複合靭帯損傷	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 膝複合靭帯損傷に対し鏡視下に靭帯を再建する。			
医療技術名	両側同時人工膝関節置換術	取扱患者数	37
当該医療技術の概要 人工膝関節置換術を両側同時に施行する。			
医療技術名	半月板逸脱に対する関節鏡視下手術	取扱患者数	139
当該医療技術の概要 関節鏡視下に骨棘切除、関節包解離の後逸脱した半月板をアンカーを用いて内方化する。また軟骨欠損に対する処置も併せて行う。			
医療技術名	初期変形性膝関節症に対する膝周囲骨切り術	取扱患者数	87
当該医療技術の概要 大腿骨・脛骨を骨切りし、変形した膝関節のアライメントを矯正する。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	587

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	脊髄誘発磁界測定による脊髄機能診断	取扱患者数	60
当該医療技術の概要 脊髄の電気活動が発生するごく微弱な磁界を測定し、脊髄機能を体表面から診断する技術。			
医療技術名	経頭蓋電気刺激筋誘発電位を用いた術中脊髄・末梢神経機能モニタリング	取扱患者数	125
当該医療技術の概要 脳を経頭蓋電気刺激し四肢の筋より筋誘発電位を測定することで、全身麻酔手術中に脊髄や末梢神経の機能をモニタリングし、安全に脊椎手術をおこなう技術。			
医療技術名	人工骨と自己骨髄血を用いた、骨採取の必要のない脊椎固定術	取扱患者数	28
当該医療技術の概要 脊椎固定術をハイドロキシアパタイト/コラーゲン人工骨および自己骨髄血を用いてを行うことで、術後の採骨部痛を起こさない技術。			
医療技術名	術中CTナビゲーションを使用した脊椎手術	取扱患者数	54
当該医療技術の概要 脊椎手術中にCT撮影を行うことで、除圧やスクリュー刺入の精度を高めたより安全な手術をおこなう技術。			
医療技術名	一期的両側人工股関節置換手術	取扱患者数	11
当該医療技術の概要 人工股関節置換手術を一度の麻酔のもとで、左右同日に行い、術後早期の回復と入院期間短縮を可能にする			
医療技術名	表面筋電図を用いた脊椎後弯症患者の痛みの客観的評価	取扱患者数	9
当該医療技術の概要 脊椎後弯症患者の疲労性腰痛を表面筋電図の波形を用いて客観的に分析評価する技術			
医療技術名	腫瘍脊椎骨全摘術	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 脊椎に存在する腫瘍を一塊として摘出する手術。			
医療技術名	神経機能モニタリング下の人工股関節置換手術	取扱患者数	15
当該医療技術の概要 下肢延長を伴う人工股関節置換手術において、下肢末梢神経延長に伴う麻痺を防止する技術			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の数	8
扱い患者数の合計(人)	305

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	原発性無汗症に対するステロイドパルス療法	取扱患者数	140
当該医療技術の概要 汗が出ないことにより、日常生活の行動に制限が出てしまう疾患で、指定難病であるが、それらの症例に対してステロイドパルス療法をしようすることによって良好な結果を得ている。			
医療技術名	原発性無汗症に対する発汗検査	取扱患者数	106
当該医療技術の概要 汗が出ないことにより、日常生活の行動に制限が出てしまう疾患で、指定難病であるが、それらの症例の診断に必須である発汗検査を行い、上記のステロイドパルス療法へ繋げている。			
医療技術名	悪性黒色腫に対する免疫療法	取扱患者数	9
当該医療技術の概要 抗PD-1抗体や抗CTLA4抗体を使用した新規の免疫療法を悪性黒色腫に対して行い、良好な経過を得ている。			
医療技術名	悪性黒色腫に対する分子標的療法	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 BRAF阻害剤・MEK阻害剤を使用した新規の分子標的療法を悪性黒色腫に対して行い、良好な経過を得ている。			
医療技術名	難治性痒疹患者のNB-UVB療法	取扱患者数	58
当該医療技術の概要 難治性痒疹は通常の外用療法ではなかなかコントロールが難しい。そのような症例に対して、narrow band UVBを照射するという治療を行っており、良好な結果を得ている。			
医療技術名	重症アトピー性皮膚炎のNB-UVB療法	取扱患者数	47
当該医療技術の概要 重症アトピー性皮膚炎の加療は、ガイドラインで示される通常の外用、内服療法ではなかなかコントロールが難しい。そのような症例において、narrow band UVBを照射するという治療を併用しており、良好な結果を得ている。			
医療技術名	重度アトピー性皮膚炎に対する生物学的製剤療法	取扱患者数	56
当該医療技術の概要 重症アトピー性皮膚炎の加療は、ガイドラインで示される通常の外用、内服療法ではなかなかコントロールが難しい。そのような症例において、新規生物学的製剤を併用しており、良好な結果を得ている。			
医療技術名	重度アトピー性皮膚炎に対するJAK阻害薬投与	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 重症アトピー性皮膚炎の加療は、ガイドラインで示される通常の外用、内服療法ではなかなかコントロールが難しい。そのような症例において、新規JAK阻害薬を併用しており、良好な結果を得ている。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
扱い患者数の合計(人)	420

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	重症乾癬に対する生物学的製剤療法	取扱患者数	103
当該医療技術の概要 乾癬は慢性に経過する炎症性皮膚疾患の代表的なものである。重症な本疾患に対して、生物学的製剤の投与が保険適応となった。当科においても重症例に対して使用しており、良好な効果を得ている。			
医療技術名	自己免疫性水疱症に対する免疫抑制療法	取扱患者数	800
当該医療技術の概要 自己免疫性水疱症(尋常性天疱瘡、水疱性類天疱瘡など)は、皮膚科で入院を要する疾患の代表的なものであり、指定難病である。当科においても入院下にて高用量ステロイドや免疫抑制剤、大量ガンマグロブリン療法、血漿交換療法などを施行し、良好な効果を得ている。			
医療技術名	Stevens-Johnson症候群・中毒性表皮壊死症に対する免疫抑制療法	取扱患者数	80
当該医療技術の概要 Stevens-Johnson症候群・中毒性表皮壊死症は、致死的で後遺症を残す重症薬疹であり、指定難病である。当科においても入院下にて高用量ステロイドや免疫抑制剤、大量ガンマグロブリン療法、血漿交換療法などを施行し、良好な効果を得ている。			
医療技術名	神経線維腫症1型に対する診察	取扱患者数	234
当該医療技術の概要 神経線維腫症1型は遺伝性疾患で、指定難病である。当科では、診断を皮膚科的診察で行い、適宜、合併症検索と腫瘍切除術を行っている。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除	取扱患者数	56
当該医療技術の概要 手術支援ロボット(da Vinciサージカルシステム)を用いた腹腔鏡下前立腺全摘除である。現在では標準術式としてほぼ確立しており、本邦でも前立腺全摘除の80%以上が本術式で行われているとされているが、比較的難易度の高い手術であり、十分なトレーニングを積み、Certificateを受けた者のみが術者として執刀する形となっている。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下膀胱全摘除	取扱患者数	16
当該医療技術の概要 手術支援ロボット(da Vinciサージカルシステム)を用いた腹腔鏡下膀胱全摘除である。手術侵襲を低減するべく、本邦でも普及が進んできている手術である。比較的難易度の高い手術であり、十分なトレーニングを積み、Certificateを受けた者のみが術者として執刀する形となっている。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下腎部分切除	取扱患者数	15
当該医療技術の概要 小径の腎腫瘍の多くは腎部分切除の適応となる。手術支援ロボット(da Vinciサージカルシステム)を用いた腹腔鏡下腎部分切除はその低侵襲性から標準術式となりつつあり、術中腎血流遮断時間の短縮や出血の低減、疼痛の軽減、入院期間の短縮などを可能としている。難易度は比較的高い手術であり、十分なトレーニングを積み、Certificateを受けた者のみが術者として執刀を行っている。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下仙骨腔固定術	取扱患者数	11
当該医療技術の概要 骨盤臓器脱に対する外科治療において、高い有効性や安全性から腹腔鏡下仙骨腔固定術は世界的な標準治療として広く普及していた。腹腔鏡下仙骨腔固定術にとって高難度の操作性が欠点であったが、内視鏡手術用支援ロボットの導入により克服され、今後ますます普及すると考えられる。当院では泌尿器科・婦人科合同のロボット支援腹腔鏡下仙骨腔固定術チームを結成し、より綿密な治療を提供できる体制を整えており、近隣の泌尿器科・婦人科より多くの紹介を受けている。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	1315

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	ミニマム創内視鏡下手術(腹腔鏡下小切開手術)	取扱患者数	48
当該医療技術の概要 ガスレス・シングルポート・後腹膜アプローチの低コストをみたく先端的低侵襲手術。対象臓器はすべての泌尿器科臓器(副腎・腎・尿管・膀胱・前立腺)。頭部装着型立体ディスプレイを用いたガスレス・シングルポート・ロボサージョン型手術を開発し、2011年途中より行っている。			
医療技術名	浸潤性膀胱癌の膀胱温存療法	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 浸潤性膀胱癌の標準的根治治療は膀胱全摘であるが、一部の患者では膀胱を摘出せずに完治可能であることが知られている。根治性を損なわずに膀胱温存が可能と判断される、転移のない浸潤性膀胱癌患者に対しては、低侵襲な集学的治療(低用量化学放射線療法+ミニマム創内視鏡下膀胱部分切除および骨盤リンパ節郭清)による膀胱温存療法を倫理委員会の承認のもとに行っている。			
医療技術名	腎癌の無阻血低侵襲腎部分切除術	取扱患者数	9
当該医療技術の概要 小径の腎腫瘍の多くは腎部分切除の適応となるが、通常は出血をコントロールする目的で術中に腎血流遮断が行われ、術後腎機能低下や仮性動脈瘤発生などのリスクがある。術後の腎機能を良好に保ち合併症を回避するために、腎血流を遮断しない術式を開発し、施行している。			
医療技術名	前立腺癌の前立腺部分治療	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 限局性前立腺癌の根治療法(前立腺全摘除、放射線療法)は治療による合併症やQOL低下を伴う場合がある。一方、積極的待機療法(無治療経過観察)も標準治療法の一つであるが、根治の機会を逃す可能性への不安を伴う場合も少なくない。十分な治療効果を持ち、かつ合併症の少ない治療法として、前立腺を部分的に治療する前立腺部分治療を適応を満たす患者に導入している。本治療は倫理委員会の承認のもとに行われている。			
医療技術名	MRI/経直腸超音波画像弾性融合前立腺針生検法	取扱患者数	131
当該医療技術の概要 高齢化社会において増加している前立腺癌の患者の診断をより正確に行うべく、前立腺針生検の検査前にMRIを施行し、電磁追跡型装置であるUroNav(InVivo社)を用いてMRI画像を生検時の経直腸超音波画像にリアルタイムで弾性融合させることにより、より精度の高い前立腺針生検を行うことを可能としている。従来超音波では検出不能とされている癌もMRI所見を融合させることにより十分検出可能となる。			
医療技術名	重度尿失禁患者に対する人工尿道括約筋埋込/交換	取扱患者数	11
当該医療技術の概要 男性の前立腺全摘術や経尿道的前立腺切除術に伴う尿道括約筋の損傷により、一定頻度で重度の尿失禁が引き起こされ、患者のQOLを著しく下げてしまう。従来治療抵抗性であったこれらの尿失禁に対して、人工尿道括約筋埋込術は現在根治的に尿失禁を改善できる保険適応のある唯一の方法とされる。当院は先進医療や保険に収載される前から本手術を行っており、日本でも有数の人工尿道括約筋埋込施設として全国から患者が集まってきている。			
医療技術名	間質性膀胱炎に対する膀胱水圧拡張	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 希少疾患である間質性膀胱炎は2015年より難病指定を受け(ハンナー潰瘍を伴うものに限る)、今後ようやく検査・治療が発展していくものと予想される。間質性膀胱炎に対する唯一の保険適応のある治療が膀胱水圧拡張であるが、当院では先進医療であった時期より積極的に本手術を行っており、現在もコンスタントに患者が集まってきている。			
医療技術名	下大静脈あるいは右心房までの浸潤を伴う腎癌に対する、根治的腎摘除および腫瘍塞栓摘除	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 腎癌においては、しばしば下大静脈、あるいは右心房にまで到達するような腫瘍塞栓を形成することがあり、治療としては、根治的腎摘除に加え、下大静脈あるいは右心房を切開し腫瘍塞栓を摘除する必要がある。本手術は、ときに体外循環を要するなど、術後管理も含め非常に高度な技術や知識を要求される。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	215

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	エクस्प्रेस インプラント 緑内障手術	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 緑内障手術。2012年5月に保険適用となった直径は380 μ m(0.38mm)、全長2.6mmの新しいインプラント装置であるEX-PRESSを眼球内に挿入し、安定かつ合併症の少ない安全な術後眼圧管理が可能になる			
医療技術名	多焦点眼内レンズを使用した白内障手術	取扱患者数	22
当該医療技術の概要 通常の白内障手術の単焦点レンズに加え、多重焦点レンズを使用する白内障手術。老眼の解消になり、多様化する患者のニーズに答えている。			
医療技術名	前房水PCRでの診断治療	取扱患者数	54
当該医療技術の概要 これまで原因不明であるぶどう膜炎に対して有用であり、診断がつくことで治療方針の決定に役立っている。			
医療技術名	側頭骨頭蓋底腫瘍の手術加療	取扱患者数	14
当該医療技術の概要 外耳道癌は100万人に一人とも言われるきわめて稀な疾患であり、その手術加療を行える施設は極めて限られる。当科では耳鼻咽喉科での外側側頭骨切除ならびに脳神経外科と共同での側頭骨垂全摘術を積極的に施行している。また、脳神経外科を主科として、頸静脈孔腫瘍の手術も施行している。その他の側頭骨頭蓋底腫瘍の手術も多数行っている。また最近では、外視鏡の導入や、OarmとStealthStationを用いた最先端の術中CTナビゲーションによる手術リスクの低減も行っている。COVID-19対応のための通常診療抑制により、症例数は制限された。			
医療技術名	人工内耳埋込術	取扱患者数	13
当該医療技術の概要 内耳障害により両側聾となった症例に対し、人工内耳埋込による聴覚の再獲得が可能となる。当科では本手術と術後の人工内耳のマッピングを継続して施行している。また、残聴保存型人工内耳や人工中耳、BAHAなどの埋込術も施行している。COVID-19対応のための通常診療抑制により、症例数は制限された。			
医療技術名	めまいの手術治療	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 メニエール病や遅発性内リンパ水腫に対する内リンパ嚢開放術、良性発作性頭位めまい症に対する半規管遮断術などめまいに対する内耳手術を施行している。COVID-19対応のための通常診療抑制により、症例数は制限された。			
医療技術名	4K内視鏡を用いた下経外耳道内視鏡下耳科手術	取扱患者数	60
当該医療技術の概要 低侵襲の経耳的内視鏡下耳科手術に最新の4K内視鏡を導入し、低侵襲かつ安全な手術を行っている。COVID-19対応のための通常診療抑制により、症例数は制限された。			
医療技術名	頭蓋底手術	取扱患者数	12
当該医療技術の概要 頭蓋内外にわたる領域の腫瘍性病変の手術は各専門科の連携と、高度の手術技術が必要である。高度な術後管理体制も必要とする。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
扱い患者数の合計(人)	186

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	経口的咽頭悪性腫瘍切除手術 (ELPS: Endoscopic Laryngo-Pharyngela surgery)	取扱患者数	24
当該医療技術の概要 咽頭表在癌に対する経口的切除術は、低侵襲治療として有用である。先進的な治療であり高度の医療技術が必要である。			
医療技術名	小児悪性腫瘍手術	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 小児悪性腫瘍の手術は各専門科の連携と、高度の手術技術が必要である。高度な術後管理体制も必要とする。			
医療技術名	頭頸部悪性腫瘍に対する化学放射線療法	取扱患者数	30
当該医療技術の概要 頭頸部癌に対する化学放射線療法は、高い効果が得られるが有害事象も多い。高度の治療管理技術と高度の管理体制の整備が必要である。			
医療技術名	再発転移頭頸部癌に対する光免疫療法	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 頭頸部がん専門医認定施設で頭頸部がん専門医のみ施行可能な治療である。分子標的薬を点滴投与翌日に患部に対して近赤外線を照射する治療。			
医療技術名	強度変調放射線治療	取扱患者数	199
当該医療技術の概要 限局性悪性腫瘍に対し照射野内の放射線強度を変調させながら照射する技術で、従来よりも照射標的の形状に一致した線量分布を得ることができる。			
医療技術名	定位放射線治療	取扱患者数	17
当該医療技術の概要 5cm以下の小さな腫瘍に対し、4D-CTを用いて呼吸状態などの体の生理的可動域を加味しながら、小さな照射標的に複数の狭小X線ビームを用いて短期間に大量の線量を照射する技術。			
医療技術名	小線源治療	取扱患者数	83
当該医療技術の概要 口腔癌および前立腺癌に対しては低線量率線源を用い、子宮や乳腺に対しては高線量率線源を用いて、患部に直接的に線源を挿入し、専用コンピュータを用いた線量評価を行いながら病変を直接照射する技術。			
医療技術名	神経筋疾患の遺伝子診断(厚生労働省 高度先進医療Aに該当)	取扱患者数	20
当該医療技術の概要 当科では、本学に受診された患者さんに必要な遺伝子診断を行っている。さらに、学外からの依頼も受けており、2020年度は20名の患者の遺伝子診断を行った。また、未診断疾患イニシアチブ Initiative on Rare and Undiagnosed Diseases (IRUD) の拠点病院としての役割も分担している。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
扱い患者数の合計(人)	379

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	脳表シデロシスに対する硬膜瘻孔閉塞術や鉄キレート剤デフェリブロン投与	取扱患者数	15
当該医療技術の概要 脳表へモジデリン沈着症は種々の原因で中枢神経系の軟膜下層にへモジデリンが沈着し、小脳障害、聴神経障害、嗅覚障害、脊髄障害などの中枢神経障害を引き起こす難病である。当院では、整形外科で硬膜瘻孔閉塞術、耳鼻科で人工内耳移植術、脳神経内科で鉄キレート剤投与によるへモジデリン除去療法の臨床治験を行っている。昨年度までに30例の瘻孔閉鎖術を施行し、鉄キレート剤の内服は15例(うち9例は内服終了)し、2例が近日中に開始予定で、人工内耳移植術は3例で施行され、それぞれ有益な結果が得られている。昨年度より、多施設共同研究を開始した。			
医療技術名	びまん性肺疾患に対するMDD診断	取扱患者数	50
当該医療技術の概要 びまん性肺疾患は稀少疾患を多く含み、診断が困難なことが多い。国際ガイドラインや本邦のガイドラインでは呼吸器専門医、胸部専門の放射線科医、肺病理専門の病理医の3者が合議し診断することが推奨されている(MDD(multidisciplinary discussion)診断)。日本呼吸器学会びまん性肺疾患学術部会ではMDD診断の普及を進めているが、3つの領域の専門医が揃っている施設は全国でも少ないのが現状である。当院では2020年にクライオバイオプシーを導入し以後2回/月の頻度でMDD診断を実施している。			
医療技術名	慢性過敏性肺炎疑い例に対する抗原回避試験	取扱患者数	40
当該医療技術の概要 過敏性肺炎は特発性肺線維症など複数のびまん性肺疾患と臨床経過、画像、病理所見とも酷似しており一般の呼吸器内科では診断が困難な疾患である。近年、国際的にも注目されている疾患であり2020年にはじめて国際ガイドラインが作成された。環境中の抗原が原因である過敏性肺炎では診断の要諦は環境と疾患との関連を明らかにすることであるが、当院では積極的に抗原回避試験(原因として疑わしい環境因子の除去や入院による改善の有無の評価)を実施し過敏性肺炎の鑑別を行っている。			
医療技術名	間質性肺炎合併肺癌に対する積極的な化学療法の実施	取扱患者数	30
当該医療技術の概要 間質性肺炎ではしばしば肺癌の合併がみられる。特発性肺線維症では5～30%が肺癌を合併、相対リスクが7～14倍と報告されている。進行例の場合は化学療法の適応だが、薬剤投与が契機となり間質性肺炎の急性増悪を発症するリスクがあることから薬物療法の選択は限られ、一般の呼吸器内科では治療困難と判断する場合が少なくない。当院では間質性肺炎の豊富な臨床経験を生かし、間質性肺炎合併肺癌に対し積極的に化学療法を実施している。			
医療技術名	マイクロサージャリー(皮弁、リンパ浮腫など)	取扱患者数	60
当該医療技術の概要 手術用顕微鏡を用いて、微小血管吻合、神経吻合やリンパ管静脈吻合を行い、遊離組織移植、知覚再建やリンパ浮腫に対する治療を行っている。			
医療技術名	穿通枝皮弁、その他の自家組織による乳房再建	取扱患者数	17
当該医療技術の概要 乳腺外科と協力して乳がん切除と乳房再建を実施している。各種の穿通枝皮弁などの自家組織では放射線科と協力しMDCTによる血管評価、3Dカメラを用いたシミュレーションを行っている。2021年10月より、第二種再生医療を用いた脂肪注入治療を開始した。			
医療技術名	頭蓋底再建	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 耳鼻咽喉科・頭頸部外科、脳神経外科とともに従来根治治療が困難であった頭蓋底部位に生じた腫瘍の切除・再建を行っている。			
医療技術名	赤外観察カメラシステムを用いた各種皮弁の血行評価、リンパ管走行評価	取扱患者数	51
当該医療技術の概要 より安全・確実に組織移植、リンパ管走行確認ができるように上記システムを利用した手術や研究を行っている。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
扱い患者数の合計(人)	271

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	虚血肢に対する集学的治療	取扱患者数	20
当該医療技術の概要 血管外科、放射線科、内科、皮膚科と協力して虚血のために通常であれば下肢を温存できない症例に対して血管内治療、バイパス治療、血管再生治療、遊離組織移植の技術を用いて、下肢を温存する治療を行なっている。			
医療技術名	顔面神経麻痺に対する動的及び静的再建・ボツリヌス毒素治療	取扱患者数	43
当該医療技術の概要 神経血管柄付き遊離筋弁移植、筋膜移植などを用いて笑いの再建、顔面对称性の獲得を行い、不全麻痺に対してはボツリヌス毒素治療により顔面对称性の獲得を行っている。			
医療技術名	多項目迅速ウイルスPCR法によるウイルス感染症の早期診断	取扱患者数	403
当該医療技術の概要 先進医療Aとして、血液中のウイルスDNAをPCR法を用いて定量することにより、造血幹細胞移植後の患者に合併するウイルス感染症の確定診断や治療効果判定に寄与した。			
医療技術名	ウイルスに起因する難治性の眼感染症患に対する迅速診断(PCR法)	取扱患者数	42
当該医療技術の概要 先進医療Aとして、眼房水中のウイルスDNAをPCR法を用いて定量し、眼ウイルス感染症の確定診断や治療効果判定に寄与した。			
医療技術名	新型コロナウイルスの変異株スクリーニングPCR検査	取扱患者数	832
当該医療技術の概要 新型コロナウイルスPCR検査の陽性例に対して、N501Y変異とE484K変異の有無を解析するPCR検査(解離曲線解析)を行い、多数の変異株を見出した。			
医療技術名	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)のPOT法による遺伝子型解析を用いた院内感染の解析	取扱患者数	105
当該医療技術の概要 細菌検査検体から検出されたMRSAからDNAを抽出し、遺伝子型を解析することで、同一病棟から検出された複数の患者からのMRSAが、院内感染によるものか、独立した感染かを識別した。			
医療技術名	血漿交換	取扱患者数	23
当該医療技術の概要 病因物質を含む血漿を廃棄し、それと同量の新鮮凍結血漿もしくはアルブミン溶液を補充する、まさしく血漿を交換する治療法である。難病を中心とした難治性自己免疫性疾患(例:血栓性血小板減少性紫斑病、重症筋無力症、全身性エリマトーデス)などに対して施行することが多く、救命や病態寛解のため必要となる。			
医療技術名	血漿吸着	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 血漿を吸着カラムに通すことにより病因物質を除去する治療法である。当院では難病である家族性高コレステロール血症や巣状糸球体硬化症、閉塞性動脈硬化症などに対してLDL吸着を、自己免疫性疾患に対し免疫吸着を行っている。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	1474

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	リンパ球/顆粒球吸着(白血球除去療法)	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 難病である潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患に対して、病因の1つである活性化したリンパ球を吸着療法により除去することにより、病勢のコントロールを行っている。			
医療技術名	腹水濾過濃縮再静注	取扱患者数	12
当該医療技術の概要 ほかの様々な治療法では治療困難な難治性腹水症の患者の腹水を取り出し、それを濾過及び濃縮し、患者に再静注する治療法であり、癌や肝硬変による大量腹水のコントロールを行っている。			
医療技術名	膝関節靭帯再建術後選手に対する術前から競技復帰までのアスレティックリハビリテーションおよびリコンディショニング	取扱患者数	54
当該医療技術の概要 膝関節靭帯損傷は代表的なスポーツ外傷であり、スポーツ活動の継続を希望する選手には靭帯の再建手術が治療の第一選択となる。スポーツ活動の再開、元の競技レベルへの復帰には、術後早期からの適切な診断と、専門的なリハビリテーションおよびコンディショニングが不可欠である。本学では、整形外科と連携しながら、術前からスポーツ復帰に至るまで科学的根拠に基づいて選手をサポートしている。選手の膝機能やスポーツパフォーマンスに関する診療データを蓄積・分析するシステムを構築し、常に情報をアップデートしながら選手に還元している。半月板損傷例や複合靭帯損傷例にも対応し、再損傷率を抑えながら、高い競技復帰率を誇っている。			
医療技術名	早期スポーツ復帰に向けた運動器外傷に対する高気圧酸素治療	取扱患者数	41
当該医療技術の概要 捻挫、肉離れ、靭帯損傷等の軟部組織外傷や骨折等の急性期における高気圧酸素治療は、外傷の治癒促進となるエビデンスが我々の示したものを含め複数存在する。オリンピック選手やトップアスリート等、可及的早期にスポーツ競技復帰を望む選手やチームからの社会的要請は高い。本学では、スポーツ選手における軟部組織外傷急性期の診療体制を確立しており、高度医療の提供と位置づけている。			
医療技術名	難治性疾患である放射線照射後の晩期障害に対する高気圧酸素治療	取扱患者数	24
当該医療技術の概要 遅発性放射線障害である出血性膀胱炎、出血性腸炎、放射線性咽頭炎等は難治性であり、保存的治療に抵抗する。このため、出血がコントロールされない放射線性出血性膀胱炎では、定期的な輸血や膀胱摘出術などの処置を要することも多いが、高気圧酸素治療は80%以上の有効性がある。しかしながら、全国的には本疾患に対する高気圧酸素治療を実施している施設は希少で、本学の治療は高度医療と位置づけられる。			
医療技術名	自家末梢血幹細胞移植	取扱患者数	11
当該医療技術の概要 血液内科・小児科が主たる診療科として取り組んでいる。輸血・細胞治療センターでは末梢血に動員された造血幹細胞の成分採血による採取と細胞の評価、凍結保存を実施している。			
医療技術名	同種骨髄移植	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 血液内科・小児科が主たる診療科として取り組んでいる。HLAハプロ一致(半合致)移植が増えている(血縁者間移植は5例中4例がハプロ一致移植であった)。輸血・細胞治療センターでは骨髄バンクドナーを含む採取、移植細胞の評価、血液型不適合移植の場合の処理を担当している。			
医療技術名	同種末梢血幹細胞移植	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 血液内科・小児科が主たる診療科として取り組んでいる。HLAハプロ一致(半合致)移植が増えている(血縁者間移植は6例中5例がハプロ一致移植であった)。輸血・細胞治療センターでは末梢血に動員された造血幹細胞の成分採血による採取と細胞の評価、凍結保存を実施している。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	168

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	CAR-T細胞療法	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 血液内科・小児科が主たる診療科として取り組んでいる。輸血・細胞治療センターでは末梢血からのリンパ球採取と細胞の評価、凍結保存、細胞の製造所への送付と、遺伝子改変後の細胞製剤の受け入れおよび管理を実施している。			
医療技術名	ヒト間葉系幹細胞	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 血液内科・小児科が主たる診療科として取り組んでいる。輸血・細胞治療センターでは製剤の保管管理および使用前の調製を担当している。			
医療技術名	PRP膝関節内注射	取扱患者数	9
当該医療技術の概要 整形外科が主たる診療科として取り組んでいる。PRP治療は患者自身の血液から抽出した血小板多血漿を患部に注射で投与することにより患部の疼痛の軽減を目的とする治療である。輸血・細胞治療センターではPRP調整のための採血、およびPRP調整を担当している。			
医療技術名	大動脈バルーンパンピング法 (IABP)	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 急性心筋梗塞後の心原性ショックや急性心筋梗塞に伴う心室中隔穿孔や僧帽弁閉鎖不全、開心術後のポンプ機能不全が適応となる。胸部下降大動脈に留置したバルーンを、駆動装置を用いて心拍に同期させて収縮・拡張させる装置である。心臓の拡張期にバルーンを拡張することによって、大動脈圧拡張末期圧を上昇させ冠血流量を増加させる効果と、収縮期直前にバルーンを急速に収縮させ拡張末期圧を低下させ心拍出を容易にする効果を有する。			
医療技術名	経皮的心肺補助装置 (PCPSあるいはVA-ECMO)	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 緊急心蘇生や重症心不全に対する循環補助が適応となる。大腿静脈から遠心ポンプにより脱血した静脈血を、膜型人工肺を用いて酸素化し動脈血として大腿動脈に沿う血閉鎖回路による補助循環である。			
医療技術名	VV-ECMO	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 遠心ポンプと膜型人工肺を用いた閉鎖回路の人工心肺装置をもちいて、呼吸補助を行う装置である。			
医療技術名	持続腎代替療法 (CRRT)	取扱患者数	27
当該医療技術の概要 急性腎傷害を合併した循環動態が不安定な重症患者が適応となる。ブラッドアクセスを介して、血液を体外に導出し、小型の濾過器を用い限外濾過により持続的に体液を除水する。同時に透析液を流すことによって、拡散によっても物質を除去する血液浄化療法である。24時間以上持続して施行する。			
医療技術名	Plasma exchange (PE): 血漿交換	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 劇症肝炎、多発性骨髄腫、薬物中毒、ギラン・バレー症候群、重症筋無力症、慢性炎症性脱髄性多発神経炎などが適応となる。ブラッドアクセスを介して、血液を体外に導出し血漿成分だけを分離し、その血漿成分は破棄する。その代替として新鮮凍結血漿あるいは5%アルブミン製剤で補う血液浄化療法である。血漿中に存在する病因関連物質や病態を悪化させている物質を除去する治療法である。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取り扱い患者数の合計(人)	66

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	Polymyxin B-immobilized fiber column hemoperfusion (PMX):エンドトキシン吸着療法	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 グラム陰性菌感染によるエンドトキシンショックが適応となる。ブラッドアクセスを介して、血液を体外に導出し、エンドトキシンの吸着剤であるポリミキシンBを不溶性の繊維に固定したカラム(トレミキシン)に灌流させ、エンドトキシンを吸着除去した後、血液を体内に戻す血液浄化療法である			
医療技術名	左心補助人工心臓 (LVAS)	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 治療抵抗性の急性重症心不全と末期的慢性重症心不全の場合に適応となる。左室から脱血し、血液ポンプを用いて上行大動脈に送血することにより、左室ポンプ機能をほぼ100%代行できる補助循環装置である。			
医療技術名	IMPELLA	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 インペラ(IMPELLA)とは、左心室負荷を直接軽減する補助人工心臓の一つで、小型モーターを内蔵したポンプカテーテルを、経皮的に大動脈などから心臓の左心室に挿入する左室補助循環装置である、			
医療技術名	右心補助人工心臓 (RVAS)	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 左心補助人工心臓駆動下において内科的治療に反応しない右心不全の場合に適応となる。右房から脱血し、血液ポンプを用いて肺動脈に送血することにより、右室ポンプ機能を100%代行できる補助循環装置である。			
医療技術名	重症外傷に対する集学的治療	取扱患者数	120
当該医療技術の概要 重傷外傷患者 (AIS3以上)は治療優先順位の決定と、さらに損傷部位別に有効な修復方法が求められる。当科では経験豊富なスタッフが各症例ごとに適切な治療方法を選択し、IVR、手術、また輸液輸血管理などを含む集学的治療を行なっている。			
医療技術名	院外心肺停止患者の蘇生後脳症に対する脳低温療法	取扱患者数	14
当該医療技術の概要 院外心肺停止患者の蘇生後に体温を35度以下で24時間以上維持・管理するものを指す。神経学的な予後改善が期待され、国際的ガイドラインでも支持されている。当院では心肺蘇生に関する様々なレジストリーにも参加している施設でもあり、蘇生領域の最先端の知見を示すとともに、同時に院外心肺停止患者の社会復帰に成果を上げている。			
医療技術名	経皮的人工心肺(PCPS)を用いた院外心肺停止患者に対する心肺蘇生	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 通常の蘇生に反応しない院外心肺停止患者に対し、当院では積極的に人工心肺を使用し、蘇生の可能性を追求している。また蘇生後のICU管理も集学的に行い、社会復帰率も年々向上している。			
医療技術名	重症呼吸不全(COVID-19含めた)に対するV-V ECMOを用いた集学的治療	取扱患者数	20
当該医療技術の概要 人工呼吸器のみでは救命不可能な重症呼吸不全患者に対してV-V ECMOは最終手段として用いる高度な専門処置である。本治療はCOVID-19の治療で有名になったが、当院では以前から重症呼吸不全患者に本治療を適用し、実績をあげている。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の数	8
取扱い患者数の合計(人)	170

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	術後患者に対するOpen Abdominal Manangement	取扱患者数	13
当該医療技術の概要 緊急開腹手術を受けた患者のうち、一期的な閉腹困難、あるいは再度の手術を想定する場合(バイタルが不安定、多発外傷、腸管虚血、腹腔内圧上昇)、当院ではopenな状態で管理している。全身管理と並行し腹腔内の状態を評価しつつ段階的に閉腹を行うことで、予後の向上に繋がっている。			
医療技術名	染色体異常に対する出生前診断	取扱患者数	166
当該医療技術の概要 出生前診断として、クアトロ検査・NIPT・羊水染色体検査の実施および、染色体異常・先天異常の疾患概要、検査のメリット・デメリット・リスクの説明を行っている。			
医療技術名	遺伝性疾患に対する遺伝カウンセリングおよび遺伝子診断(確定診断・発症前診断・保因者診断)、出生前診断に対する遺伝カウンセリング	取扱患者数	646
当該医療技術の概要 各種遺伝性疾患の遺伝リスクの説明、家族に対する遺伝リスクの説明を行っている。また、院内臨床各科との連携によって遺伝性腫瘍等の遺伝性疾患に対する遺伝子検査(確定診断、発症前診断)、および小児期発症の遺伝性疾患に対する保因者診断を実施している。加えて、院内関連診療科との連携および院外連携病院からの紹介によって、出生前診断に対する遺伝カウンセリングを実施している(出生前診断の実施件数は上記166件)。			
医療技術名	遺伝性がん症候群の遺伝子診断	取扱患者数	80
当該医療技術の概要 遺伝性乳がん・卵巣癌症候群、リンチ症候群、Von Hippel-Lindau病、Gorlin病など腫瘍関連症候群の遺伝子診断を実施している。			
医療技術名	がんゲノム医療	取扱患者数	146
当該医療技術の概要 標準治療で進行した又は進行見込みの患者に対して、がん遺伝子パネル検査を実施し、検出された遺伝子変異に基づき個別化治療を行う。			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	5
扱い患者数の合計(人)	1051

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	23	56	血栓性血小板減少性紫斑病	5
2	筋萎縮性側索硬化症	42	57	原発性免疫不全症候群	173
3	脊髄性筋萎縮症	2	58	IgA腎症	43
4	原発性側索硬化症	2	59	多発性嚢胞腎	43
5	進行性核上性麻痺	15	60	黄色靱帯骨化症	28
6	パーキンソン病	102	61	後縦靱帯骨化症	111
7	大脳皮質基底核変性症	5	62	広範脊柱管狭窄症	24
8	ハンチントン病	4	63	特発性大腿骨頭壊死症	91
9	神経有棘赤血球症	1	64	下垂体性ADH分泌異常症	14
10	シャルコー・マリエ・トウス病	1	65	下垂体性TSH分泌亢進症	2
11	重症筋無力症	116	66	下垂体性PRL分泌亢進症	4
12	多発性硬化症／視神経脊髄炎	135	67	クッシング病	7
13	慢性炎症性脱髄性多発神経炎 ／多巣性運動ニューロパチー	30	68	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	21
14	封入体筋炎	1	69	下垂体前葉機能低下症	34
15	多系統萎縮症	52	70	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	2
16	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	170	71	先天性副腎皮質酵素欠損症	17
17	ライソゾーム病	2	72	先天性副腎低形成症	1
18	副腎白質ジストロフィー	1	73	アジソン病	2
19	ミトコンドリア病	12	74	サルコイドーシス	153
20	もやもや病	239	75	特発性間質性肺炎	100
21	プリオン病	1	76	肺動脈性肺高血圧症	14
22	進行性多巣性白質脳症	1	77	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	8
23	HTLV-1関連脊髄症	2	78	リンパ管筋腫症	3
24	特発性基底核石灰化症	2	79	網膜色素変性症	25
25	全身性アミロイドーシス	25	80	特発性門脈圧亢進症	1
26	ウルリッヒ病	1	81	原発性胆汁性胆管炎	28
27	遠位型ミオパチー	1	82	原発性硬化性胆管炎	5
28	ベスレムミオパチー	1	83	自己免疫性肝炎	17
29	神経線維腫症	10	84	クローン病	612
30	天疱瘡	35	85	潰瘍性大腸炎	1246
31	表皮水疱症	2	86	好酸球性消化管疾患	5
32	膿疱性乾癬(汎発型)	3	87	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
33	高安動脈炎	105	88	クリオピリン関連周期熱症候群	8
34	巨細胞性動脈炎	11	89	若年性特発性関節炎	21
35	結節性多発動脈炎	14	90	先天性ミオパチー	2
36	顕微鏡的多発血管炎	45	91	筋ジストロフィー	14
37	多発血管炎性肉芽腫症	33	92	脊髄空洞症	2
38	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	44	93	アイザックス症候群	2
39	悪性関節リウマチ	19	94	脳表ヘモジデリン沈着症	19
40	バージャー病	20	95	前頭側頭葉変性症	1
41	原発性抗リン脂質抗体症候群	4	96	先天性無痛無汗症	1
42	全身性エリテマトーデス	409	97	片側巨脳症	1
43	皮膚筋炎／多発性筋炎	223	98	限局性皮質異形成	1
44	全身性強皮症	122	99	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	2
45	混合性結合組織病	47	100	ウエスト症候群	1
46	シェーグレン症候群	112	101	大田原症候群	1
47	成人ステル病	41	102	PCDH19関連症候群	1
48	再発性多発軟骨炎	14	103	スタージ・ウェーバー症候群	1
49	ベーチェット病	190	104	結節性硬化症	3
50	特発性拡張型心筋症	28	105	色素性乾皮症	1
51	肥大型心筋症	8	106	家族性良性慢性天疱瘡	1
52	再生不良性貧血	30	107	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	19
53	自己免疫性溶血性貧血	3	108	特発性後天性全身性無汗症	101
54	発作性夜間ヘモグロビン尿症	3	109	マルファン症候群	2
55	特発性血小板減少性紫斑病	46	110	ウィルソン病	1
	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	低ホスファターゼ症	1	166		
112	ウィリアムズ症候群	2	167		
113	歌舞伎症候群	1	168		
114	ウェルナー症候群	1	169		
115	修正大血管転位症	1	170		
116	単心室症	2	171		
117	アルポート症候群	4	172		
118	急速進行性糸球体腎炎	1	173		

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

119	一次性ネフローゼ症候群	51	174	
120	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	2	175	
121	紫斑病性腎炎	5	176	
122	先天性腎性尿崩症	1	177	
123	間質性膀胱炎(ハンナ型)	2	178	
124	オスラー病	1	179	
125	副甲状腺機能低下症	1	180	
126	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1	181	
127	筋型糖原病	1	182	
128	脳髄黄色腫症	1	183	
129	脂肪萎縮症	2	184	
130	家族性地中海熱	8	185	
131	慢性再発性多発性骨髄炎	2	186	
132	強直性脊椎炎	42	187	
133	進行性骨化性線維異形成症	2	188	
134	骨形成不全症	1	189	
135	巨大静脈奇形 (頸部口腔咽頭びまん性病変)	1	190	
136	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	2	191	
137	後天性赤芽球癆	5	192	
138	遺伝性鉄芽球性貧血	1	193	
139	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	1	194	
140	クローンカイト・カナダ症候群	4	195	
141	非特異性多発性小腸潰瘍症	1	196	
142	胆道閉鎖症	1	197	
143	IgG4関連疾患	24	198	
144	遅発性内リンパ水腫	3	199	
145	好酸球性副鼻腔炎	13	200	
146	遺伝性自己炎症疾患	1	201	
147	特発性多中心性キャスルマン病	10	202	
148			203	
149			204	
150			205	
151			206	
152			207	
153			208	
154			209	
155			210	
156			211	
157			212	
158			213	
159			214	
160			215	
161			216	
162			217	
163			218	
164			219	
165			220	

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	147
合計患者数(人)	5859

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
特定機能病院入院基本料(一般病棟7:1)	データ提出加算2
特定機能病院入院基本料(精神病棟10:1)	入退院支援加算2(総合機能評価加算)
救急医療管理加算	認知症ケア加算1
超急性期脳卒中加算	せん妄ハイリスク患者ケア加算
診療録管理体制加算1	精神疾患診療体制加算
医師事務作業補助体制加算1(30:1)	精神科急性期医師配置加算
急性期看護補助体制加算(25:1)	排尿自立支援加算
看護職員夜間配置加算	地域医療体制確保加算
療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算	救命救急入院料1
重症者等療養環境特別加算	救命救急入院料2
無菌治療室管理加算1	特定集中治療室管理料1
無菌治療室管理加算2	ハイケアユニット入院医療管理料1
緩和ケア診療加算	新生児特定集中治療室管理料2
精神科身体合併症管理加算	小児入院医療管理料2
精神科リエゾンチーム加算	緩和ケア病棟入院料1
栄養サポートチーム加算	地域歯科診療支援病院歯科初診料
医療安全対策加算1	歯科外来診療環境体制加算2
感染防止対策加算1	歯科診療特別対応連携加算
患者サポート体制充実加算	
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
ハイリスク妊娠管理加算	
ハイリスク分娩管理加算	
呼吸ケアチーム加算	
後発医薬品使用体制加算1	
病棟薬剤業務実施加算1	
病棟薬剤業務実施加算2	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・外来栄養食事指導料	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・心臓ペースメーカー指導管理料(遠隔モニタリング加算)	・在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
・糖尿病合併症管理料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
・がん性疼痛緩和指導管理料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・がん患者指導管理料イ	・遺伝学的検査
・がん患者指導管理料ロ	・骨髄微小残存病変量測定
・がん患者指導管理料ハ	・BRCA1/2遺伝子検査
・がん患者指導管理料ニ	・がんゲノムプロファイリング検査
・外来緩和ケア管理料	・先天性代謝異常症検査
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・糖尿病透析予防指導管理料	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
・小児運動器疾患指導管理料	・検体検査管理加算(I)
・婦人科特定疾患治療管理料	・検体検査管理加算(IV)
・院内トリアージ実施料	・国際標準検査管理加算
・外来放射線照射診療料	・遺伝カウンセリング加算
・ニコチン依存症管理料	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・がん治療連携計画策定料	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・肝炎インターフェロン治療計画料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・外来排尿自立指導料	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・胎児心エコー法
・ハイリスク妊産婦連携指導料2	・ヘッドアップティルト試験
・薬剤管理指導料	・長期脳波ビデオ同時記録検査1
・医療機器安全管理料1	・終夜睡眠ポリグラフィ(安全精度管理下で行うもの)
・医療機器安全管理料2	・脳波検査判断料1
・精神科退院時共同指導料1及び2	・単線維筋電図
・在宅酸素療法指導管理料(遠隔モニタリング加算)	・神経学的検査

・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料(遠隔モニタリング加算)	・補聴器適合検査
・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	・黄斑局所網膜電図
・全視野精密網膜電図	・治療抵抗性統合失調症治療指導管理料
・コンタクトレンズ検査料1	・医療保護入院等診療料
・小児食物アレルギー負荷検査	・硬膜外自家血注入
・内服・点滴誘発試験	・エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)
・CT透視下気管支鏡検査加算	・エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)
・経気管支凍結生検法	・人工腎臓(慢性維持透析を行った場合)
・画像診断管理加算1	・導入期加算2及び腎代替療法実績加算
・画像診断管理加算3	・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
・ポジトロン断層撮影	・下肢末梢動脈疾患指導管理加算
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・センチネルリンパ節加算
・CT撮影及びMRI撮影	・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合)
・冠動脈CT撮影加算	・四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算
・外傷全身CT加算	・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)
・心臓MRI撮影加算	・椎間板内酵素注入療法
・乳房MRI撮影加算	・腫瘍脊椎骨全摘術
・小児鎮静下MRI撮影加算	・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
・頭部MRI撮影加算	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・全身MRI撮影加算	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便失禁)
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(過活動膀胱)
・外来化学療法加算1	・頭蓋内電極植込術(脳深部電極によるもの(7本以上の電極による場合)に限る)
・連携充実加算	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・無菌製剤処理料	・緑内障手術(緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術))
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	・人工中耳植込術
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・網膜再建術
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)
・がん患者リハビリテーション料	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む)
・集団コミュニケーション療法料	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術

・療養生活環境整備指導加算	・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
・精神科ショート・ケア「大規模なもの」	
・精神科デイ・ケア「大規模なもの」	・乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術(一連につぎ)(MRIによるもの)
・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	・補助人工心臓
・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(併用)	・植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	・骨格筋由来細胞シート心表面移植術
・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	・経皮的下肢動脈形成術
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開副腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術及び腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	
・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る)	
・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの) ・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・胸腔鏡下弁形成術	
・胸腔鏡下弁置換術	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・不整脈手術左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)	・胆管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る)
・経皮的中隔心筋焼灼術	・腹腔鏡下肝切除術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・生体部分肝移植術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカーの場合)	・腹腔鏡下腓腫瘍摘出術
・両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)	・腹腔鏡下腓頭部腫瘍切除術
・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術	・腹腔鏡下腓頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) ・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) ・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術

・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの) ・腹腔鏡下腎・尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・膀胱水圧拡張術
・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術	・定位放射線治療
・人工尿道括約筋植込・置換術	・定位放射線治療呼吸移動対策加算
・画像誘導密封小線源治療加算	・保険医療機関間の連携による病理診断
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・病理診断管理加算2
・腹腔鏡下仙骨腫固定術	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・腹腔鏡下仙骨腫固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・歯科疾患管理料の注11に規定する総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料
・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・精密触覚機能検査
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・睡眠時歯科筋電図検査
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)	・歯科画像診断管理加算1
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る)	・歯科画像診断管理加算2
・胎児胸腔・羊水腔シャント術	・歯科口腔リハビリテーション料2
・乳房切除術 (遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る)	・手術用顕微鏡加算
・子宮附属器腫瘍摘出術 (遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る)	・口腔粘膜処置
・輸血管管理料 I	・歯根端切除手術の注3
・貯血式自己血輸血管管理体制加算	・口腔粘膜血管腫凝固術
・コーディネート体制充実加算	・歯周組織再生誘導手術
・自己生体組織接着剤作成術	・手術時歯根面レーザー応用加算
・自己クリオプレシピテート作製術(用手法)	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)
・同種クリオプレシピテート作製術	・顎関節人工関節全置換術(歯科診療に係るものに限る。)
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・歯科麻酔管理料
・レーザー機器加算	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・麻酔管理料(I)	・う蝕歯無痛的窩洞形成加算
・麻酔管理料(II)	・CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー
・放射線治療専任加算	・歯科矯正診断料
・外来放射線治療加算	・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。))の手術前後における歯科矯正に係るもの)
・高エネルギー放射線治療	・歯科疾患在宅療養管理料の注4に掲げる在宅総合医療管理加算及び在宅患者歯科治療時医療管理料

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・マルチプレックス遺伝子パネル検査 (申請医療機関:国立がん研究センター中央病院)	・
・流産検体を用いた染色体検査	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
 (注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。	
	2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	週に3回程度、症例検討会を実施している。 (剖検例は週1回。その他に臨床各科と合計月約10回 年間で約100回開催)	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	26
	剖検率(%)	7.1

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元
血液脳関門通過性ヘテロ核酸の開発	横田 隆徳	脳神経病態学	14,560,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
心房細動に対するカテーテル心筋焼灼術の脳梗塞予防効果に関する検討	合屋 雅彦	循環制御内科学	780,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
エクソソームによるマイクロRNA送達が増進β細胞の機能や増殖に及ぼす影響の解明	山田 哲也	分子内分泌代謝学	3,380,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
老化制御因子のクロストーク解析を機軸とした運動器退行性変化制御機構の解明	麻生 義則	分子生命医学講座	4,095,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ES細胞を基軸とした歯周組織再生担当細胞の分化制御メカニズムの解明	岩田 隆紀	歯周病学	3,120,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
低分子量G蛋白質Rapシグナル経路のプロテオーム解析を用いた癌浸潤機構の研究	明石 巧	病理部	1,040,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
風疹ウイルス関連ぶどう膜炎の頻度と病態に関する研究	高瀬 博	眼科学	1,170,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
口腔インプラントの脱落要因を探る:インプラント周囲細菌叢の時空間的解析	下岸 将博	インプラント外来	806,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
拡散テンソルMRIの歯科臨床への応用:下歯槽神経と咀嚼筋の定量的画像診断法の確立	倉林 亨	口腔放射線医学	520,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
咀嚼がヒト脳機能を介し全身身体機能に与える影響:非侵襲的脳機能測定法による検討	宮本 順	顎顔面矯正学分野	780,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
好塩基球の肺胞マクロファージ活性化による肺線維化の新しい機序について	立石 知也	呼吸器内科	780,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
鳥関連過敏性肺炎の診断のための標準的検査方法の確立	白井 剛	呼吸器内科	260,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
iPS細胞由来筋細胞-CD8T細胞-マクロファージ共培養でのPM/DMの病態解明	長谷川 久紀	膠原病・リウマチ内科	910,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
集中治療室退室後の予後改善のための不動化による筋萎縮のメカニズムと治療法の解明	長島 道生	生体集中管理学	780,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
アルコール代謝遺伝子多型と飲酒量が頭頸部癌症例の血清マグネシウム濃度に与える影響	有泉 陽介	頭頸部外科学	520,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
骨欠損レベル毎のレジコア築造歯の最適ポスト長に関する研究	畑山 貴志	むし歯外来	520,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
高齢者の認知機能向上を目指した咀嚼と認知課題のdual taskトレーニング効果	稲用 友佳	部分床義歯補綴学	390,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
海馬Wnt signal pathwayの変調と鼻呼吸障害改善の生物学的意義	沖原 秀政	矯正歯科外来	260,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
アナトミカルバランスモデルを応用した顎変形症治療システムの構築	疋田 理奈	顎顔面矯正学分野	650,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
心筋・骨格筋の任意の遺伝子制御を可能とする革新的な核酸医薬の開発	永田 哲也	脳神経病態学	11,050,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
AKAP-PKA結合阻害剤による新規PKA制御法の疾患治療への応用	内田 信一	腎臓内科学	14,040,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
サルコペニアの発症・進展の分子病態の解明と新規治療法の開発	頼 建光	茨城県腎臓疾患地域医療学講座	4,160,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
イメージングバイオマーカーを用いた遅発性精神病の層別化	高橋 英彦	精神行動医学	3,380,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
小児急性リンパ性白血病発症にかかわる遺伝学的背景の検討	高木 正稔	発生発達病態学	5,090,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
大腸Label-retaining杯細胞の同定・機能解析と炎症粘膜再生への応用	岡本 隆一	消化器病態学	4,680,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
癌ゲノム要因と肝組織を模倣するヒトiPS細胞由来オルガノイドによる発癌機構の解明	朝比奈 靖浩	肝臓病態制御学講座	4,810,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
慢性腎臓病によるエネルギー感知障害の分子病態解明と治療法開発	蘇原 映誠	腎臓内科学	5,460,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
骨透明化技術の開発と神経-血管ネットワークに着目した骨代謝異常疾患の病態解明	佐藤 信吾	がん先端治療部	5,360,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
病的近視による眼球変形メカニズム解明と眼球壁再生治療の確立	大野 京子	眼科学	3,900,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ゲノム・フェノーム統合解析に立脚した顎顔面非対称の成立機構の解明	森山 啓司	顎顔面矯正学	2,990,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
先端の因果推論手法を用いた、ビッグデータからの口腔と全身の健康の関連	相田 潤	健康推進歯学	1,300,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
優れた有効性と低い副作用を同時に実現する、人工カチオン性分子連結核酸医薬の開発	原 倫太郎	脳神経病態学	1,950,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
非定型抗精神病薬による血糖値異常の予測を目指した速度論モデルの構築	永田 将司	薬剤部	1,430,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
アミロイドβオリゴマーの受容体結合に着目したアルツハイマー病のシナプス病態の解明	荒木 互	脳神経病態学分野	650,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
シナプス分子に対する新規自己抗体による難治性精神症状の病態解明	塩飽 裕紀	精神行動医学	1,430,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
新生児慢性肺疾患における好中球由来microvesiclesの臨床的意義	若林 健二	生体集中管理学	1,040,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
脊髄性筋萎縮症の早期診断法の確立に関する研究	水野 朋子	国際健康推進医学分野	650,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
炎症性腸疾患発症におけるマオシン軽鎖キナーゼの役割	齊藤 詠子	消化器内科	910,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
タイトジャンクション制御による大腸腫瘍予防戦略の構築	福田 将義	光学医療診療部	910,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
炎症性腸疾患発症/持続/寛解/再燃時における腸炎惹起性メモリーT細胞動態の可視化	岡田 英理子	臨床医学教育開発学	455,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
腸管上皮オートファジーによる新規免疫調節機構の解析とクローン病新規治療標的の抽出	長堀 正和	臨床試験管理センター	650,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
超高密度マッピングによる術後心房頻拍の機序解明と治療への応用	宮崎 晋介	先進不整脈学講座	910,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
心房細動の進展と全身性合併症における細胞外核酸・小胞の役割の解明	笹野 哲郎	循環制御内科学	1,170,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
好塩基球を標的とした難治性皮膚疾患、難治性そう痒症の病態解析と新規治療法の開発	横関 博雄	皮膚科学	130,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
難治性B細胞腫瘍の新たな分子標的COTとその臨床的バイオマーカーとしての有用性	長尾 俊景	血液内科	1,950,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

小計19件

小計19件

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

悪性隣神経内分秘腫瘍の非侵襲的診断と治療標的の探索	工藤 篤	医療安全管理部	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
心電図解析によるてんかん発作の検知・予知システム確立のための広帯域頭蓋内脳波解析	前原 健寿	脳神経機能外科学	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
神経障害性疼痛における後根神経節での非神経細胞の役割と治療開発	榎本 光裕	整形外科	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
異所性骨化モデル動物の確立と骨化の制御、靭帯骨化への応用	吉井 俊貴	整形外科	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
新規骨量規定因子による骨代謝調節機構の解明－骨形成促進のための基盤研究	加藤 剛	整形外科	650,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
細胞骨格制御を基盤とした溶骨症治療の新戦略	江面 陽一	運動器外科学分野	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ディーブローニングによる腎腫瘍画像診断:マルチチャンネル三次元融合画像の使用	藤井 靖久	腎泌尿器外科学	416,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
マイクロRNAを介した胎児胎盤母体間コミュニケーションメカニズムの解明	宮坂 尚幸	生殖機能協同学	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
視覚アレスチンの発現調節により近視の原因である眼軸延長を抑制する研究	吉田 武史	先端視覚画像医学講座	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
樹脂浸透メスマ層を抑制するスマ層アプロテイナーゼに適合した1-SEAの開発	中島 正俊	う蝕制御学分野	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
治癒する歯内歯周病変を診断するための細菌学的検査方法の確立	小林 宏明	歯周病学分野	1,248,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
歯周組織再生療法・インプラント治療に血糖コントロールが与える影響	水谷 幸嗣	歯周病学	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
歯周病における転写因子mohawk homeobox(Mkx)の関与	原田 浩之	顎口腔外科学	682,500	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
インプラント周囲炎の細菌学的診断方法と治療法の開発	小柳 達郎	歯周病外来	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
経口栄養の重要性を腸内細菌叢から再確認する-摂食嚥下障害と全身の健康について-	戸原 玄	摂食嚥下リハビリテーション外来	650,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
有床補綴装置の機能的三次元形態解析の新展開	鈴木 哲也	歯学部附属病院	456,300	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
積層造形を応用した理想的な表面形状を持つ次世代ジルコニアインプラントの開発	猪越 正直	高齢者歯科学	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
病的顎関節に対して適切なモデリングと早期の機能回復を促す開口訓練方法の検討	儀武 啓幸	顎顔面外科学	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
顎顔面発生のエピジェネティクス解析:低酸素環境の及ぼす影響	長岡 亮介	顎顔面外科学分野	780,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
歯科心身症における中枢-末梢機能連関についての集学的研究	豊福 明	歯科心身医学	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
頭頸部血管奇形における圧縮センシングの応用	栗林 亜実	口腔放射線医学	520,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
周術期脳血モデルに対するデルタオピオイド受容体アゴニストの効果	前田 茂	歯科麻酔・口腔顔面痛制御学分野	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
統合的オミックス解析による希少遺伝性疾患における歯数を規定する分子機構の解明	小川 卓也	顎顔面矯正学	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
成長期の鼻呼吸障害における筋機能の変調が顎顔面発育に影響を与えるか	小海 暁	咬合機能矯正学分野	260,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
異常なエピジェネティック制御機構が引き起こす口蓋裂発症メカニズムの解明	東堀 紀尚	顎顔面矯正学	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
三次元顔貌データを用いた先天異常疾患特異的顔貌の解析手法の確立	辻 美千子	顎顔面矯正学	871,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
エキソソームデリバリー-siRNAを用いた頭蓋骨縫合癒合症の治療法開発基盤構築	小林 起穂	顎顔面矯正学	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
歯髄光電脈波の定量解析による歯髄の血行動態および機能評価に関する研究	柿野 聡子	小児歯科外来	520,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
入院後に肺炎を発症するリスクの高い患者のスクリーニングと新規口腔機能管理法の開発	倉沢 泰浩	口腔外科外来	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
咀嚼嚥下障害モデル動物による腸内細菌叢の解析	中川 量晴	摂食嚥下リハビリテーション学分野	1,105,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
隣神経内分秘腫瘍のバイオマーカーの開発	菅原 俊喬	肝胆膵外科学分野	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
病変局所のIL-23産生マクロファージを標的とした炎症性筋疾患の新規治療開発	梅澤 夏佳	膠原病・リウマチ内科学	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
過敏性肺炎におけるIL-17、好中球の慢性化を含めた経時的な役割の検討	石塚 聖洋	呼吸器内科	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
間質性肺炎合併肺がんの特徴的な発がんメカニズムの探索	本多 隆行	呼吸器内科	650,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
隣癌予後不良サブタイプに対する特異的治療の開発	渡邊 秀一	肝胆膵外科	1,050,940	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
マージナルドナー拡大のための脂肪肝グラフトの網羅的情報解析	石井 武	肝胆膵外科学分野	520,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
胆管がんにおけるARID1A遺伝子の機能解析と治療薬の開発	赤須 雅文	肝胆膵・総合外科学	650,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
Intraoperative real-time non-invasive cerebral blood flow analysis by Laser Speckle Contrast Imaging	清水 一秀	脳神経機能外科学分野	130,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ミエリンイメージングと拡散MRIによる小児・成人もやもや病の認知機能障害病態解明	原 祥子	脳神経外科	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
弯曲型非定型大腿骨骨折の診断基準の確立とその臨床的意義の解明	王 耀東	整形外科外傷科治療開発学講座	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
高圧酸素療法による異所性骨化の制御	湯浅 将人	整形外科	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
変形性膝関節症の慢性疼痛化に対する疾患特異的マクロファージの作用の解明とその制御	星野 傑	スポーツ医学診療センター	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
人工膝関節術後患者の関節腫脹に対して高圧酸素治療が与える影響の検討	大原 敏之	スポーツ医学診療センター	520,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
多嚢胞性卵巣症候群のアンドロゲン過剰症に関わる遺伝内分秘学的基盤の解明	齊藤 和毅	茨城県小児・周産期地域医療学講座	780,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
小児がん患者の卵巣組織凍結における適切な凍結手法の解析	岩原 由樹	生殖機能協同学	390,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

小計19件

小計19件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

内耳血管系におけるメラニンの役割および各種障害に対する反応メカニズムの解明	倉田 奈都子	耳鼻咽喉科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
近視性牽引黄斑症に対する新規低侵襲レーザー治療法の開発	高橋 洋如	眼科学	780,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ラマン散乱光解析を用いた悪性リンパ腫と加齢性変化の鑑別	岩崎 優子	眼科学分野	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
細胞の伸展と組織浮腫に注目した体外式組織拡張器による組織増大の機序解明	井上 牧子	形成・美容外科	650,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
摂食調節に関わる神経回路および分子メカニズムの解明	遠井 政行	口腔ケア外来	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
口腔癌の免疫抑制メカニズムの解析と、ニボルマブ有効症例のスクリーニングへの応用	西井 直人	口腔外科外来	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
歯周病菌感染がオートファジー制御異常を介して心肥大に与える影響とその機序の解明	渡辺 由佳	循環制御内科学分野	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
表面強化した成形修復用ガラスイオノマーセメントの表面保護方法の開発	塩沢 真穂	口腔機能再建工学	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
自動根管形成・応力測定装置を用いたNiTiロータリーファイルの多面的応力解析	西条 美紀	歯髄生物学分野	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
従来法で清掃困難な構造内でのLAI活性化洗浄液の挙動解明と新規洗浄法の開発	八尾 香奈子	歯髄生物学分野	780,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
フッ化ジアン銀、ヨウ化カリウム、フラボノイド併用によるう蝕予防・治療効果の検討	津田 優香	う蝕制御学分野	520,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
脱落歯のウルトラファインバブル水浸漬による治癒促進効果	大石 敦之	小児歯科学・障害者歯科学分野	650,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
インプラント周囲の角化粘膜は有用か：細菌学的エビデンスの構築に向けて	柴崎 真樹	インプラント外来	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
Er:YAGレーザーを応用した汚染インプラント体の新規除染方法の確立	高木 徹	歯周病学分野	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
義歯への微生物の付着抑制がフレイルの予防に与える効果についての前向き介入研究	高草木 謙介	義歯外来	650,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
インプラント周囲顎骨の形成・吸収を制御する骨細胞とローカルストレス閾値の解明	豊嶋 悠輔	部分床義歯補綴学分野	650,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
コンジョイント分析を応用した無歯顎補綴の医療技術評価	宮安 杏奈	義歯外来	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
咬合支持を失った患者に対する咀嚼訓練と栄養指導の効果についてのランダム化比較研究	鍋島 玄	部分床義歯補綴学分野	520,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
共分散構造分析による口腔機能が健康寿命におよぼす影響の解析	山賀 栄次郎	高齢者歯科学分野	520,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
顎骨壊死に対するアドレナリン受容体アゴニスト投与による治療効果の検討	山田 峻之	顎顔面外科学分野	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
舌痛症患者における脳活動～甘味刺激による疼痛緩和～	渡邊 素子	歯科心身医学	520,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
形成障害に関連するTooth Wearの解明ならびにCARS簡易診断法の確立	和田 奏絵	小児歯科学・障害者歯科学分野	520,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
4次元咀嚼運動解析システムを用いた鼻呼吸障害を改善すべき適正時期の解明	阿部 泰典	咬合機能矯正学分野	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
下顎骨前上方回転が気道に与える影響の流体力学的解析：睡眠時無呼吸の新規治療戦略	喜多 壮馬	咬合機能矯正学分野	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
肥満によるアディポサイトカイン系代謝異常が成長期の矯正学的歯の移動に与える影響	加藤 千帆	矯正歯科外来	520,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
Dscr1が骨芽細胞の遺伝子発現調節機構に与える影響の解明	笠原 由紀	咬合機能矯正学分野	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
質の高い日本版臨床研修指導歯科医評価表の開発	則武 加奈子	歯科総合診療部	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
外国人労働者の入国時健康診断システムの国際比較と実践的政策提言	二見 茜	総合診療医学分野	520,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
生涯における生活習慣病予防のための思春期の生活習慣および社会的リスク要因の解明	那波 伸敏	臨床医学教育開発学	780,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
「光」で骨を造る：革新的な骨再生療法の創出	小野 卓史	咬合機能矯正学	1,235,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
標的指向型liposomeを用いたリラキシンによる口蓋瘻痕組織新規治療法の開発	森山 啓司	顎顔面矯正学	1,235,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
腸管免疫寛容誘導と炎症性腸疾患発症過程の解析	永石 宇司	消化管先端治療学講座	5,720,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
肺線維症責任遺伝子同定と疾患由来IPS細胞分化肺細胞による細胞死と線維化の関連性	瀬戸口 靖弘	統合呼吸器病学	2,730,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
細胞増殖制御に注目した筋損傷回復機構の解明－筋損傷治療のための基盤研究	猪瀬 弘之	整形外科外科学治療開発学講座	6,110,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
骨格筋における代謝異常・サルコペニア肥満と歯周炎の関わり－健康長寿を目指して－	片桐 さやか	歯周病外来	4,615,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
粒子形状を制御した複合酸化物による新規歯内療法用セメントの開発と生体機能性付与	宇尾 基弘	先端材料評価学	1,950,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
有床義歯補綴における臨床と教育のデジタルトランスフォーメーション	水口 俊介	高齢者歯科学	390,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
口腔がんに対するα線源による新規小線源治療：その放射線生物学的基盤の解明	三浦 雅彦	口腔放射線腫瘍学	5,330,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
妊娠期間欠的低酸素がもたらすエピゲノム変化の分子機構解明と医療応用の基盤構築	小野 卓史	咬合機能矯正学	3,510,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
細胞－細胞間および細胞－細胞外コミュニケーションによる器官形成メカニズムの解読	岩本 勉	小児歯科学・障害者歯科学	5,070,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
発達障害における注意機能と社会行動の柔軟性に共通する神経ネットワーク	藤野 純也	精神科	2,470,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ブルキンエ細胞と登上線維のタイムラプス観察によるシナプス刈り込み機構の解明	越膳 真弓	心肺統御麻酔学分野	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
婦人科がん患者に特化した心理療法プログラムの開発	中山 菜央	心身医療科	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
医師に対する起業教育プログラムと日本語版起業の自己効力感・意図尺度の開発	井津井 康浩	医療連携支援センター	689,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
超急性期脳梗塞に対する脂質ライガンド結合型ヘテロ核酸による経静脈的病態制御薬開発	石橋 哲	脳神経病態学	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

小計19件

小計19件

小計19件

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

白血病の遺伝子パネル検査とシグナル蛋白解析を統合した分子標的薬感受性検査法の開発	東田 修二	臨床検査医学	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
アルツハイマー病治療とコンパニオン診断における定量的根拠の解明	三條 伸夫	脳神経病態学	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
親のメンタルヘルステラシー向上を目指した家庭用がん教育教材の開発	竹内 崇	精神行動医学	65,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
遺伝子改変iPS細胞を用いたHBVゲノムの組み込みによる発癌メカニズムの解明	新田 沙由梨	検査部	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
NK細胞サブセットによるクローン病新規治療標的の抽出	藤井 俊光	消化器内科	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ヒトクローン病モデル構築による粘膜治癒機構の解明	大塚 和朗	光学医療診療部	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
小胞体選択的オートファジーの制御システムを標的とした心不全発症機構の解明	前嶋 康浩	循環制御内科学	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
筋電計測原理を用いて視覚的に接触状態が提示可能な心筋細胞生検用ロボット鉗子の開発	梅本 朋幸	循環器内科	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
過敏性肺炎の肺線維化病態解明:抗原提示細胞とγδ T細胞	宮崎 泰成	統合呼吸器病学	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
食道周囲の密性結合組織の組織学的発生的研究	東海林 裕	消化管外科学	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
誘電率測定を用いた直接経口抗凝固薬の薬効評価システムの確立	内田 篤治郎	心肺統御麻酔学	1,950,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
microRNA解析に基づく悪性脳腫瘍の新規治療法とバイオマーカーの開発	田村 郁	脳神経外科	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
てんかんにおけるアデノシンA1受容体活性と心拍変動の関連の研究	稲次 基希	脳神経外科	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
主幹動脈閉塞性脳梗塞に対する血管内治療を用いた新たな側副血行賦活化治療の開発	三木 一徳	血管内治療学	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
メッセンジャーRNA医薬を用いた神経障害性疼痛の新規治療開発	平井 高志	整形外科学	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
外傷急性期におけるアイシングの影響と、高圧・高酸素併用による組織修復促進の検討	柳下 和慶	高気圧治療部	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
DWBSおよびSyMRIによる去勢抵抗性前立腺癌のradiomics評価	吉田 宗一郎	泌尿器科	780,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
内耳メカトランスダクション欠損マウスを用いたシスプラチン難聴の発症機序の解明	川島 慶之	耳鼻咽喉科学	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
デルタ型グルタミン酸受容体の異常による内耳synaptopathyの病態解明	藤川 太郎	耳鼻咽喉科学	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
SLC26A4遺伝子変異で見られる多彩な表現型に関する要因の解明	伊藤 卓	耳鼻咽喉科学	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
歯周病進行の契機となる細菌ネットワークの病原性とその形成機序の解明	竹内 康雄	歯周病学	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
光子圧を応用した治療阻害因子を越えた位置での根管治療を可能とする新規治療法の開発	渡邊 聡	歯髄生物学	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
レーザー応用による非外科的低侵襲歯周組織再生療法の確立と治癒促進効果の解明	青木 章	歯周病学	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
固体NMR測定によるフッ化物効果解析、う蝕予防方法確立へのエビデンス提供	平石 典子	う蝕制御学	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
CAD/CAM冠の加工精度を向上させる切削加工条件の最適化	根本 怜奈	義歯外来	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ナイトデンチャーは多数歯欠損歯列を睡眠時ブラキシズムによるストレスから守れるか?	犬飼 周佑	部分床義歯補綴学	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
表面電荷制御された生体活性型インプラントの臨床応用に向けた基礎的研究	上野 剛史	部分床義歯補綴学	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
区画化型スキャンストラテジーを駆使した歯科補綴装置の高機能・長寿命化	高市 敦士	歯学部附属病院	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
顎骨髄炎の慢性化に関わる細菌病原因子の同定	道 泰之	顎口腔外科学	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
口腔がんにおけるRBPとmRNP granulesによるmRNA制御機構の解明	黒嶋 雄志	顎口腔外科学	1,352,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
髄・靭帯細胞の骨化制御の解明とアデノシン経路に着目した治療法開発	佐久間 朋美	口腔外科外来	780,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
成長期鼻呼吸障害の早期改善による顎顔面成長機構への影響と治療意義の解明	米満 郁男	咬合機能矯正学	975,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
根尖部ニッチにおけるセメント質形成微小環境の構築と歯根吸収予防・修復への臨床展開	松本 芳郎	矯正歯科外来	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
GPCRクラスA転写マップの作成～唾液腺由来のRNA核酸医療の骨再生への応用	渡 一平	咬合機能矯正学	1,625,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
Functional MRIを用いた子どもの不正咬合と脳活動の縦断研究	保田 裕子	顎顔面矯正学	390,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
成長期骨代謝に与える身体運動刺激と咀嚼刺激の相乗作用:血中ホルモン動態に着目して	清水 康広	咬合機能矯正学	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
セロトニンを標的とした小児睡眠時無呼吸症モデル動物における軟骨性骨形成障害の検証	細道 純	咬合機能矯正学	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
極地閉鎖環境における口腔疾患発症メカニズム解明に関する研究	財津 崇	健康推進歯学	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
特定機能病院における医療安全の定量評価法の開発と有害事象に伴う追加的医療費の検討	鳥羽 三佳代	クオリティ・マネジメント・センター	1,105,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
日々の患者状態と診療情報を用いた病棟の忙しさと有害事象発生に関する研究	森脇 睦子	クオリティ・マネジメント・センター	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
服薬時嚥下障害への新規治療戦略:薬剤Dosage Forms(剤型)による解析	山脇 正永	臨床医学教育開発学	1,365,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
身体と口、喉の湿きの時間的、定量的な関係解明	上野 俊明	スポーツ歯医学	884,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
バスケット型臨床試験における治療効果の異質性評価のための統計的方法論の研究開発	平川 晃弘	臨床試験管理センター	390,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
近赤外蛍光検査システムを応用した新しい嚥下機能評価に関する基礎的研究	吉見 佳那子	摂食嚥下リハビリテーション外来	780,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
Crohn病リンパ管内肉芽腫の成因および由来に関する検討	児玉 真	人体病理学	2,340,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

小計19件

小計19件

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

肺小細胞癌における新たな診断マーカーの探索的研究	榊原 里江	呼吸器内科	650,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
活性化NK細胞を用いた新たなCAR-NK細胞療法の開発	神谷 尚宏	臨床試験管理センター	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
慢性腎臓病、老化によるサルコペニアの診断バイオマーカーの探索と分子病態の解明	萬代 新太郎	血液浄化療法部	2,080,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
横隔膜エコーを用いた横隔膜機能不全評価の標準値・計測方法の確立と教育コースの開催	山田 徹	総合診療科	650,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ドパミン機能障害の視点からみた抑うつ:DAT-SPECTへのテクニカル解析の応用	田村 起統	画像診断・核医学	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ゲーム障害におけるハームリダクションの観点に基づいた入院治療の効果とその神経基盤	小林 七彩	精神行動医学分野	130,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
日中の眠気の新規客観的評価・鑑別法の確立—脳波の聴覚情報処理反応への応用	高木 俊輔	精神行動医学	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
自閉スペクトラム症における意思決定や行動選択の柔軟性低下について	藤野 純也	精神科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
乳癌患者における[F-18]FLT PET/CTの診断基準の確立に関する研究	森 美央	画像診断・核医学	260,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ネフローゼ新規治療開発を目指した腎糸球体ポドサイトの足突起制御機序の解明	宇田川 智宏	小児科	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
IKZFファミリーの協調的な転写制御の異常によるリンパ球分化障害の病態解明	山下 基	小児科	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
肺高血圧症の病態におけるインスリン分泌促進ホルモン、その分解酵素の役割は？	細川 奨	茨城県小児・産産期地域医療学講座	637,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
脳室周囲白質軟化症児の歯髄幹細胞解析による幹細胞移植基盤構築と発症機序解明	岩田 はる香	小児科	650,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
Omnipolar電位の周波数解析による局所電位選択の三次元マッピングへの応用	滝川 正晃	先進不整脈学講座	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
全エクソン解析による日本人における間質性肺炎疾患関連遺伝子の解明	岡本 師	肺免疫治療学講座	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
酸化ストレスを用いた間質性肺炎の病勢評価に関する研究	飯島 裕基	呼吸器内科	650,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
WNKシグナルの網羅的解析による新規高血圧治療薬の開発	磯部 清志	腎臓内科学	2,080,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
炎症と免疫システムが寄与する慢性腎臓病の塩分感受性高血圧の病態解明	橋本 博子	腎臓内科学	1,950,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
悪性黒色腫発症機序の解明と発症早期における癌幹細胞の特定	西田 真紀子	皮膚科学	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
PECAM-1と骨髄間質細胞が白血病難治化に及ぼす影響の検討	梅澤 佳央	血液内科	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
FLT3-ITD陽性AMLに対するRSKを標的とした新規治療法の開発	岡田 啓五	血液内科	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
傷害筋が誘導する免疫応答や筋機能障害を起点とした炎症性筋疾患の病態解明	神谷 麻理	膠原病・リウマチ内科	2,080,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
多発性筋炎の病態におけるPD-L1の機能解析及び治療への応用	佐々木 広和	生涯免疫難病学講座	2,080,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
最新人工股関節の生体内耐摩耗性解明と次世代インプラント開発への応用	高田 亮平	整形外科	1,820,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
軟骨再生での間葉系幹細胞の増殖機序の解明と増殖を制御する関節内完結型治療法の発案	日山 鐘浩	運動器外科学	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
腎癌の発育形態と被膜周囲微小環境の病理学的探索および新規リスクモデルの構築	田中 一	泌尿器科	2,470,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
Dickkopf-4が閉経後骨粗鬆症に与える影響	平光 史朗	生殖機能協同学	2,210,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
本邦における重症筋無力症合併妊娠の臨床予後検討およびデータベース構築	羅 ことい	生殖機能協同学分野	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
Pendred症候群モデルマウスにおける平衡障害の評価	渡邊 浩基	耳鼻咽喉科学	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
日本の学童における近視の実態調査	五十嵐 多恵	眼科	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
神経吻合部の早期機能回復に対する多血小板血漿の効果の検討	黒澤 小百合	形成・再建外科学	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
低酸素培養が歯髄幹細胞シートの特性に与える影響と歯根端切除窩窩洞再生への応用	野田 園子	むし歯外来	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
慢性腎臓病へ歯周病が与える影響についての疫学調査ならびにメカニズムの基礎的解析	三上 理沙子	歯周病外来	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
自動根管形成・応力解析装置によるNiTiファイルの形成動作と応力発生規格外解析	牧 圭一郎	むし歯外来	2,210,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
歯髄炎におけるHMGB1とネクロトーシスの関連の解明とその制御	橋本 健太郎	歯髄生物学	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
糖尿病を伴った慢性歯周炎へのレスベラトロールに着目した創薬プラットフォームの構築	池田 恵莉	臨床腫瘍学分野	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
光エネルギーのphotobiomodulation効果による歯周炎の進行抑制	大杉 勇人	歯周病外来	2,340,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
歯冠修復用ジルコニア材に対するイオン注入法の確立	佐藤 隆明	う蝕制御学	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
糖尿病状態におけるβ-TCPを用いた歯周組織再生療法の効果への影響	武田 浩平	歯周病外来	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
miRNA内包エクソソームによる歯髄炎抑制・修復促進機序の解明と臨床応用への展開	奈良 圭介	歯髄生物学	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
歯周病が骨格筋の糖代謝異常に与える影響と関連遺伝子の探索	佐々木 直樹	歯科総合診療部	2,080,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
糖尿病モデル動物の歯周組織の創傷治癒に経口糖尿病治療薬が与える効果	城戸 大輔	歯科総合診療部	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
高血糖値が象牙質の材料特性に及ぼす影響 —糖尿病モデルマウスを用いた検討—	稲川 英明	部分床義歯補綴学	1,820,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
インプラント周囲炎の再生と予防—細胞増殖因子と表面性状—	井川 貴博	歯周病学	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
MMA系レジセメントのCAD/CAM冠に対する接着機序の解明と接着耐久性の向上	品川 淳一	う蝕制御学	2,080,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

小計19件

小計19件

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

Ge-132含有類脂脂肪由来幹細胞スフェロイドによる骨再生療法の開発	山本 麻衣子	インプラント外来	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	小計19件
3Dプリンタを応用した水平性骨欠損、根分岐部病変に対する歯周組織再生療法の開発	福場 駿介	歯周病外来	2,210,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
カスタムディスクを用いた次世代型CAD/CAM全部床義歯の製作	荒木田 俊夫	高齢者歯科学	780,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
化学的接着機構を有するPEEKの開発と歯科補綴装置作製のための基礎的研究	瀧田 美奈	義歯外来	1,820,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
糖尿病を伴う睡眠時無呼吸症に対する口腔内装置療法の有効性—糖代謝へ及ぼす影響—	宮園 敬資	歯科麻酔・口腔顔面痛制御学分野	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
口腔がんにおけるmiR-3140のがん核転写治療応用性の検討	外内 えり奈	口腔外科外来	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
医原性歯根吸収を予防する新規矯正歯科治療法の開発;CBCTデータベースの展開	大石 修史	咬合機能矯正学	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
小児の閉塞性睡眠時無呼吸における包括的スクリーニング法の確立	間邊 安寿雅	矯正歯科外来	1,820,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
機械的受容体シグナルを応用した新規硬組織形成誘導法の開発	杉本 明日菜	小児歯科学・障害者歯科学	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
メカノバイオロジー統合解析による歯槽骨のリモデリング制御機構の解明	小笠原 毅	顎顔面矯正学	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
口腔周囲筋性質(筋量、筋質、筋硬度)を用いた、新しい口腔機能評価法の確立	山口 浩平	摂食嚥下リハビリテーション外来	130,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
歯周病は骨格筋合成・収縮を阻害する—歯周病誘発ラットでの運動介入研究	林 海里	スポーツ歯科外来	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
口腔科学的知見に基づく新規アスリートコンディション評価法開発にむけた実測調査	田邊 元	顎義歯外来	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
臨床研修歯科医を対象とした歯科医療安全教育プログラムの開発	木村 康之	歯科総合診療部	520,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
ICUにおける抗菌薬適正使用支援プログラム手法の開発	三島 有華	生体集中管理学分野	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
術後遺残疼痛に対する理学療法的作用機序の解明と多角的定量評価による効果の検証	中村 香織	運動器外科学	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
膝ACL再建術後選手の競技復帰基準となる新たな跳躍能力指標の標準化に向けた研究	廣幡 健二	リハビリテーション医学分野	520,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
前十字靭帯再建術後アスリートの反応時間の遅れに着目した新たなスポーツ復帰指標作成	大路 駿介	リハビリテーション医学分野	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
グラフ理論と自然言語処理技術を用いた統合失調症の脳内単語ネットワーク解析	高橋 英彦	精神行動医科学	3,900,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
スフェロイド・デザインによる原腸由来臓器作成技術の開発	岡本 隆一	消化器病態学	2,600,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
超小型次世代シーケンサーによる口腔内細菌叢ディスパイオーシス検出システムの構築	岩田 隆紀	歯周病学	1,950,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
血液脳関門を自由自在に通過するオーバーハング2本鎖核酸技術の創生	吉岡 耕太郎	脳神経病態学	1,950,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
臍帯由来間葉系幹細胞を用いた子宮内発育遅延児における生活習慣病発症危険因子の同定	森丘 千夏子	茨城県小児・周産期地域医療学講座	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
オミックス解析を利用したKCNJ5変異を有するアルドステロン産生腺腫の病態解明	村上 正憲	糖尿病・内分泌・代謝内科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
hiPS細胞由来自己組織化腸管スフェロイドによるグラフト製造および移植法の開発	水谷 知裕	消化器内科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
成人の慢性腎臓病患者に潜在するネフロン癆の実態解明	藤丸 拓也	腎臓内科学	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
サーモグラフィを用いた非侵襲リアルタイム冠動脈流量計測法の開発	田原 禎生	心臓血管外科学分野	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
変性半月板断裂膝中の関節液に存在する間葉系幹細胞の遊走を促進する因子の探索	渡部 直人	整形外科	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
脳梗塞患者におけるPAD4・NETsを介した血栓形成の病態解明	藤田 恭平	血管内治療学	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
複雑な根管系での三次元的LAI水流挙動、清掃性と安全性解明と臨床応用手技の確立	高野 晃	むし歯外来	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
骨細胞によるメカノセンシングに注目した咬合性外傷制御機構の解明	土谷 洋輔	歯周病外来	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
メタトランスクリプトーム解析で解き明かす顎骨骨髄炎の病原因子	加地 博一	口腔外科外来	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
歯科用レーザーの各波長の歯周組織における蒸散効果と創傷治癒の解析	川村 梨恵	歯周病学	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
α線源が口腔がんの細胞周期動態に与える影響とそれを標的とした放射線増感法の開発	野島 瞳	歯科放射線外来	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
リラキシンを応用した新規頭蓋骨縫合部制御法の開発にむけた基礎的研究	紙本 裕幸	矯正歯科外来	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
摂食嚥下評価を目的とした柔軟性超音波端子の開発	黒澤 友紀子	摂食嚥下リハビリテーション学	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
BMP-2遺伝子導入とRANKL結合ペプチドを用いた顎骨における骨造成法の開発	長弘 茂樹	小児歯科外来	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
頭頸部軟組織再生へ向けたナノゲル集積材料の構築と機能評価	木下 直哉	顎口腔外科学分野	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
メタトランスクリプトーム解析を基にした口唇裂・口蓋裂患者における細菌叢の解明	松橋 健太	矯正歯科外来	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
遺伝カウンセリングアウトカム尺度開発に資する研究	高橋 沙矢子	遺伝子診療科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
中殿筋の活動量を高めるための大腿骨形態を考慮した股関節エクササイズ方法の開発	見供 翔	スポーツ医学診療センター	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
ベイズ流モデル平均化を応用した新規ベイズ流用量探索法の研究開発	佐藤 宏征	臨床試験管理センター	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
異所性骨化における線溶系酵素の役割の解明と新規骨形成薬の開発	吉井 俊貴	整形外科	3,510,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
固体核磁気共鳴法による、フッ化物含有生体活性ガラスの歯質欠損修復機能の解析	平石 典子	う蝕制御学	4,745,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
制御領域の変異同定と非コードRNA転写・スプルーエンハンサー活性化機構の解明	磯田 健志	発生発達病態学	6,110,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	

小計19件

小計19件

小計19件

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

IKZF転写因子の生理的構造差異による機能分担と変異による転写調節変調機構の解明	森尾 友宏	発生発達病態学	5,980,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ヒトPS細胞由来複合型自己組織化腸管組織を用いた難治性腸炎モデルの確立	水谷 知裕	消化器内科	7,280,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
PKA関連疾患の病態解明と治療薬開発	安藤 史頭	腎臓内科	6,500,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ミトコンドリア関連小胞体膜を介した褐色脂肪細胞の即時的熱産生亢進機構の解明	池田 賢司	糖尿病・内分泌・代謝内科	6,500,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
疾患解明アプローチによる筋・骨組織の機能回復を目指した腱組織再生の分子基盤解析	依田 哲也	顎顔面外科学	650,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
敗血症性ショックの蘇生における個別化戦略:多施設ランダム化試験とメタアナリシス	遠藤 彰	救命救急センター	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
自動分析装置による高比重リポタンパク重分画コレステロールの測定	藤井 祐葵	検査部	470,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ポリロタキサンを基盤とした細胞接着足場による歯周組織再生の試み	益田 洋輝	顎顔面外科学分野	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ES細胞による歯周組織再生と顎顔面領域発生メカニズムの解明	森田 和機	歯周病学分野	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
刑事責任能力鑑定における精神障害が犯行に与えた影響の機序の描出と読解に関する研究	岡田 幸之	精神行動医科学	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
表在型食道扁平上皮がん浸潤様式の総合的評価法の確立と分子基盤の探究	大橋 健一	人体病理学	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
大腸癌治療薬の基礎解析データからの血中循環バイオマーカー同定と生物学的意義の解析	末永 光邦	総合外科学	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ブルキンエ細胞特異的遺伝子発現に着目したSCA31モデルマウスの病態解析	石川 欽也	長寿・健康人生推進センター	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
てんかん発作発生に寄与する患者個別の時間生物学的・心理的指標の探索	宮島 美穂	精神行動医科学	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
骨痛の客観的評価のための画像研究	立石 宇貴秀	画像診断・核医学	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
クローン病の腸管MR画像におけるマルチベンダー対応AI画像診断支援システムの開発	北詰 良雄	医療情報部	2,925,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
DNA損傷修復異常が糖代謝に与える影響とインスリン抵抗性糖尿病発症機序の解明	高澤 啓	発生発達病態学	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
肝星細胞におけるTNFシグナルを基軸とした肝線維化分子機構の解明	東 正新	消化器連携医療学講座	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
CD4-CD8 α β -TCR α β +T細胞のアナジー誘導性抗原提示能の解析	根本 泰宏	消化器病態学	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
肝臓オルガノイドを用いた肝臓微小環境中免疫学的プロファイルに関わる病態解明	村川 美也子	消化器内科	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
複合イメージング系による腸管腫瘍ニッチにおけるT細胞動態の可視化	小田柿 智之	消化器内科	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
炎症性腸疾患における小腸難消化機構の解明	竹中 健人	消化器連携医療学講座	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
腎臓オルガノイドを用いた腎線維化増悪因子の探索	須佐 統一郎	腎臓内科学	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ウロモジュリンの生理的制御メカニズムと病態生理学的機序の解明	森 崇寧	血液浄化療法部	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
好中球異常を伴う自己炎症性疾患の病態解明と治療法開発	尾崎 富美子	発生発達病態学	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
成人免疫異常症の診断と病態理解のための基礎的研究	木村 直樹	生涯免疫難病学講座	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
副腎皮質ステロイドを補完する新規炎症制御薬の開発	細矢 匡	膠原病・リウマチ内科学	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
肝臓癌における化合物スクリーニングによる新規抗がん剤併用療法の開発と臨床応用	田邊 稔	肝胆膵外科学	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
肝臓癌における悪性形質メカニズムに関連するRRM1の機能解析と治療薬への応用	小野 宏晃	肝胆膵外科学	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ウイルス感染症による血液凝固メカニズムを踏まえたECMO内血栓予防技術の開発	藤原 立樹	心臓血管外科	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
経時的遺伝子発現解析を用いた敗血症慢性重症経過の病態解明と予測モデル構築	内御堂 亮	生体集中管理学分野	1,651,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
半月板の形成、恒常性及び損傷後修復におけるBMPの生理機能の解析	辻 邦和	軟骨再生学講座	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
重症心身障害児(者)の続発性骨粗鬆症の病態を解明し、治療方法を作成する。	酒井 朋子	リハビリテーション部	3,455,400	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
肉腫微小環境を標的とした新規肉腫治療指針の開発	菊地 克史	分子生命医学講座	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
更年期症状に対するピリドキサミンの効果についての閉経モデル動物を用いた基礎的研究	寺内 公一	茨城県地域産科婦人科学講座	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
超高齢化社会における転倒リスク評価のための重力認知機能パラメータ開発	堤 剛	耳鼻咽喉科学	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
シングルセル解析による内リンパ嚢の発生メカニズムの解明	本田 圭司	耳鼻咽喉科	1,950,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
再発転移頭頸部癌に対する近赤外線免疫療法症例におけるバイオマーカー探索研究	朝蔭 孝宏	頭頸部外科学	650,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
外陰圧リンパ浮腫モデルでの脂肪増生の検討 -スキャフォールド移植の新たな可能性-	森 弘樹	形成・再建外科学	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
HSP40ファミリーと変異p53間の相互作用を標的とした新規癌治療法の開発	戒田 篤志	口腔放射線腫瘍学	1,820,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
硬組織誘導能と炎症制御能を具備する新規直接覆髄材の開発とその臨床応用への展望	川島 伸之	歯髄生物学	1,339,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
胃食道逆流症疾患と酸蝕症との関連性および口腔胃食道領域における医科歯科連携の構築	北迫 勇一	う蝕制御学	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
NiTiファイル形成システムを構築するために手の動きをシミュレートする	海老原 新	歯髄生物学	1,950,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
歯内療法対象疾患に伴う疼痛制御因子の解明とその疼痛緩和に向けた実験モデルの構築	砂川 光宏	歯科総合診療部	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
Mg-Sr修飾型吸収性ハイドロキシアパタイト線維を用いた革新的骨再生材料の開発	今 一裕	インプラント外来	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

小計19件

小計19件

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

残存歯質保護を考慮した次世代高強度メタルフリー支台築造の検討	駒田 亘	義歯外来	1,950,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
口腔機能低下症とフレイルの縦断調査:口腔機能におけるフレイルリスク因子の 解明	濱 洋平	高齢者歯科学	1,820,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
上顎インプラントオーバーデンチャーは2本のインプラントで機能するか?	岩城 麻衣子	歯科総合診療部	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
人工知能を活用した部分床義歯設計システムの開発研究	笹木 賢治	部分床義歯補綴学	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
高齢者における食前ガム咀嚼は血糖値上昇を抑制するか?	駒ヶ嶺 友梨子	高齢者歯科学	1,885,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
顎変形症の術後の長期経過患者における睡眠時無呼吸症の発症リスクと顎骨 移動の関係	友松 伸允	顎顔面外科学	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
甘草由来フィトケミカルによる気管支調節機構の分子機序解明	脇田 亮	歯科麻酔・口腔顔面痛制御学	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
幼若永久歯再植後の新規治療法を探索する:NFκBゲノム核酸導入の効果	石田 雄之	咬合機能矯正学	1,482,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
咬合刺激低下歯の歯周組織に与えるペリオスチンブライズ/リアントの機能的 差異	白見 莉沙	矯正歯科外来	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
歯の萌出に伴う生理的機能獲得の解明ー歯根膜咀嚼筋反射応答機構の成熟 過程の評価ー	桐本 博章	咬合機能矯正学	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
病院ビッグデータを用いた歯科疾患の決定要因の解析	梅森 幸	歯科総合診療部	2,080,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
口臭からの全身疾患の発見を目指したイオン付着質量分析法による広範囲の 口臭測定	大城 暁子	息さわやか外来	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
高位脛骨骨切り術前後の患者のランニング中の膝内反モーメントを抑える運動 療法の開発	大見 武弘	スポーツ医学診療センター	2,002,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
脱細胞化骨を用いた、新しい人工ヒト骨髄およびヒト骨髄異形成症候群モデル の作成	大西 威一郎	病理部	2,210,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
リキッドバイオプリンターによる免疫チェックポイント阻害薬の早期効果判定法の開 発	三ツ村 隆弘	呼吸器内科	2,340,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
細胞外に留置した金粒子による放射線治療増感法の開発	長野 拓也	放射線治療科	2,730,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
敵対的生成ネットワークによる乳房超音波画像を生成し教育や研究への応用を 目指す研究	藤岡 友之	放射線診断科	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
背部の外部振動による乳房MR elastographyの撮像法確立と有用性検証	山鹿 絵美	画像診断・核医学	780,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
モヤモヤ病、大動脈狭窄など全身性に血管狭窄をきたす新規疾患の病態解明	鹿島田 彩子	総合教育研修センター	2,600,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ヒト小腸・大腸運命決定因子の同定による人工的腸管長制御の開発	日比谷 秀爾	光学医療診療部	2,730,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
新規iPS由来肝細胞・肝オルガノイド系を用いた肝発癌モデルによる発癌機構 解明	三好 正人	消化器病態学	2,340,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
食餌由来因子ゲニステインの腸上皮機能調節作用の解析	河本 亜美	消化器内科	2,340,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
慢性閉塞性肺炎患者の病態における好塩基球、間質マクロファージの役割	柴田 翔	呼吸器内科	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ALOX15を軸とした腎内脂質メディエーターの網羅的解析と慢性腎臓病への応 用	松浦 喜明	腎臓内科学	2,340,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
マスト細胞と発汗の相互作用の研究	飯田 忠恒	皮膚科	1,820,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
摂食時間制限が糖脂質代謝を改善する分子メカニズムの解明	辻本 和峰	糖尿病・内分泌・代謝内科	2,340,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
脂肪組織に由来するエクソソームmiRNAを介した肝細胞増殖機構の解明	小宮 力	糖尿病・内分泌・代謝内科	2,340,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
膝神経内分泌腫瘍の予後予測のためのイメージングバイオマーカーの開発	上田 浩樹	肝胆膵外科	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
悪性胸膜中皮腫におけるがん幹細胞マーカーの機能解析	中島 康裕	呼吸器外科学	1,820,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
シングルセル解析による外傷後肺障害の病態解明	千田 篤	救急災害医学分野	2,080,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
高静水圧印加処理による脱細胞化半月板を用いた新たな半月板再生方法の 確立	渡部 直人	整形外科	1,820,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
膝滑膜由来間葉系幹細胞のIL1βによる増殖の分子機序の解析と再生医療へ の応用	松村 恵津子	高気圧治療部	2,600,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
卵子中の脂肪滴を管理することで、胚発生や出生後の発育までも変化させう る	辰巳 嵩征	茨城県小児・周産期地域医療学 講座	2,600,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
セツキシマブ長期投与による舌癌細胞の細胞骨格系と細胞内タンパク輸送に 及ぼす影響	奥山 紘平	顎口腔外科学	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
NiTiファイルの応力発生への形成動作の影響:自動計測システムを用いた規格 化解析	木村 俊介	むし歯外来	2,340,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
最小限の根管形成・狭窄根管での根管治療を確立するためのLAI応用による総 合的解析	高野 晃	むし歯外来	1,820,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
歯周組織再生療法においてFGF-2と併用する理想的な骨補填材の究明	星 嵩	歯周病学	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
メカニカルストレス存在下における歯根膜と骨構成細胞のクロストーク機構の解 明	土谷 洋輔	歯周病外来	2,730,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
トランスオミクス解析から紐解くインプラント周囲炎の網羅的解明	芝 多佳彦	歯周病学	2,470,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
低酸素誘導因子HIF1aにより誘導されるマイクロRNAの歯髄炎進展における役 割	藤井 真由子	むし歯外来	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
3Dプリンタと成長因子FGF-2を応用した顎骨増大とインプラント同時埋入法の 開発	岡田 宗大	歯周病外来	1,820,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
入院・入所高齢者の「食のQOL」とオーラルフレイルの関連	鈴木 啓之	義歯外来	1,950,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
自己乏血小板血症による骨形成機序の解明と歯槽骨増生法の確立	寺内 正彦	口腔外科外来	2,470,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
Nager症候群の発症機序の解明と頭蓋顔面の形態形成不全の予防	山田 隆彦	顎顔面外科学	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
H19長鎖非コードRNAの作用原理に基づく核酸医薬による神経障害性疼痛治 療	伊藤 孝哉	歯科麻酔・口腔顔面痛制御学	1,950,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

小計19件

小計19件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

シングルセルオミクス解析による変形性顎関節症の病態解明と新規治療法開発	門田 千穂	矯正歯科外来	2,600,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	小計19件
歯科矯正用アンカースクリュー植立に伴う骨損傷が周囲軟組織の免疫応答に与える影響	上園 将慶	顎顔面矯正学	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
脳および全身の運動機能を支える臼歯・前歯の役割ーファンクショナルMRIによる検討	吉澤 英之	矯正歯科外来	2,470,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
AIエンジンを使用した学習者表情分析による講義満足度の検証	赤石 雄	茨城地域医療学講座	650,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
医療従事者の手指衛生モニタリング方法の新規開発とその精度に関する研究	田頭 保彰	統合臨床感染症学分野	2,600,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
IoT化したスマート杖の開発と高齢者における運動誘発効果の検証	鏑木 秀俊	整形外科	2,210,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
口腔がん患者の錠剤内服困難についての検証と解決策の究明	吉住 結	摂食嚥下リハビリテーション学	3,250,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
グルコース輸送体の生物学的機序を活用した血液脳関門通過型抗体の開発	平田 浩聖	脳神経病態学	9,100,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
OAS1-RNaseL axisの操作によるウイルス制御にむけての挑戦的研究	森尾 友宏	発生発達病態学	3,380,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
自己組織化に依存しない多細胞人工発癌オルガノイドモデルの開発と細胞連関解析	朝比奈 靖浩	肝臓病態制御学講座	2,340,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
宇宙実験を利用した機械的ストレス応答マイクロRNAの同定と老化バイオマーカー開発	佐藤 信吾	がん先端治療部	2,990,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
PhotobiomodulationとES細胞由来MSCを用いた再生療法の新戦略	片桐 さやか	歯周病外来	3,640,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
国際比較によるユニバーサル・ヘルス・カバレッジの受診格差抑制効果の検証	相田 潤	健康推進歯学	2,145,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
PKA直接活性化法を用いた肥満症の病態解明および新規治療薬の開発	藤木 珠美	腎臓内科	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
腎組織リポドミクスを用いた慢性腎臓病の病態解明および新規治療薬の開発	高橋 直宏	腎臓内科学	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
全身投与で脳に到達し遺伝子制御可能な新規siRNA核酸医薬の創出	浅見 裕太郎	脳神経病態学	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
滑膜線維芽細胞におけるGLI3の機能解析	小宮 陽仁	膠原病・リウマチ内科学	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
滑膜線維芽細胞サブセットとマクロファージサブセットの病的相互作用関連分子の同定	田川 泰寛	膠原病・リウマチ内科学	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
がん幹細胞を標的にした新規近赤外光線免疫療法の開発	岡田 隆平	頭頸部外科	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
神経内分泌腫瘍の治療方針の層別化～臨床病理学的アプローチとバイオマーカーの検索～	浅野 大輔	肝胆脾外科	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
過敏性肺炎の線維化メカニズムの解明	古澤 春彦	呼吸器内科	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
腸管上皮細胞-上皮間リンパ球細胞間接触を標的とした新規腸管腫瘍免疫療法の開発	森川 亮	光学医療診療部	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
非症候性部分無歯症におけるOPN3の機能と分子制御解明	稲垣 有美	矯正歯科外来	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
ポリグリコール酸/キトサン複合体を用いた生体接着性シートの開発	稲田 大佳輔	口腔外科外来	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
次世代グリーン材料を用いた軽くて丈夫なデジタル義歯用3Dプリント樹脂の開発	羽田 多麻木	高齢者歯科学	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
Photobiomodulation活性型歯根膜由来幹細胞による再生療法の新展開	新見 ひろみ	歯周病外来	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
標的臓器における受容体発現量調節を目的とした骨粗鬆症の新規治療戦略の開発	三木 裕仁	歯科総合診療部	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
COVID-19蔓延期における行政と病院間の連絡体制に関する実態調査	宮前 繁	災害テロ対策室	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
職場のパワーハラスメントの行為者側リスク要因とその機序:縦断調査	木津喜 雅	東京都地域医療政策学講座	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
変形性股関節症の進行抑制を目的とした運動療法の確立-股関節角度と重心位置の制御-	井原 拓哉	運動器機能形態学講座	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
精神疾患における思考の障害の神経基盤の解明と支援法の開発	高橋 英彦	精神行動医学	12,027,649	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
4リポータウの質的違いに基づく病態診断と髄液診断への応用	内原 俊記	脳神経病態学	2,795,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
血液脳関門通過性ヘテロ核酸の開発	横田 隆徳	脳神経病態学	2,340,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
RNA-結合蛋白のバランス仮説に基づく神経疾患の病態・治療法探索	石川 欽也	長寿・健康人生推進センター	1,151,670	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
心筋・骨格筋の任意の遺伝子制御を可能とする革新的な核酸医薬の開発	永田 哲也	脳神経病態学	2,340,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
病的近視による眼球変形メカニズム解明と眼球壁再生治療の確立	大野 京子	眼科学	3,745,885	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
骨格筋における代謝異常・サルコペニア肥満と歯周炎の関わり-健康長寿を目指して-	片桐 さやか	歯周病外来	2,600,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
妊娠期間欠的低酸素がもたらすエピゲノム変化の分子機構解明と医療応用の基盤構築	小野 卓史	咬合機能矯正学	6,409,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
原発性免疫不全症の遺伝的素因解明に関する研究	谷田 けい	発生発達病態学	830,677	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
自己免疫疾患に関する調査研究	森 雅亮	生涯免疫難病学講座	36,000,000	補	厚生科研費	小計19件
原発性免疫不全症候群の診療ガイドライン改訂、診療提供体制・移行医療体制構築、データベースの確立に関する研究	森尾 友宏	発生発達病態学	35,490,000	補	厚生科研費	
外傷患者に対する適切な救急医療提供体制の構築に資する研究	大友 康裕	救急災害医学	2,900,000	補	厚生科研費	
歯科口腔保健の推進に資するう蝕予防のための手法に関する研究	相田 潤	健康推進歯学	1,799,000	補	厚生科研費	
移行期IIAを中心としたリウマチ性疾患における患者の層別化に基づいた生物学的製剤等の適正使用に資する研究	森 雅亮	生涯免疫難病学講座	7,000,000	補	厚生科研費	
潜水業務における現場で出来る応急対応に関する研究	柳下 和慶	高気圧治療部	10,010,000	補	厚生科研費	

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

発汗異常を伴う稀少難治療性疾患の治療指針作成、疫学調査の研究	横関 博雄	皮膚科学	9,100,000	補	厚生科研費
ゲーム障害の診断・治療法の確立に関する研究	治徳 大介	精神科	1,000,000	補	厚生科研費
成人期における口腔の健康と全身の健康の関係性の解明のための研究	相田 潤	健康推進歯学	3,950,000	補	厚生科研費
CRP遺伝子多型解析による食道癌リンパ節転移リスク診断キットの開発	川田 研郎	消化管外科学	88,000	委	国立大学法人秋田大学
がん治療薬効判定のための標準画像診断に関する研究	立石 宇貴秀	画像診断・核医学	700,000	委	国立研究開発法人国立がん研究センター
発達障害の社会的行動障害に関するマルチモーダルMRI研究	高橋 英彦	精神行動医学	1,000,000	委	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
cT1-2N0-2胃癌におけるロボット支援下胃切除術の腹腔鏡下胃切除術に対する優越性を検証するランダム化比較試験	徳永 正則	消化管外科学	30,000	委	静岡県立静岡がんセンター
間質性肺炎に対する多施設共同前向き観察研究	宮崎 泰成	統合呼吸器病学	250,000	委	国立大学法人東海国立大学機構
「高中性脂肪血症を合併した冠動脈疾患を対象としたペマフィブラートの冠動脈プラークの退縮に及ぼす影響を検討する無作為化非盲検群間比較試験」(PEMA-CORE study)	佐野 哲郎	循環制御内科学	632,500	委	国立研究開発法人国立循環器病研究センター
世界トップレベルの地域医療を東京に構築する事業	竹村 洋典	総合診療医学分野	29,140,000	委	東京都
クリゾチニブの再発または難治性ALK(anaplastic lymphoma kinase)陽性未分化大細胞型リンパ腫(anaplastic large cell lymphoma, ALCL)に対する第II相および再発または難治性神経芽腫に対する第I相医師主導治験	立石 宇貴秀	画像診断・核医学	1,760,000	委	独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター
次世代血液脳門通過性ヘテロ核酸の開発による脳神経細胞種特異的分子標的治療とブレインイメージング	横田 隆徳	脳神経病態学	106,210,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
注意欠如多動性障害の薬物療法の神経基盤の解明	高橋 英彦	精神行動医学	32,500,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
乳児急性リンパ性白血病発症の病態解明と治療層別化に有用な因子の同定	高木 正稔	発生発達病態学	8,450,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
ポイントオブケア型直接経口抗凝固薬・薬効評価システムの開発	内田 篤治郎	心肺統御麻酔学	34,960,562	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
Harnessing partial reprogramming to uncover rejuvenation strategies for aging brains.	吉岡 耕太郎	脳神経病態学	2,600,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
iPS細胞を用いた機能的ヒト腸管グラフト構築・製造法の開発	岡本 隆一	消化器病態学	13,000,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
トランスフェリン介在性中枢神経送達を利用した髄腔内投与型オーバーハングヘテロ2本鎖核酸の研究開発	吉岡 耕太郎	脳神経病態学	15,600,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
RNA標的創薬技術開発／核酸医薬品実用化のための製造及び分析基盤技術開発(革新的次世代核酸医薬-2)	横田 隆徳	脳神経病態学	135,200,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
免疫担当細胞eQTL データを用いた免疫介在性疾患ゲノム情報からの層別化および予後予測モデルの構築	保田 晋助	膠原病・リウマチ内科学	390,000	委	国立大学法人東京大学
人生ステージに沿った健康および精神・神経疾患の統合MRIデータベースの構築にもとづく国際脳科学連携	高橋 英彦	精神行動医学	4,030,000	委	国立大学法人東京大学
核酸検出等の方法を用いた原発性免疫不全症等治療可能な新生児・小児期疾患に対する新生児マススクリーニング法の開発	今井 耕輔	茨城県小児・周産期地域医療学講座	19,000,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
造血細胞移植後難治性感染症に対する複数ウイルス特異的T細胞療法の臨床研究	森尾 友宏	発生発達病態学	49,400,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
関節リウマチ関連線維芽細胞サブセットを標的とした新規治療戦略の開発	保田 晋助	膠原病・リウマチ内科学	15,600,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
ヒトiPS細胞誘導性肝オルガノイドを用いた革新的疾患モデルの開発および肝線維化と発がんを抑制する治療法の創成	朝比奈 靖浩	肝臓病態制御学講座	13,080,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
原発性免疫不全症・自己炎症性疾患・早期発症型炎症性腸疾患の臨床ゲノム情報を連結した患者レジストリの構築研究	森尾 友宏	発生発達病態学	11,621,350	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
前立腺特異的膜抗原をターゲットにした前立腺癌の画像診断法の確立と実用化に向けた機器開発に関する研究	立石 宇貴秀	画像診断・核医学	23,400,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
COVID-19感染症に伴う血管内皮障害の発生メカニズムの解明とその制御	保田 晋助	膠原病・リウマチ内科学	3,510,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
原発性免疫異常症患者を対象としたシロリムスの有効性及び安全性を検討する医師主導治験	今井 耕輔	茨城県小児・周産期地域医療学講座	78,000,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
患者レジストリを活用した脊柱靭帯骨化症の治療成績向上のための多施設臨床研究	吉井 俊貴	整形外科	12,480,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
TDP-43タンパク質を標的とした筋萎縮性側索硬化症の核酸医薬開発	横田 隆徳	脳神経病態学	67,839,629	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
遺伝性腎線維化症ネフロン病の病態解明と新規治療法開発	蘇原 映誠	腎臓内科学	13,000,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
腎臓オルガノイドを用いた腎線維化修飾遺伝子の探索	須佐 純一郎	腎臓内科学	9,100,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
COVID-19感染症に伴う血管内皮障害の発生メカニズムの解明とその制御	保田 晋助	膠原病・リウマチ内科学	10,800,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
B型肝炎ウイルスの感染複製増殖機構解明による創薬基盤形成に関する研究	朝比奈 靖浩	肝臓病態制御学講座	3,900,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
ヒトiPS細胞を用いたHBV感染・培養系の開発と新規抗ウイルス薬の創生	朝比奈 靖浩	肝臓病態制御学講座	3,900,000	委	国立大学法人東京大学
小児白血病の病態の背景にある生殖細胞系列の分子遺伝学的基盤の解明	高木 正稔	発生発達病態学	1,820,000	委	国立大学法人東京大学
化学療法にて消失した大腸癌肝転移病変のDW-MRIを用いた術前診断能の妥当性に関する研究	岡笠 祐介	消化管外科学	1,040,000	委	地方独立行政法人神奈川県立病院機構神奈川県立がんセンター
Functional cureを可能とするHBVに対する免疫学的治療戦略の構築	朝比奈 靖浩	肝臓病態制御学講座	1,950,000	委	国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所
C型肝炎ウイルス排除治療による肝硬変患者のアウトカムに関する研究開発	朝比奈 靖浩	肝臓病態制御学講座	1,170,000	委	国立大学法人大阪大学
次世代シーケンズ技術を用いたC型肝炎の直接作用型抗ウイルス薬による治療後病態に影響を及ぼす因子に関する研究	朝比奈 靖浩	肝臓病態制御学講座	2,000,000	委	国立大学法人山梨大学
Interim PETに基づく初発進行期ホジキンリンパ腫に対するABVD療法およびABVD/増量BEACOPP療法の非ランダム化検証的試験(JCOG1305)	立石 宇貴秀	画像診断・核医学	650,000	委	独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター
脊髄性筋萎縮症の成人期予後把握を目的とした多施設共同コホート研究	横田 隆徳	脳神経病態学	390,000	委	国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学
ポリグルタミン病に対する蛋白質凝集阻害薬の第II相試験	横田 隆徳	脳神経病態学	6,600,750	委	国立大学法人新潟大学

小計19件

小計19件

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

性分化疾患・性成熟疾患に対する医療最適化に向けてのエビデンス創出	宮坂 尚幸	生殖機能協同学	910,000	委	国立研究開発法人国立成育医療研究センター
特異性間質性肺炎の前向きレジストリの構築とインタラクティブMDD診断システムを用いた診断標準化に基づく疫学データの創出?人工知能(AI)診断システムと新規バイオマーカーの開発?	宮崎 泰成	統合呼吸器病学	260,000	委	国立大学法人浜松医科大学
植込型補助人工心臓装着予定患者を対象とした出血性合併症リスクの事前予測に基づいた個別化精密医療・最適化補助人工心臓治療の実現	荒井 裕国	心臓血管外科学	208,000	委	国立大学法人東北大学
血清・肝組織の網羅的グライコミクス等による、肝線維化の病態を効率的に評価・予後予測するバイオマーカーの探索	朝比奈 靖浩	肝臓病態制御学講座	1,040,000	委	国立大学法人北海道大学
Stage II大腸癌に対する術後補助化学療法の有用性に関する研究	絹笠 祐介	消化管外科学	2,340,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)
局所進行胃癌に対する術前化学療法の有効性を検証する臨床第III相試験	徳永 正則	消化管外科学	650,000	委	静岡県立静岡がんセンター
子宮頸癌 I B期-II B期根治手術例における術後放射線治療と術後化学療法の第III相ランダム化比較試験	吉村 亮一	腫瘍放射線治療学	65,000	委	静岡県立静岡がんセンター
新生児マススクリーニング対象拡充のための疾患選定基準の確立	今井 耕輔	茨城県小児・周産期地域医療学講座	274,300	委	国立研究開発法人国立成育医療研究センター
従来のゲノム解析で診断困難な原発性免疫不全症患者の診断法の開発	金兼 弘和	小児地域成育医療学講座	910,000	委	国立大学法人広島大学
HTLV-1の総合的な感染対策に資する研究	鴨居 功樹	眼科学	1,300,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)
再生医療等安全性確保法に従い実施される再生医療等臨床研究および再生医療等製品等の開発を目指す医師主導試験等を支援する再生医療ナショナルコンソーシアムの実現	森尾 友宏	発生発達病態学	15,080,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)
心拍変動解析によるてんかん発作予知AIシステムの研究開発	宮島 美穂	精神行動医科学	6,500,000	委	国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学
新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)肺炎に対するPAI-1阻害薬TM5614のプラセボ対照二重盲検第II相医師主導試験	宮崎 泰成	統合呼吸器病学	15,600,000	委	国立大学法人東北大学
ナファモスタットメシル酸塩の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対する治療薬としての開発	宮崎 泰成	統合呼吸器病学	650,000	委	国立大学法人東京大学
自己免疫性疾患の臓器病変局所におけるシングルセルRNAシーケンズを用いたマルチオミクス解析による病態解明基盤の構築	梅澤 夏佳	膠原病・リウマチ内科学	130,000	委	国立大学法人東京大学
ISO/TC249における国際規格策定に資する科学的な研究と調査および統合医療の一翼としての漢方・鍼灸の基盤研究	別府 正志	総合診療医学分野	390,000	委	国立大学法人千葉大学
抗型インターフェロン抗体の測定によるCOVID-19重症化の早期予測法の開発	森尾 友宏	発生発達病態学	1,300,000	委	国立大学法人広島大学
Stage I/II舌癌に対する予防的頸部郭清省略の意義を検証するための多施設共同臨床試験	朝蔭 孝宏	頭頸部外科学	1,040,000	委	愛知県がんセンター
女性ホルモンの影響による疾病の予防・治療に資するライフコース研究	寺内 公一	茨城県地域産科婦人科学講座	650,000	委	国立大学法人群馬大学
回復者血漿療法によるCOVID-19治療の臨床開発とランダム化比較試験	宮崎 泰成	統合呼吸器病学	1,300,000	委	国立研究開発法人国立国際医療研究センター
未診断疾患イニシエーション(Intuitive on Care and Undiagnosed Diseases(IRUD)):希少未診断疾患に対する診断プログラムの開発に関する研究	森尾 友宏	発生発達病態学	7,800,000	委	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
運動失調症の治療法開発を見据えた病型別前向き自然歴・バイオマーカーの確立	石川 欽也	ゲノム健康医療学分野	650,000	委	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
眼内悪性リンパ腫に対するブルトンキナーゼ阻害剤を用いた中枢再発予防法による医師主導多施設共同試験	高瀬 博	眼科学	130,000	委	国立大学法人東京大学
非悪性疾患の小児患者に対する同種造血幹細胞移植におけるアレルツープの安全性および有効性に関する研究	金兼 弘和	小児地域成育医療学講座	260,000	委	国立研究開発法人国立成育医療研究センター
新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)肺炎に対するPAI-1阻害薬TM5614のプラセボ対照二重盲検第II相医師主導試験	宮崎 泰成	統合呼吸器病学	2,600,000	委	国立大学法人東北大学
メイラード反応で生成されたリゾチーム-キトサン糖複合体の SARS-CoV-2 を含むウイルスに対する抗ウイルス活性の評価	宮崎 泰成	統合呼吸器病学	2,990,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)
スマートライフケア社会への変革を先導するものづくりオープンイノベーション拠点	横田 隆徳	脳神経病態学	3,497,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)
運動機能低下の評価法確立と動作介入の提唱	藤田 浩二	運動器機能形態学講座	780,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)
末梢臓器情報を中枢に伝達する分子機序解明とその制御法の開発	山田 哲也	分子内分泌代謝学	76,680,500	委	国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)
誰もが参加し繋がることでウェルビーイングを実現する都市型ヘルソコムズ共創拠点に関する国立大学法人東京医科歯科大学による研究開発	高橋 英彦	精神行動医科学	4,550,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)
誰もが参加し繋がることでウェルビーイングを実現する都市型ヘルソコムズ共創拠点に関する国立大学法人東京医科歯科大学による研究開発	三條 伸夫	脳神経病態学	2,600,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)
誰もが参加し繋がることでウェルビーイングを実現する都市型ヘルソコムズ共創拠点に関する国立大学法人東京医科歯科大学による研究開発	笹野 哲郎	循環制御内科学	3,250,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)
歯科用OCTを用いた歯垢と歯周病の新たな評価方法の開発	大槻 昌幸	う蝕制御学	450,000	委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
歯科用OCTを用いた歯垢と歯周病の新たな評価方法の開発	平石 典子	う蝕制御学	900,000	委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
試料集積の方法検討、トランスレーショナル実施案検討	三浦 雅彦	口腔放射線腫瘍学	100,000	委	国立研究開発法人国立がん研究センター
骨表面を固定源とする新規様式の歯科矯正用デバイスの開発	森山 啓司	顎顔面矯正学	46,470,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)
介護食品の開発を目的とした咀嚼必要度評価装置の開発	大森 浩子	矯正歯科外来	1,053,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)
口腔内細菌叢破綻による生涯の代謝異常の病態解明	片桐 さやか	歯周病外来	16,681,600	委	国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)
歯ぎしりの病態解明のための咬合圧・咬筋筋活動測定システムの事業化検証	大森 浩子	矯正歯科外来	3,952,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)
多施設共同研究の質的向上に必要な生物統計手法に関する研究	平川 晃弘	臨床試験管理センター	200,000	委	国立研究開発法人国立がん研究センター
環境温度ストレス適応におけるペーჯ脂質組織の誘導機構及び加齢による影響	池田 賢司	糖尿病・内分泌・代謝内科	26,000,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)
認知症に対する非薬物療法のエビデンス創出に資するデータ品質一元管理センターの基盤構築と継続的研究支援のための体制整備	平川 晃弘	臨床試験管理センター	62,920,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)
Muse 細胞を用いた周産期脳障害の新規治療法開発～探索的臨床試験(医師主導試験)～	平川 晃弘	臨床試験管理センター	390,000	委	国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学
HER2増幅固形癌に対するトラスツズマブ・ペルツズマブ併用療法のバスケットトリアル	池田 貞勝	がん先端治療部	45,500,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)

小計19件

小計19件

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

高解像度3次元イメージングによる特発性後天性全身性無汗症の神経病態解析	飯田 忠恒	皮膚科	9,230,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)	小計19件
希少疾患領域の医薬品開発を効率化するための小規模臨床試験のデザイン・統計解析法の研究開発とその適正利用のための基本的考え方の策定	平川 晃弘	臨床試験管理センター	1,950,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)	
Comprehensive elucidation of the host factors contributing to severe COVID-19 using large U.S. and Japanese cohorts	柴田 翔	呼吸器内科	4,680,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)	
臨床試験を主導する研究者の育成を含む臨床試験支援体制の構築と運用	平川 晃弘	臨床試験管理センター	15,600,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)	
ゲーム障害における視聴覚刺激による嗜癖行動悪化のメカニズム: アルコール依存症との比較を通じた検証	藤野 純也	精神科	11,700,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)	
先天性心疾患を伴う肺高血圧症例の多施設症例登録研究	土井 庄三郎	小児科	14,299,998	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)	
運動学習に着目した新規脳機能評価法を活用したエビデンス創出	石川 欽也	長寿・健康人生推進センター	520,000	委	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター	
卵巣がんゲノム搭載細胞外小胞による新規キッドバイオプシー戦略	平川 晃弘	臨床試験管理センター	260,000	委	国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学	
東京大学大学院における生物統計学育成のための卒業教育まで含めた一貫した教育プログラムの研究開発	平川 晃弘	臨床試験管理センター	2,000,000	委	国立大学法人東京大学	
「乳児急性リンパ性白血病の新規治療戦略確立をめざす国際共同第Ⅲ相試験に向けた多施設共同第Ⅱ相臨床試験」開発研究	平川 晃弘	臨床試験管理センター	390,000	委	国立大学法人大阪大学	
独自開発・革新性能の増殖制御型アデノウイルスの骨腫瘍(希少・難治性がん)承認への第Ⅱ相医師主導治験	平川 晃弘	臨床試験管理センター	1,950,000	委	国立大学法人鹿児島大学	
エクソソームの時空間的制御による老化・疾患の革新的治療戦略の構築	萬代 新太郎	血液浄化療法部	2,535,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST)	
疾患予兆アルゴリズムの検証及び改良	平川 晃弘	臨床試験管理センター	4,999,800	委	国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST)	
誰もが参加し繋がることでウェルビーイングを実現する都市型ヘルスマンモンス共創拠点に関する国立大学法人東京医科歯科大学による研究開発	藍 真澄	保険医療管理部	8,450,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST)	
ブロックチェーン技術を用いた効率的で信頼性の高いモニタリング手法の開発	桑原 宏哉	医療イノベーション推進センター	6,478,420	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)	
脳性まひモデル動物慢性期に対する歯髄幹細胞投与による治療効果の作用機序の検討	森丘 千夏子	茨城県小児・産産期地域医療学講座	1,183,000	委	国立大学法人東海国立大学機構	
AI及びリモートテクノロジーを用いた心房細動の早期発見により清水区を脳梗塞の少ないまちにする地域医療共同研究	笹野 哲郎	循環制御内科学	28,059,500	委	静岡市	
化学療法未施行の切除不能進行・再発固形癌に対するマルチプレックス遺伝子パネル検査の有用性評価に関する臨床研究	三ツ村 隆弘	呼吸器内科	260,000	委	国立大学法人京都大学	
化学療法未施行の切除不能進行・再発固形癌に対するマルチプレックス遺伝子パネル検査の有用性評価に関する臨床研究	田邊 稔	肝胆膵外科学	260,000	委	国立大学法人京都大学	
化学療法未施行の切除不能進行・再発固形癌に対するマルチプレックス遺伝子パネル検査の有用性評価に関する臨床研究	石川 敏昭	総合外科学	260,000	委	国立大学法人京都大学	
化学療法未施行の切除不能進行・再発固形癌に対するマルチプレックス遺伝子パネル検査の有用性評価に関する臨床研究	中川 剛士	総合外科学	260,000	委	国立大学法人京都大学	
化学療法未施行の切除不能進行・再発固形癌に対するマルチプレックス遺伝子パネル検査の有用性評価に関する臨床研究	若菜 公雄	周産・女性診療科	260,000	委	国立大学法人京都大学	
化学療法未施行の切除不能進行・再発固形癌に対するマルチプレックス遺伝子パネル検査の有用性評価に関する臨床研究	並木 剛	皮膚科学	260,000	委	国立大学法人京都大学	
化学療法未施行の切除不能進行・再発固形癌に対するマルチプレックス遺伝子パネル検査の有用性評価に関する臨床研究	池田 貞勝	がん先端治療部	2,340,000	委	国立大学法人京都大学	
歯周組織再生のための最適な間葉系幹細胞治療の開発	岩田 隆紀	歯周病学	1,140,000	委	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会	
世界トップレベルの地域医療を東京に構築する事業	竹村 洋典	総合診療医学分野	29,400,000	委	東京都	小計6件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、該当医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

計519件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Mori T, Kikuchi T, Koh M, et al	血液内科	Cytomegalovirus retinitis after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation under cytomegalovirus antigenemia-guided active screening	Bone marrow transplantation. 2021.06; 56 (6): 1266-127	Original Article
2	Mori T, Kikuchi T, Yamazaki R, et al	血液内科	Phase 1 study of plerixafor in combination with total body irradiation-based myeloablative conditioning for allogeneic hematopoietic stem cell transplantation	Bone marrow transplantation. 2021.06; 56 (6): 1266-127	Original Article
3	Takehiko Mori, Yuya Koda, Jun Kato, et al	血液内科	Usefulness of the FilmArray Meningitis/Encephalitis Panel in diagnosis of central nervous system infection after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation.	Support Care Cancer. 2022.01; 30 (1): 5-8	Original Article
4	Noda S, Honda S, Hirota Y, et al	膠原病・リウマチ内科	Azathioprine Monotherapy for the Cases of Immunoglobulin G4-Related Disease With Contraindications to Glucocorticoids. Journal of clinical rheumatology	Journal of clinical rheumatology : practical reports on rheumatic & musculoskeletal diseases. 2021 Dec 27 (8S): S327-S330	Case report
5	Hosoya T, Saito T, Baba H, et al	膠原病・リウマチ内科	Chondroprotective effects of CDK4/6 inhibition via enhanced ubiquitin-dependent degradation of JUN in synovial fibroblasts	Rheumatology (Oxford, England). 2021 Nov; 25:keab874	Original Article
6	Hosoya T, Oda G, Nakagawa T, et al	膠原病・リウマチ内科	Plasma Levels of Decorin Increased in Patients during the Progression of Breast Cancer	Journal of clinical medicine. 2021 Nov; 10 (23): 5530	Original Article
7	Mari Kamiya, Fumitaka Mizoguchi, Kimito Kawahata, et al	膠原病・リウマチ内科	Targeting necroptosis in muscle fibers ameliorates inflammatory myopathies	Nature Communications. 2022 Jan; 13 (1): 166	Original Article
8	Noda Seiji, Hosoya Tadashi, Komiya Yoji et al	膠原病・リウマチ内科	CD34(+)/THY1(+) synovial fibroblast subset in arthritic joints has high osteoblastic and chondrogenic potentials in vitro	ARTHRITIS RESEARCH & THERAPY. 2022 Feb; 24 (1): 45	Original Article
9	Hosoya T, Cordelia D, Michael BD et al	膠原病・リウマチ内科	Targeting the Chemoattractant System in Inflammation	Frontiers in pharmacology. 2021 Aug; 12: 744290	Others
10	Hosoya T, Sugihara T, Miyasaka N, et al	膠原病・リウマチ内科	Novel treatment strategy of polymyalgia rheumatica targeting drug-free remission	CLINICAL AND EXPERIMENTAL RHEUMATOLOGY. 2021 May-Jun, 39(3); 701-702	Letter
11	Saito T, Sako Y, Sato-Kaneko F, et al	膠原病・リウマチ内科	Small Molecule Potentiator of Adjuvant Activity Enhancing Survival to Influenza Viral Challenge	Frontiers in immunology. 2021 Sep, 12:701445	Original Article
12	Shimizu Masaki, Shimbo Asami, Yamazaki Susumu, et al	膠原病・リウマチ内科	Septic arthritis of the pubic symphysis in a patient with SLE	PEDIATRICS INTERNATIONAL. 2022 Jan.64(1); e14875	Case report
13	Masaaki Mori, Shinji Akioka, Toru Igarashi, et al	膠原病・リウマチ内科	Transitioning from paediatric to adult rheumatological healthcare: English summary of the Japanese Transition Support Guide	Mod Rheumatol. 2022 Feb; 32(2):248-255	Others
14	Shimizu Masaki, Shimbo Asami, Yamazaki Susumu et al	膠原病・リウマチ内科	Concurrent lupus enteritis and cystitis	PEDIATRICS INTERNATIONAL. 2021 Sep; 63 (9): 1142-1143	Case report
15	Keisuke Okamoto, Tomohiro Morio, Yoshikazu Nakamura, et al	膠原病・リウマチ内科	Hospitalisations due to respiratory syncytial virus infection in children with Down syndrome before and after palivizumab recommendation in Japan	Acta Paediatr. 2021 Apr; 110(4): 1299-1306	Original Article
16	Numasawa M, Nawa N, Funakoshi Y, et al	糖尿病・内分泌・代謝内科	A mixed methods study on the readiness of dental, medical, and nursing students for interprofessional learning	PloS one. 2021.07; 16 (7): e0255086	Original Article
17	Masanori Murakami, Na Sun, Christian Greunke, et al	糖尿病・内分泌・代謝内科	Mass spectrometry imaging identifies metabolic patterns associated with malignant potential in pheochromocytoma and paraganglioma	European Journal of Endocrinology. 2021.06; 185 (1): 179-191	Original Article
18	Ando F	腎臓内科	Activation of AQP2 water channels by protein kinase A: therapeutic strategies for congenital nephrogenic diabetes insipidus	Clin Exp Nephrol .. 2021.10; 25 (10): 1051-1056	Review
19	Takuya Fujimaru, Kunio Kawanishi, Takayasu Mori	腎臓内科	Genetic Background and Clinicopathologic Features of Adult-onset Nephronophthisis	Kidney Int Rep. 2021.05; 6 (5): 1346-1354	Original Article
20	Nakano Yuta, Susa Koichiro, Yanagi Tomoki, et al	腎臓内科	Generation of NHP1 knockout human pluripotent stem cells by a practical biallelic gene deletion strategy using CRISPR/Cas9 and ss	ODN IN VITRO CELLULAR & DEVELOPMENTAL BIOLOGY-ANIMAL. 2022.02; 58 (2): 85-95.	Original Article
21	Kento Takenaka, Ami Kawamoto, Kazuo Ohtsuka	消化器内科	Editorial: higher concentrations of cytokine blockers are needed to obtain small bowel mucosal healing during maintenance therapy in Crohn's disease- authors' reply	Aliment Pharmacol Ther. 2021.10; 54 (8): 1087	Review
22	Ito R, Kobayashi M, Ohtsuka K, et al	消化器内科	A rare case of hepatocellular carcinoma with bile duct invasion diagnosed by peroral cholangioscopy. VideoGIE	an official video journal of the American Society for Gastrointestinal Endoscopy. 2021.08; 6 (8): 354-357	Case report
23	Kento Takenaka, Ami Kawamoto, Shuji Hibiya, et al	消化器内科	Higher concentrations of cytokine blockers are needed to obtain small bowel mucosal healing during maintenance therapy in Crohn's disease	Aliment Pharmacol Ther. 2021.07; Online ahead of print.. (オンライン)	Original Article
24	A Kawamoto, K Takenaka, S Hibiya, et al	消化器内科	Serum leucine-rich α -2 glycoprotein; a novel biomarker for small bowel mucosal activity in Crohn's Disease	Clin Gastroenterol Hepatol. 2021.06; Online ahead of print.. (オンライン)	Original Article
25	Kento Takenaka, Toshimitsu Fujii, Ami Kawamoto, et al	消化器内科	Deep neural network for video colonoscopy of ulcerative colitis: a cross-sectional study	Lancet Gastroenterol Hepatol. 2022 Mar;7(3):230-237	Original Article
26	Kento Takenaka, Kazuo Ohtsuka, Toshimitsu Fujii, et al	消化器内科	Deep Neural Network Accurately Predicts Prognosis of Ulcerative Colitis Using Endoscopic Images	Gastroenterology. 2021.05; 160 (6): 2175-2177.e3	Original Article
27	Miyuki Kaneshiro, Kento Takenaka, Kohei Suzuki, et al	消化器内科	Pancolonic endoscopic and histologic evaluation for relapse prediction in patients with ulcerative colitis in clinical remission	Aliment Pharmacol Ther. 2021.04; 53 (8): 900-907	Original Article

小計10件

小計10件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
28	Tomomasa D, Isoda T, Mitsuiki N, et al	小児科	Successful ruxolitinib administration for a patient with steroid-refractory idiopathic pneumonia syndrome following hematopoietic stem cell transplantation: A case report and literature review	Clin Case Rep. 2021.12; 9 (12): e05242	Case report
29	Akira Nishimura, Yuki Aoki, Yasuyoshi Ishiwata, et al	小児科	Hematopoietic Cell Transplantation with Reduced Intensity Conditioning Using Fludarabine/Busulfan or Fludarabine/Melphalan for Primary Immunodeficiency Diseases	J Clin Immunol. 2021.07; 41 (5): 944-957	Original Article
30	Mayuka Shiraki, Eleri Williams, Norifumi Yokoyama, et al	小児科	Hematopoietic Cell Transplantation Ameliorates Autoinflammation in A20 Haploinsufficiency	J Clin Immunol. 2021.11; 41 (8): 1954-1956	Case report
31	Shintaro Ono, Koze Takeshita, Yuko Kiridoshi, et al	小児科	Hematopoietic cell transplantation rescues inflammatory bowel disease and dysbiosis of gut microbiota in XIAP deficiency	J Allergy Clin Immunol Pract. 2021 Oct;9(10):3767-3780	Original Article
32	Dan Tomomasa, Claire Booth, Jack J Bleesing, et al	小児科	Preemptive hematopoietic cell transplantation for asymptomatic patients with X-linked lymphoproliferative syndrome type 1	Clin Immunol. 2022.03; 237 108993	Original Article
33	Kay Tanita, Yoshiki Kawamura, Hiroki Miura, et al	小児科	Case Report: Rotavirus Vaccination and Severe Combined Immunodeficiency in Japan	Front Immunol. 2022.02; 13 786375	Case report
34	Tomomasa D, Isoda T, Mitsuiki N, et al	小児科	Successful ruxolitinib administration for a patient with steroid-refractory idiopathic pneumonia syndrome following hematopoietic stem cell transplantation: A case report and literature review	Clin Case Rep. 2021.12; 9 (12): e05242	Case report
35	Satoshi Miyamoto, Katsutsugu Umeda, Mio Kurata, et al	小児科	Hematopoietic Cell Transplantation for Severe Combined Immunodeficiency Patients: a Japanese Retrospective Study	J Clin Immunol. 2021.11; 41 (8): 1865-1877	Original Article
36	Motoi Yamashita, Hye Sun Kuehn, Kazuki Okuyama, et al	小児科	A variant in human AIOLOS impairs adaptive immunity by interfering with IKAROS	Nat Immunol. 2021.07; 22 (7): 893-903	Original Article
37	Tanita K, Sakura F, Nambu R, et al	小児科	Clinical and Immunological Heterogeneity in Japanese Patients with Gain-of-Function Variants in STAT3	J Clin Immunol. 2021.05; 41 (4): 780-790	Original Article
38	Mayumi Echizen, Maiko Satomoto, Miho Miyajima, et al	精神科	Preoperative heart rate variability analysis is as a potential simple and easy measure for predicting perioperative delirium in esophageal surgery	Ann MedAnn Med Surg (Lond) . 2021.09; 70:102856	Original Article
39	Sekiguchi Y, Okada T, Okumura Y	精神科	Treatment Response Distinguishes Persistent Type of Methamphetamine Psychosis From Schizophrenia Spectrum Disorder Among Inmates at Japanese Medical Prison	Frontiers in psychiatry. 2021.07; 12 629315	Original Article
40	Sasaki Y, Tsujii N, Sasaki S, et al	精神科	Current use of attention-deficit hyperactivity disorder (ADHD) medications and clinical characteristics of child and adolescent psychiatric outpatients prescribed multiple ADHD medications in Japan	PLoS one. 2021.06; 16 (6): e0252420	Original Article
41	Yukiko Matsumoto, Junya Fujino, Hiroki Shiwaku, et al	精神科	Factors affecting mental illness and social stress in hospital workers treating COVID-19: Paradoxical distress during pandemic era	Journal of Psychiatric Research . 2021.05; 137 298-302	Original Article
42	Junya Fujino, Shisei Tei, Takashi Itahashi, et al	精神科	A single session of navigation-guided repetitive transcranial magnetic stimulation over the right anterior temporoparietal junction in autism spectrum disorder	Brain Stimul. 2021.04; 14 (3): 682-684	Letter
43	T Matsuyama, H Endo, H Yamamoto, et al	大腸肛門外科	Outcomes of robot-assisted versus conventional laparoscopic low anterior resection in patients with rectal cancer: propensity-matched analysis of the National Clinical Database in Japan	BJS open. 2021.09; 5 (5): zrab083	Original Article
44	Shunsuke Kasai, Akio Shimoi, Hiroyasu Kagawa, et al	大腸肛門外科	The effectiveness of machine learning in predicting lateral lymph node metastasis from lower rectal cancer: A single center development and validation study	Annals of Gastroenterological Surgery. 2021.09; 6 (1): 92-100	Original Article
45	Takatoshi Matsuyama, Shinichi Yamauchi, Taiki Masuda, et al	大腸肛門外科	Treatment and subsequent prognosis in locally recurrent rectal cancer: a multicenter retrospective study of 498 patients International	Journal of colorectal disease. 2021.06; 36 (6): 1243-1250	Original Article
46	Tetsuo Sugishita, Shunsuke Tsukamoto, Jun Imaizumi, et al	大腸肛門外科	Evaluation of the learning curve for robot-assisted rectal surgery using the cumulative sum method	Surgical endoscopy. 2022.01; Online ahead of print	Original Article
47	Oda Goshi, Nakagawa Tsuyoshi, Uemura Noriko, et al	乳腺外科	Immediate breast reconstruction is oncologically safe for node-positive patients: Comparison using propensity score matching	Medicine (Baltimore). 2021.09; 100 (36): e27184	Original Article
48	Yoshino M, Oda G, Nakagawa T, et al	乳腺外科	Higher body mass index is a more important risk factor than sarcopenia for complications in deep inferior epigastric perforator reconstruction	Asian journal of surgery. 2021.07; 45 (1): 360-366	Original Article
49	Ogawa A, Nakagawa T, Oda G, et al	乳腺外科	Study of the Protocol Used to Evaluate Skin-Flap Perfusion in Mastectomy Based on the Characteristics of Indocyanine Green	Photodiagnosis and photodynamic therapy. 2021.06;35: 102401	Original Article
50	Nakagawa T, Oda G, Mori H, et al	乳腺外科	Prognosis of Subcutaneous Mastectomy for Special Types of Breast Cancer	Medicina (Kaunas). 2022 Jan 12;58(1):112	Original Article
51	Adachi M, Nakagawa T, Fujioka T, et al	乳腺外科	Feasibility of Portable Microwave Imaging Device for Breast Cancer Detection	Diagnostics (Basel). 2021 Dec 23;12(1):27	Original Article
52	Nakagawa T, Oda G, Mori H, et al	乳腺外科	Laparoscopic Abdominal Surgery after Primary Breast Reconstruction Using an Abdominal Flap	Medicina (Kaunas). 2021 Sep 10;57(9):952	Original Article
53	Oda G, Nakagawa T, Uemura N, et al	乳腺外科	Laparoscopic Abdominal Surgery after Primary Breast Reconstruction Using an Abdominal Flap	Mol Clin Oncol. 2021 Mar;14(3):49	Original Article
54	Ban D, Tanabe M, Kumamaru H, et al	肝胆膵外科	Safe Dissemination of Laparoscopic Liver Resection in 27,146 Cases Between 2011 and 2017 From the National Clinical Database of Japan	Ann Surg. 2021.12; 274 (6): 1043-1050	Original Article
55	Murase Y, Ono H, Ogawa K, et al	肝胆膵外科	Inhibitor library screening identifies ispinosib as a new potential chemotherapeutic agent for pancreatic cancers	Cancer Science. 2021.11; 112 (11): 4641-4654	Original Article
56	Ito T, Masui T, Komoto I, et al	肝胆膵外科	JNETS clinical practice guidelines for gastroenteropancreatic neuroendocrine neoplasms: diagnosis, treatment, and follow-up: a synopsis	J Gastroenterol. 2021.11; 56 (11): 1033-1044	Original Article

小計10件

小計10件

小計10件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
57	Ito T, Fujimori N, Honma Y, et al	肝胆膵外科	Long-term safety and efficacy of lanreotide autogel in Japanese patients with neuroendocrine tumors: Final results of a phase II open-label extension study	Asia Pacific J Clinical Oncology. 2021.10; 17 (5): e153-e161.	Original Article
58	Matsui S, Ono H, Asano D, et al	肝胆膵外科	Pancreatic metastasis from renal cell carcinoma presenting as gastrointestinal hemorrhage: a case report	Jornal of Surgical Case Reports. 2021.08; 2021 (8):rjab368	Case report
59	Akasu M, Shimada S, Kabashima A, et al	肝胆膵外科	Intrinsic activation of β -catenin signaling by CRISPR/Cas9-mediated exon skipping contributes to immune evasion in hepatocellular carcinoma	Scientific Reports. 2021.08; 11 (1):16732	Original Article
60	Kato T, Ono H, Fujii M, et al	肝胆膵外科	Cytoplasmic RRM1 activation as an acute response to gemcitabine treatment is involved in drug resistance of pancreatic cancer cells	PLoS One. 2021.06; 16 (6):e0252917	Original Article
61	Kato Tomotaka, Kudo Atsushi, Kinowaki Yuko, et al	肝胆膵外科	A novel classification of portal venous tumor invasion to predict residual tumor status after surgery in patients with pancreatic neuroendocrine neoplasms	Journal of Cancer Research and Clinical Oncology . 2021.05; 148(4):931-941	Original Article
62	Ono H, Kato T, Murase Y, et al	肝胆膵外科	C646 inhibits G2/M cell cycle-related proteins and potentiates anti-tumor effects in pancreatic cancer	Scientific Reports. 2021.05; 11 (1): 10078	Original Article
63	Iwao Y, Ban D, Muro S, et al	肝胆膵外科	Extraordinary first jejunal arterial variation associated with annular pancreas undergoing pancreaticoduodenectomy for pancreatic cancer: a case report	Surgical and Radiologic Anatomy. 2021.05; 43 (5): 805-810	Case report
64	Fukuda T, Bouchi R, Takeuchi T, et al	肝胆膵外科	Importance of Intestinal Environment and Cellular Plasticity of Islets in the Development of Postpancreatectomy Diabetes	Diabetes Care. 2021.04; 44 (4): 1002-1011	Original Article
65	Hara S, Mukawa M, Akagawa H, et al	脳神経外科	Absence of the RNF213 p.R4810K variant may indicate a severe form of pediatric moyamoya disease in Japanese patients	Journal of neurosurgery. Pediatrics. 2021 Oct 8;29(1):48-56	Original Article
66	Hara S, Nariai T, Inaji M, et al	脳神経外科	Imaging Pattern and the Mechanisms of Postoperative Infarction After Indirect Revascularization in Patients with Moyamoya Disease	World neurosurgery. 2021 Nov;155:e510-e521	Original Article
67	Satoru Egawa, Toshitaka Yoshii, Kenichiro Sakai, et al	整形外科	Prospective Investigation of Postoperative Complications in Anterior Decompression with Fusion for Severe Cervical Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament: A Multi-institutional Study	Spine (Phila Pa 1976). 2021.12; 46 (23): 1621-1629	Original Article
68	Naoki Yamamoto, Ryohei Takada, Takuma Maeda, et al	整形外科	Microcirculation and tissue oxygenation in the head and limbs during hyperbaric oxygen treatment	Diving Hyperb Med. 2021.12; 51 (4): 338-344	Original Article
69	Toshitaka Yoshii, Satoru Egawa, Kenichiro Sakai, et al	整形外科	Perioperative Complications in Posterior Surgeries for Cervical Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament: A Prospective Nationwide Investigation	Clin Spine Surg. 2021.12; 34 (10): E594-E600	Original Article
70	Takashi Hirai, Toshitaka Yoshii, Kenichiro Sakai, et al	整形外科	Anterior Cervical Corpectomy with Fusion versus Anterior Hybrid Fusion Surgery for Patients with Severe Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament Involving Three or More Levels: A Retrospective Comparative Study	J Clin Med. 2021.11; 10 (22): 5315	Original Article
71	Motoyoshi Takayuki, Hirai Takashi, Yoshii Toshitaka, et al	整形外科	Association between diffuse idiopathic skeletal hyperostosis and thoracic kyphosis in patients with cervical myelopathy: a retrospective observational study	BMC Musculoskelet Disord. 2021.11; 22 (1): 964	Original Article
72	Yu Matsukura, Toshitaka Yoshii, Shingo Morishita, et al	整形外科	Comparison of Lateral Lumbar Interbody Fusion and Posterior Lumbar Interbody Fusion as Corrective Surgery for Patients with Adult Spinal Deformity-A Propensity Score Matching Analysis	J Clin Med. 2021.10; 10 (20): 4737	Original Article
73	Toshitaka Yoshii	整形外科	The Essence of Clinical Practice Guidelines for Ossification of Spinal Ligaments, 2019: 4. Treatment of Cervical OPLL	Spine Surg Relat Res. 2021.09; 5 (5): 328-329	Review
74	Takashi Hirai, Soraya Nishimura, Toshitaka Yoshii, et al	整形外科	Associations between Clinical Findings and Severity of Diffuse Idiopathic Skeletal Hyperostosis in Patients with Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament	J Clin Med. 2021.09; 10 (18): 4137	Original Article
75	Hiroyuki Inose, Toshitaka Yoshii, Atsushi Kimura, et al	整形外科	Predictors of Falls in Patients with Degenerative Cervical Myelopathy: A Prospective Multi-institutional Study	Spine (Phila Pa 1976). 2021.08; 46 (15): 1007-1013	Original Article
76	Inose H, Hirai T, Yoshii T, et al	整形外科	Predictors for quality of life improvement after surgery for degenerative cervical myelopathy: a prospective multi-center study	Health and quality of life outcomes. 2021.05; 19 (1): 150	Original Article
77	Naoki Yamamoto, Takuya Oyaizu, Kazuyoshi Yagishita, et al	整形外科	Multiple and early hyperbaric oxygen treatments enhance muscle healing after muscle contusion injury: a pilot study	Undersea Hyperb Med. 2021.04; 48 (3): 227-238	Original Article
78	Atsuyuki Kawabata, Toshitaka Yoshii, Kenichiro Sakai, et al	整形外科	Sagittal alignment changes and postoperative complications following surgery for adult spinal deformity in patients with Parkinson's disease: a multi-institutional retrospective cohort study	BMC Musculoskelet Disord. 2021.04; 22 (1): 357	Original Article
79	Takashi Hirai, Toshitaka Yoshii, Satoru Egawa, et al	整形外科	Severity of Myelopathy is Closely Associated With Advanced Age and Signal Intensity Change in Cervical Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament: A Prospective Nationwide Investigation	Clin Spine Surg. 2022.02; 35 (1): E155-E161	Original Article
80	Jun Hashimoto, Toshitaka Yoshii, Kenichiro Sakai, et al	整形外科	Impact of body mass index on surgical outcomes and complications in adult spinal deformity	J Orthop Sci. 2022.01; 27 (1): 89-94	Original Article
81	Jun Hashimoto, Shigenori Kawabata, Toru Sasaki, et al	整形外科	Assessment of thoracic spinal cord electrophysiological activity through magnetoneurography	Clin Neurophysiol. 2022.01; 133 39-47	Original Article
82	Ryohei Takada, Tetsuya Jinno, Kazumasa Miyatake, et al	整形外科	Does surgical body position influence the risk for neurovascular injury in total hip arthroplasty? A magnetic resonance imaging study	Orthop Traumatol Surg Res. 2021.12;107(8): 102817	Original Article
83	Nobutake Ozeki, Hideyuki Koga, Tomomasa Nakamura, et al	整形外科	Surgical Repair of Symptomatic Wrisberg Variant Discoid Lateral Mensicus with Pull-Out Repair and Capsulodesis	Arthrosc Tech. 2021.12; 11 (1): e61-e68	Original Article
84	Mitsuru Mizuno, Kentaro Endo, Hisako Katano, et al	整形外科	Transplantation of human autologous synovial mesenchymal stem cells with trisomy 7 into the knee joint and 5 years of follow-up	Stem Cells Transl Med. 2021.11; 10 (11): 1530-1543	Original Article
85	Masaki Amemiya, Yusuke Nakagawa, Hideya Yoshimura, et al	整形外科	Comparison of tissue pharmacokinetics of esfluribipofen plaster with fluribipofen tablets in patients with knee osteoarthritis: A multicenter randomized controlled trial	Biopharm Drug Dispos. 2021.11; 42 (9): 418-426	Original Article

小計10件

小計10件

小計10件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
86	Tomomasa Nakamura, Brandon D Marshall, Taylor M Price, et al	整形外科	Arthroscopic Centralization for Lateral Meniscal Injuries Reduces Laxity in the Anterior Cruciate Ligament-Reconstructed Knee	Am J Sports Med. 2021.11; 49 (13): 3528-3533	Original Article
87	Kentaro Endo, Kiyotaka Horiuchi, Hisako Katano, et al	整形外科	Intra-articular Injection of PDGF-BB Explored in a Novel in Vitro Model Mobilizes Mesenchymal Stem Cells From the Synovium Into Synovial Fluid in Rats	Stem Cell Rev Rep. 2021.10; 17 (5): 1768-1779	Original Article
88	Misaki Yagi, Mitsuru Mizuno, Ryota Fujisawa, et al	整形外科	Optimal Pore Size of Honeycomb Poly(lactic Acid) Films for In Vitro Cartilage Formation by Synovial Mesenchymal Stem Cells	Stem Cells Int. 2021.08; eCollection 2021:9239728	Original Article
89	Hiroko Ueki, Hiroki Katagiri, Kunikazu Tsuji, et al	整形外科	Effect of transplanted mesenchymal stem cell number on the prevention of cartilage degeneration and pain reduction in a posttraumatic osteoarthritis rat model	J Orthop Sci. 2021.07; 26 (4): 690-697	Original Article
90	Kazumasa Kawata, Hideyuki Koga, Kunikazu Tsuji, et al	整形外科	Extracellular vesicles derived from mesenchymal stromal cells mediate endogenous cell growth and migration via the CXCL5 and CXCL6/CXCR2 axes and repair menisci	Stem Cell Res Ther. 2021.07; 12 (1): 414	Original Article
91	Ichiro Sekiya, Hisako Katano, Mitsuru Mizuno, et al	整形外科	Alterations in cartilage quantification before and after injections of mesenchymal stem cells into osteoarthritic knees	Sci Rep. 2021.07; 11 (1): 13832	Original Article
92	Nobutake Ozeki, Yusuke Nakagawa, Mitsuru Mizuno, et al	整形外科	Ultrasound-Guided Harvesting of Synovium for Regenerative Medicine of Cartilage and Meniscus Using Synovial Mesenchymal Stem Cells	Arthrosc Tech. 2021.07; 10 (7): e1723-e1727	Original Article
93	Hiroki Katagiri, Kaori Nakamura, Takeshi Muneta, et al	整形外科	Inflammatory and healing environment in synovial fluid after anterior cruciate ligament reconstruction: Granulocytes and endogenous opioids as new targets of postoperative pain	Biochem Biophys Rep. 2021.07; 26 100981	Original Article
94	Kiyotaka Horiuchi, Nobutake Ozeki, Kentaro Endo, et al	整形外科	Thawed cryopreserved synovial mesenchymal stem cells show comparable effects to cultured cells in the inhibition of osteoarthritis progression in rats	Sci Rep. 2021.05; 11 (1): 9683	Original Article
95	Ryohei Takada, Tetsuya Jinno, Kazumasa Miyatake, et al	整形外科	Incidence of tensor fascia lata muscle atrophy after using the modified Watson-Jones anterolateral approach in total hip arthroplasty	Eur J Orthop Surg Traumatol. 2021.04; 31 (3): 533-540	Original Article
96	Inose H, Hirai T, Yoshii T, et al	整形外科	Factors contributing to neck pain in patients with degenerative cervical myelopathy: A prospective multicenter study	J Orthop Surg (Hong Kong). 2022 Jan-Apr;30(1):10225536221091848	Original Article
97	Inose H, Kato T, Ichimura S, et al	整形外科	Factors Contributing to Residual Low Back Pain after Osteoporotic Vertebral Fractures	J Clin Med. 2022 Mar 12;11(6):1566	Original Article
98	Inose H, Kobayashi Y, Morishita S, et al	整形外科	Application of an index derived from the area under a neutrophil curve as a predictor of surgical site infection after spinal surgery	BMC Surg. 2021 Sep 27;21(1):354	Original Article
99	Inose H, Hirai T, Yoshii T, et al	整形外科	Predictors for quality of life improvement after surgery for degenerative cervical myelopathy: a prospective multi-center study	Health Qual Life Outcomes. 2021 May 19;19(1):150	Original Article
100	Inose H, Kato T, Ichimura S, et al	整形外科	Risk factors for subsequent vertebral fracture after acute osteoporotic vertebral fractures	Eur Spine J. 2021 Sep;30(9):2698-2707	Original Article
101	Inose H, Kato T, Onuma H, et al	整形外科	Predictive Factors Affecting Surgical Outcomes in Patients with Degenerative Lumbar Spondylolisthesis	Spine (Phila Pa 1976). 2021 May 14;46(9):610-616	Original Article
102	Inose H, Kato T, Ichimura S, et al	整形外科	Predictors of residual low back pain after acute osteoporotic compression fracture	J Orthop Sci. 2021 May;26(3):453-458	Original Article
103	Inose H, Kato T, Ichimura S, et al	整形外科	Clinical outcomes of two-stage revision total knee arthroplasty in infected cases with antibiotic-loaded cement spacers produced using a handmade silicone mold	Knee Surg Relat Res. 2021.08; 33 (1): 27	Original Article
104	Masanobu Hirao, Kazumasa Miyatake, Daisuke Koga et al	整形外科	Comparison of 5-year postoperative results between standard-length stems and short stems in one-stage bilateral total hip arthroplasty: a randomized controlled trial	Eur J Orthop Surg Traumatol. 2021.05; 31 (4): 743-753	Original Article
105	Takafumi Koyama, Koji Fujita, Masaru Watanabe	整形外科	Cervical Myelopathy Screening with Machine Learning Algorithm Focusing on Finger Motion Using Noncontact Sensor	Spine (Phila Pa 1976). 2022.01; 47 (2): 163-171	Original Article
106	Eshiba S, Namiki T, Mohri Y, et al	皮膚科	Stem cell spreading dynamics intrinsically differentiate acral melanomas from nevi	Cell Rep. 2021 Aug 3;36(5):109492	Original Article
107	Yoshioka Y, Namiki T, Uga jin T, et al	皮膚科	Supraclavicular Scrofuloderma: A Diagnostic Challenge without Apparent Clinical Manifestations of Tuberculosis	Case Rep Dermatol. 2021 Jul 13;13(2):356-359	Case report
108	Yoshioka Y, Namiki T, Uga jin T, et al	皮膚科	Recurrent Auricular Pseudocyst: Successful Treatment Using a Dental Silicon Cast	Case Rep Dermatol. 2021 Jul 9;13(2):352-355	Case report
109	Wada S, Namiki T, Tokoro S, et al	皮膚科	Stevens-Johnson syndrome induced by tonic water	J Eur Acad Dermatol Venereol. 2021 Oct;35(10):e662-e663	Case report
110	Wada S, Namiki T, Takahashi M, et al	皮膚科	Angiosarcoma presenting as a diffuse facial edematous induration: a rare and atypical clinical feature	J Dtsch Dermatol Ges. 2021 Jun;19(6):892-895	Case report
111	Kato K, Al-Sobaïhi S, Al-Busani H, et al	皮膚科	Analysis of sweating by optical coherence tomography in patients with palmoplantar hyperhidrosis	J Dermatol. 2021 Mar;48(3):334-343	Original Article
112	Yokoyama Minato, Ishioka Junichiro, Toba Mikayo, et al	泌尿器科	Trends and safety of robot-assisted partial nephrectomy during the initial 2-year period after government approval in Japan: A nationwide database study from 2016 to 2018	Int J Urol. 2021 Dec; 28: 1268-72	Original Article
113	Masaki Kobayashi, Junichiro Ishioka, Yoh Matsuoka, et al	泌尿器科	Computer-aided diagnosis with a convolutional neural network algorithm for automated detection of urinary tract stones on plain X-ray	BMC Urol. 2021 Aug; 21: 102	Original Article
114	Shimada W, Tanaka H, Fukawa Y, et al	泌尿器科	Infiltrative tumor interface with normal renal parenchyma in locally advanced renal cell carcinoma: Clinical relevance and pathological implications	Int J Urol. 2021 Dec; 28: 1233-9	Original Article

小計10件

小計10件

小計10件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
115	Maruyama R, Fukushima H, Fukuda S, et al	泌尿器科	Nonuse of antimicrobial prophylaxis in clean surgeries for adrenal and renal tumors: Results of the risk-based strategy in 1362 consecutive patients	Int J Urol. 2021 Oct; 287: 1032-8	Original Article
116	Yoshida S, Takahara T, Arita Y, et al	泌尿器科	Whole-body diffusion-weighted magnetic resonance imaging: Diagnosis and follow up of prostate cancer and beyond	Int J Urol. 2021 May; 28: 502-13	Review
117	Ran Du, Shiqi Xie, Yuxin Fang, et al	眼科	Validation of Soft Labels in Developing Deep Learning Algorithms for Detecting Lesions of Myopic Maculopathy From Optical Coherence Tomographic Images	Asia Pac J Ophthalmol (Phila). 2022;11(3):227-236	Original Article
118	Kyoko Ohno-Matsui, Hiroyuki Takahashi, Zaixing Mao, et al	眼科	Determining posterior vitreous structure by analysis of images obtained by AI-based 3D segmentation and ultrawidefield optical coherence tomography	Br J Ophthalmol. 2021.12;(オンライン)	Original Article
119	Lillian Liu, Yuxin Fang, Tae Igarashi-Yokoi, et al	眼科	Clinical and morphologic features of posterior staphyloma edges by ultrawidefield imaging in pathologic myopia	Retina. 2021.11; 41 (11): 2278-2287	Original Article
120	Hiroyuki Takahashi, Noriko Nakao, Kosei Shinohara, et al	眼科	Posterior vitreous detachment and paravascular retinoschisis in highly myopic young patients detected by ultra-widefield OCT	Sci Rep. 2021.08; 11 (1): 17330	Original Article
121	Tae Igarashi-Yokoi, Kosei Shinohara, Yuxin Fang, et al	眼科	Prognostic Factors for Axial Length Elongation and Posterior Staphyloma in Adults With High Myopia: A Japanese Observational Study	Am J Ophthalmol. 2021.05; 225 76-85	Original Article
122	Shiqi Xie, Yuxin Fang, Ran Du, et al	眼科	ROLE OF DILATED SUBFOVEAL CHOROIDAL VEINS IN EYES WITH MYOPIC MACULAR NEOVASCULARIZATION	Retina. 2021.05; 41 (5): 1063-1070	Original Article
123	Shiqi Xie, Ran Du, Yuxin Fang, et al	眼科	Dilated choroidal veins and their role in recurrences of myopic macular neovascularisations	Br J Ophthalmol. [published online ahead of print, 2021 Apr 28]	Original Article
124	Koju Kamoi, Noe Horiguchi, Hisako Kurozumi-Karube, et al	眼科	Horizontal transmission of HTLV-1 causing uveitis	Lancet Infect Dis. 2021.04; 21 (4): 578	Original Article
125	Du R, Xie S, Igarashi-Yokoi T, et al	眼科	Continued increase of axial length and its risk factors in adults with high myopia	JAMA Ophthalmol .2021.10;139(10):1096-1103	Original Article
126	Yuki Kitaguchi-Iwakiri, Koju Kamoi, Hiroshi Takase, et al	眼科	Long-term incidence of posterior capsular opacification in patients with non-infectious uveitis	Sci Rep. 2022.03; 12 (1): 4296	Original Article
127	Takase H, Arai A, Iwasaki Y, et al	眼科	Challenges in the diagnosis and management of vitreoretinal lymphoma - Clinical and basic approaches	Progress in retinal and eye research. 2022.02(オンライン)	Review
128	Kyoko Ohno-Matsui, Hendrik P N Scholl	眼科	Having One of the Fastest Growing Unmet Needs in Ophthalmology Reflected in Editorial Activities: Myopia	Ophthalmic Res. 2022.01; 65 (1): 1-3	Review
129	Koju Kamoi, Kaoru Uchimar, Arinobu Tojo, et al	眼科	HTLV-1 uveitis and Graves' disease presenting with sudden onset of blurred vision	Lancet. 2022.01; 399 (10319): 60	Case report
130	Horie S, MD, Kukimoto N, et al	眼科	BLUE WIDEFIELD IMAGES OF SCANNING LASER OPHTHALMOSCOPE CAN DETECT RETINAL ISCHEMIC AREAS IN EYES WITH DIABETIC RETINOPATHY	Asia Pac J Ophthalmol (Phila).2021.08; 10 (5): 478-485	Original Article
131	Shintaro Horie, Hiroshi Takase, Takeshi Yoshida, et al	眼科	Sympathetic ophthalmia in eye with pathologic myopia	Am J Ophthalmol Case Rep. 2022.02; 25 101295.	Case report
132	Ito T, Kawashima Y, Yamazaki A, et al	耳鼻咽喉科	Application of a virtual and mixed reality-navigation system using commercially available devices to the lateral temporal bone resection	Annals of medicine and surgery (2012). 2021.12; 72 103063	Original Article
133	Yamazaki Ayame, Ito Taku, Sugimoto Maki, et al	耳鼻咽喉科	Patient-specific virtual and mixed reality for immersive, experiential anatomy education and for surgical planning in temporal bone surgery(和訳中)	Auris•Nasus•Larynx. 2021.12; 48 (6): 1081-1091	Original Article
134	Kiyokawa Yusuke, Ariizumi Yousuke, Ohno Kazuchika, et al	耳鼻咽喉科	Indications for and extent of elective neck dissection for lymph node metastasis from external auditory canal carcinoma(和訳中)	Auris•Nasus•Larynx. 2021.08; 48 (4): 745-750	Original Article
135	Yoshimura Ryo-ichi, Toda Kazuma, Watanabe Hiroshi, et al	放射線治療科	Efficacy and Safety of Induction Chemotherapy and/or External Beam Radiotherapy Followed by Brachytherapy in Patients With Tongue Cancer	ANTICANCER RESEARCH. 2021 Dec; 41 (12): 6259-6266	Original Article
136	Aoki H, Higashi M, Okita M, et al	脳神経内科	Thymidine Kinase 2 and Mitochondrial Protein COX I in the Cerebellum of Patients with Spinocerebellar Ataxia Type 31 Caused by Penta-nucleotide Repeats (TTCCA)	n Cerebellum. 2022 Jan 27(オンライン)	Original Article
137	Yamana T, Okamoto T, Ishizuka M, et al	呼吸器内科	Correction: IL-17A-Secreting Memory γ δ T Cells Play a Pivotal Role in Sensitization and Development of Hypersensitivity Pneumonitis	Journal of immunology (Baltimore, Md. : 1950). 2021.12; 207 (11): 2892	Original Article
138	Katayanagi S, Setoguchi Y, Kitagawa S, et al	呼吸器内科	Alternative gene expression by TOLLIP variant is associated with lung function in chronic hypersensitivity pneumonitis	Chest. 2021.08; 161 (2): 458-469	Original Article
139	Masaru Ejima, Tsukasa Okamoto, Takafumi Suzuki, et al	呼吸器内科	Efficacy of treatment with corticosteroids for fibrotic hypersensitivity pneumonitis: a propensity score-matched cohort analysis	BMC Pulm Med. 2021.07; 21 (1): 243	Original Article
140	Shirai Tsuyoshi, Tanino Yoshinori, Nikaido Takefumi et al	呼吸器内科	Screening and diagnosis of acute and chronic bird-related hypersensitivity pneumonitis by serum IgG and IgA antibodies to bird antigens with ImmunoCAP(和訳中)	Allergy International. 2021.04; 70 (2): 208-214	Original Article
141	Sagawa Ray, Sakata Seiji, Gong Bo, et al	呼吸器内科	Soluble PD-L1 works as a decoy in lung cancer immunotherapy via alternative polyadenylation	JCI INSIGHT. 2022 Jan 11;7(1):e153323	Original Article
142	Mitsumura T, Kumaki Y, Takahashi K, et al	呼吸器内科	Treatment of advanced lung cancer based on genomic profiling using liquid biopsy (plasma): A review of three cases	Thoracic cancer. 2021.08; 12 (18):2508-2512	Review
143	Mitsumura Takahiro, Okamoto Tsukasa, Shirai Tsuyoshi, et al	呼吸器内科	Predictors associated with clinical improvement of SARS-CoV-2 pneumonia(和訳中)	Journal of Infection and Chemotherapy. 2021.06; 27 (6): 857-863	Original Article

小計10件

小計10件

小計10件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
144	Oba S, Hosoya T, Amamiya M, et al	呼吸器内科	Arterial and Venous Thrombosis Complicated in COVID-19: A Retrospective Single Center Analysis in Japan	Frontiers in cardiovascular medicine. 2021.11; 8 767074	Original Article
145	Endo S, Honda T, Kawahara T, et al	呼吸器内科	Profile of metastatic lung cancer patients susceptible to development of thromboembolism during immunotherapy	Cancer treatment and research communications. 2022.3; 31 100547	Original Article
146	Murakami T, Iijima Y, Ando T, et al	呼吸器内科	Successful diagnosis of humidifier lung by individual provocation test to a responsible environment, a case report	Respiratory medicine case reports. 2022.3; 37 101639	Case report
147	Tasaka Y, Honda T, Nishiyama N, et al	呼吸器内科	Non-inferior clinical outcomes of immune checkpoint inhibitors in non-small cell lung cancer patients with interstitial lung disease	Lung cancer. 2021.5;155:120-126	Original Article
148	Ogawa K, Okazaki M, Mori H, et al	形成・美容外科	Comparative Blink Analysis in Patients With Established Facial Paralysis Using High-Speed Video Analysis	The Journal of craniofacial surgery. 2022 May 1;33(3):797-802	Original Article
149	Nakamura Mayu, Mori Hiroki, Kubota Masashi, et al	形成・美容外科	Influence of Marker Number and Position on Accuracy of Breast Measurement With Three-Dimensional Camera	AESTHETIC PLASTIC SURGERY. 2021.10;(オンライン)	Original Article
150	Tanaka Kentaro, Suesada Nobuko, Homma Tsutomu, et al	形成・美容外科	Reliability of Temporal Vascular Anastomosis and Techniques for Better Outcomes	JOURNAL OF RECONSTRUCTIVE MICROSURGERY. 2021.06; 38 (01): 41-46	Original Article
151	Asada M., Nagata M., Mizuno T., et al	薬剤部	Population pharmacokinetics of cefazolin before, during, and after cardiopulmonary bypass in adult patients undergoing cardiac surgery	Eur. J. Clin. Pharmacol. 2021 May; 77: 735-745	Original Article
152	Enomoto A., Mano Y., Kawano Y., et al	薬剤部	Comparison of the Safety and Effectiveness of Four Direct Oral Anticoagulants in Japanese Patients with Nonvalvular Atrial Fibrillation Using Real-World Data,	Biol. Pharm. Bull., 2021 Sep; 44: 1294-1302	Original Article
153	Ishiwata Y., Nagata M., Kiuchi S., et al	薬剤部	Intravenous infusion of fentanyl has no effect on blood concentration of tacrolimus in patients receiving hematopoietic stem cell transplantation, Ther	Drug Monit., 2021 Oct; 43: 688-691	Original Article
154	Nagano K, Tani-Sassa C, Iwasaki Y, et al	検査部	SARS-CoV-2 R.1 lineage variants prevailed in Tokyo in March 2021	Journal of Medical Virology. 2021 Dec; 93: 6833-6	Original Article
155	Azusa Yamazaki, Ryunosuke Ohkawa, Yuka Yamagata, et al	検査部	Apolipoprotein C-II and C-III preferably transfer to both high-density lipoprotein (HDL)2 and the larger HDL3 from very low-density lipoprotein (VLDL)	Biological Chemistry. 2021 May; 402: 439-49	Original Article
156	Sakurazawa T, Ohkubo A, Hoshikawa Y, et al	血液浄化療法部	Adjustment by hematocrit level in calculation of removal rate in therapeutic apheresis	Ther Apher Dial. 2021 Aug;25(4):425-431	Original Article
157	Takashi Hoshino, Yusuke Nakagawa, Kei Inomata, et al	スポーツ医学診療センター	Effects of different surgical procedures for meniscus injury on two-year clinical and radiological outcomes after anterior cruciate ligament reconstructions. -TMDU MAKIS study	J Orthop Sci. 2022.01; 27 (1): 199-206	Original Article
158	Takashi Hoshino, Toshifumi Watanabe, Yusuke Nakagawa, et al	スポーツ医学診療センター	Clinical outcomes of two-stage revision total knee arthroplasty in infected cases with antibiotic-loaded cement spacers produced using a handmade silicone mold	Knee Surg Relat Res. 2021.08; 33 (1): 27	Original Article
159	Shunsuke Ohji, Junya Aizawa, Kenji Hirohata, et al	スポーツ医学診療センター	Characteristics of landing impact in athletes who have not returned to sports at the pre-injury competition level after anterior cruciate ligament reconstruction	Asia Pac J Sports Med Arthrosc Rehabil Technol. 2021.07; 25 47-52	Original Article
160	Shunsuke Ohji, Junya Aizawa, Kenji Hirohata, et al	スポーツ医学診療センター	Injury-related fear in athletes returning to sports after anterior cruciate ligament reconstruction - A quantitative content analysis of an open-ended questionnaire	Asia Pac J Sports Med Arthrosc Rehabil Technol. 2021.07; 25 1-7	Original Article
161	Ohji Shunsuke, Aizawa Junya, Hirohata Kenji, et al	スポーツ医学診療センター	The psychological readiness to return to sports of patients with anterior cruciate ligament reconstruction preoperatively and 6 months postoperatively	PHYSICAL THERAPY IN SPORT. 2021.07; 50 114-120	Original Article
162	Shunsuke Ohji, Junya Aizawa, Kenji Hirohata, et al	スポーツ医学診療センター	Single-leg hop distance normalized to body height is associated with the return to sports after anterior cruciate ligament reconstruction	J Exp Orthop. 2021.04; 8 (1): 26	Original Article
163	Shunsuke Ohji, Junya Aizawa, Kenji Hirohata, et al	スポーツ医学診療センター	Athletic identity and sport commitment in athletes after anterior cruciate ligament reconstruction who have returned to sports at their pre-injury level of competition	BMC Sports Sci Med Rehabil. 2021.04; 13 (1): 37	Original Article
164	Junya Aizawa, Kenji Hirohata, Shunsuke Ohji, et al	スポーツ医学診療センター	Correlations between isokinetic knee torques and single-leg hop distances in three directions in patients after ACL reconstruction	BMC Sports Sci Med Rehabil. 2021.04; 13 (1): 38	Original Article
165	Naoki Yamamoto, Ryohei Takada, Tetsuya Jinno, et al	高気圧治療部	Wear rate and osteolysis in two types of second-generation annealed highly cross-linked polyethylene in total hip arthroplasty: A retrospective comparative study with a minimum of five years	Orthop Traumatol Surg Res. 2021.11; 103147 (オンライン)	Original Article
166	Seiki I, Katano H, Mizuno M, et al	輸血・細胞治療センター	Alterations in cartilage quantification before and after injections of mesenchymal stem cells into osteoarthritic knees	Sci Rep. 2021 Jul 5;11(1):13832	Original Article
167	Yoshiko Ishisaka, Nobuyuki Nosaka, Yuka Mishima, et al	集中治療部	COVID-19 case of ventilator-induced lung injury on extracorporeal membrane oxygenation: Physicians' clinical struggle and ethical conflict in a novel pandemic	Clin Case Rep. 2021.12; 9 (12): e05223	Case report
168	Hatakeyama Toshihiro, Kiguchi Takeyuki, Sera Toshiki, et al	救命救急センター	Physician's presence in pre-hospital setting improves one-month favorable neurological survival after out-of-hospital cardiac arrest: A propensity score matching analysis of the JAAM-OHCA Registry	RESUSCITATION. 2021.10; 167 38-46	Original Article
169	Takayama W, Endo A, Morishita K, et al	救命救急センター	Dielectric Blood Coagulometry for the Early Detection of Sepsis-Induced Disseminated Intravascular Coagulation: A Prospective Observational Study	Critical care medicine. 2022 Jan 1;50(1):e31-e39	Original Article
170	Keita Nakatsutsumi, Akira Endo, Hiraaki Okuzawa, et al	救命救急センター	Colon perforation as a complication of COVID-19: a case report	Surg Case Rep. 2021.08; 7 (1): 175	Case report
171	Takayama Wataru, Endo Akira, Murata Kiyoshi, et al	救命救急センター	The impact of blood type on the mortality of patients with severe abdominal trauma: a multicenter observational study	SCIENTIFIC REPORTS. 2021.08; 11 (1): 16147	Original Article

小計10件

小計10件

小計10件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
172	Mitsumura Takahiro, Okamoto Tsukasa, Shirai Tsuyoh, et al	救命救急センター	Predictors associated with clinical improvement of SARS-CoV-2 pneumonia(和訳中)	Journal of Infection and Chemotherapy. 2021.06; 27 (6): 857-863	Original Article
173	Takayama Wataru, Endo Akira, Otomo Yasuhiro	救命救急センター	Anticoagulation therapy using unfractionated heparin at a therapeutic dose for coronavirus disease 2019 patients with severe pneumonia: a retrospective historical control study(和訳中)	Acute Medicine & Surgery. 2021.06; 8 (1): 1 of 7-7 of 7	Original Article
174	Mori Shusuke, Hori Atsushi, Turker Isik, et al	救命救急センター	Abnormal Cardiac Repolarization After Seizure Episodes in Structural Brain Diseases: Cardiac Manifestation of Electrical Remodeling in the Brain?	JOURNAL OF THE AMERICAN HEART ASSOCIATION. 2021.05; 10 (9): e019778	Original Article
175	Wada Takeshi, Shiraishi Atsushi, Gando Satoshi, et al	救命救急センター	Disseminated intravascular coagulation immediately after trauma predicts a poor prognosis in severely injured patients	SCIENTIFIC REPORTS. 2021.05; 11 (1): 11031	Original Article
176	Hideto Shiraki, Koji Morishita, Mitsuhiro Kishino, et al	救命救急センター	An Experience of Multiple Hematomas in a Coronavirus Disease-19 Patient Administered with ART-123 and Heparin	Open Access Emerg Med.. 2021.05; 13 207-211	Case report
177	Morishita Koji, Takase Kozo, Ishikane Masahiro, et al	救命救急センター	Impact of incentives for health-care workers wearing personal protective equipment while dealing with coronavirus disease in Japan(和訳中)	Journal of Occupational Health. 2021.04; 63 (1): 1 of 3-3 of 3	Letter
178	Yamamoto Ryo, Fujishima Seitaro, Sasaki Junichi, et al	救命救急センター	Hyperoxemia during resuscitation of trauma patients and increased intensive care unit length of stay: inverse probability of treatment weighting analysis	WORLD JOURNAL OF EMERGENCY SURGERY. 2021.04; 16 (1): 19	Original Article
179	Endo A, Saida F, Mochida Y, et al	救命救急センター	Planned Versus On-Demand Relaparotomy Strategy in Initial Surgery for Non-occlusive Mesenteric Ischemia	J Gastrointest Surg. 2021 Jul; 25: 1837-1846	Original Article
180	Nagaoka E, Arai H, Ugawa T, et al	救命救急センター	Efficacy of multidisciplinary team approach with extracorporeal membrane oxygenation for COVID-19 in a low volume ECMO center	Artif Organs. 2021 Sep;45(9):1061-1067	Original Article
181	Sugimoto M, Takayama W, Murata K, et al	救命救急センター	The impact of lactate clearance on outcomes according to infection sites in patients with sepsis: a retrospective observational study	Sci Rep. 2021 Nov;11(1):22394	Original Article
182	Morishita K, Kudo A, Uchida T, et al	救命救急センター	Unexpected Mechanical Ventilation Dysfunction in a Coronavirus Disease Patient With Severe Pneumonia Due to the Oxygen Flowsensor Failure	Journal of Patient Safety. November 3, 2021 PDF ONLY	Letter
183	Kojima M, Endo A, Shiraishi A, et al	救命救急センター	Association between the plasma-to-red blood cell ratio and survival in geriatric and non-geriatric trauma patients undergoing massive transfusion: a retrospective cohort study	Journal of Intensive Care 2022 Jan 11;10(1):2	Case report
184	Ito K, Endo A, Kobayashi M, et al	救命救急センター	Severe pancreatic injury with total disruption of main pancreatic duct successfully managed by multi-stage endoscopic therapy: A case report	Acute Medicine & Surgery 2022 Feb 12;9(1):e735	Case report
185	Matsudera Shotaro, Kano Yoshihito, Aoyagi Yasuko, et al	がんゲノム診療科	A Pilot Study Analyzing the Clinical Utility of Comprehensive Genomic Profiling Using Plasma Cell-Free DNA for Solid Tumor Patients in Japan (PROFILE Study)	Ann Surg Oncol. 2021 Dec;28(13):8497-8505	Original Article
186	Matsudera Shotaro, Kano Yoshihito, Ikeda Sadakatsu	がんゲノム診療科	ASO Author Reflections: Impact of Liquid Biopsy Using Plasma Cell-Free DNA in Solid Tumors in Japan	Ann Surg Oncol. 2021 Dec;28(13):8506-8507	Original Article
187	Yasuko Aoyagi, Yoshihito Kano, Kohki Tohyama, et al	がんゲノム診療科	Clinical utility of comprehensive genomic profiling in Japan: Result of PROFILE-F study	PLoS One. 2022 Mar 31;17(3):e0266112	Original Article
188	Rika Noji, Yoshihito Kano, Hideaki Hirai, et al	がんゲノム診療科	MYC-PDL1 axis reduces sensitivity to nivolumab in recurrent head and neck squamous cell carcinoma	Oral Oncol. 2022 Jan;124:105666	Original Article
189	Yuichi Kumaki, Steve Olsen, Mitsukuni Suenaga, et al	がんゲノム診療科	Comprehensive Genomic Profiling of Circulating Cell-Free DNA Distinguishes Focal MET Amplification from Aneuploidy in Diverse Advanced Cancers	Curr Oncol. 2021 Sep 26;28(5):3717-3728	Original Article

小計10件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。 合計189件
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	森 崇寧, 藤丸 拓也, 蘇原 映誠	腎臓内科	【CKD患者を診たら-最近のCKD診療の知見とその活かし方】	CKDに潜む遺伝性腎疾患 内科. 2021.11; 128 (5): 1057-1060	Review
2	七松 東, 蘇原 映誠	腎臓内科	【囊胞性腎疾患】ADTKD 疾患概念と治療	腎臓内科. 2021.11; 14 (5): 574-578	Review
3	藤丸 拓也, 森 崇寧, 蘇原 映誠	腎臓内科	【腎臓医が診る指定難病】指定難病と今後の展開 難病・希少疾患と遺伝学的検査	腎と透析. 2021.07; 91 (1): 45-49	Review
4	森下あおい, 磯田健志, 山下 基, 他	小児科	マルチプレックスPCRによる呼吸器病原体の観測が有用であった重症複合免疫不全症	日本小児科学会雑誌. 2021.10; 125 (10): 1458-1464	Original Article
5	伊良部 仁, 金子 修也, 井上 なつみ, 他	小児科	リツキシマブによる寛解導入療法が有効であったANCA関連腎炎の1例	日本小児腎臓病学会雑誌. 2021.04; 34 (1): 39-44	Case report
6	工藤 篤, 村瀬芳樹, 赤星 一, 他	肝胆膵外科	神経内分分泌腫瘍に対する conversion surgery	臨床外科. 2021.12; 76 (13): 1536-1541	Original Article
7	工藤 篤, 田邊 稔	肝胆膵外科	膵神経内分分泌腫瘍: 肝転移切除の適応(どこまで切除するか?)「積極的に切除する」という立場から	胆膵Oncology Forum . 2021.12; 2 (1): 17-21	Original Article
8	工藤 篤	肝胆膵外科	消化管・膵NENにおけるバイオマーカー	臨床雑誌外科. 2021.11; 83 (12): 1271-1279	Original Article
9	石川喜也, 赤星 一, 浅野大輔, 他	肝胆膵外科	肝左葉および外側区域の腹腔鏡下切除術	臨床外科. 2021.10; 76 (11): 180-185	Original Article
10	青木 惇, 村上正憲, 柴久美子, 他	肝胆膵外科	再発時ガストリン産生能を獲得した悪性インスリノーマの1例	日本内分泌学会雑誌. 2021.10; 97 (2): 548	Case report
11	八木宏平, 島田 周, 下川雅弘, 他	肝胆膵外科	肝細胞癌治療の新展開	臨床外科. 2021.10; 76 (10): 1292-1300	Original Article
12	赤星 一, 石川喜也, 浅野大輔, 他:	肝胆膵外科	右房内腫瘍栓を有する肝細胞癌手術	臨床外科. 2021.09; 76 (9): 1084-1090	Original Article
13	大科枝里, 小林正典, 工藤 篤, 他	肝胆膵外科	胆道閉鎖症術後52年で胆管癌を発症し切除可能であった1例	胆道. 2021.08; 35 (3): 439	Case report
14	工藤 篤, 岡田英理子	肝胆膵外科	COVID-19のエビデンスと医学研究・教育の制限	日本コンピュータ外科学会誌. 2021.07; 23 (3): 124-127	Original Article
15	西山 優, 赤星 一, 小川康介, 他	肝胆膵外科	肝切除後、膵頭十二指腸切除後に発症した気管支胆汁瘻の一例	日本臨床外科学会雑誌. 2021.04; 82 (4): 816	Case report
16	工藤 篤	肝胆膵外科	NENの予後決定因子としての膵β細胞関連遺伝子の関与	胆と膵. 2022.02; 43 (2): 167-172	Original Article
17	佐々木 亨, 川端 茂徳, 橋本 淳, 他	整形外科	【新しい脊髄・神経機能診断】上肢末梢神経磁界計測による神経活動電流の可視化	臨床神経生理学. 2021.12; 49 (6): 503-509	Original Article
18	橋本 淳, 川端 茂徳, 佐々木 亨, 他	整形外科	【新しい脊髄・神経機能診断】神経磁界計測による胸髄・馬尾神経・神経根の電気活動の非侵襲的機能評価	臨床神経生理学. 2021.12; 49 (6): 496-502	Original Article
19	川島 慶之, 伊藤 卓, 藤川 太郎, 他	耳鼻咽喉科	高齢者への人工内耳植込術 年齢により層別した手術成績	日本耳鼻咽喉科学会会報. 2021.04; 124 (4): 566	Original Article
20	壹岐 陽一, 若林 健二	集中治療部	【小児の人工呼吸とECMO】ECMO管理に起因する生体侵襲の病態解明と予後改善に向けた研究開発の現状	小児科. 2021.08; 62 (8): 807-814	Review
21	工藤 敏文, 西澤 真人, 内山 大樹, 他	救命救急センター	COVID-19関連静脈血栓塞栓症-災害時に備えて- 当院における重症COVID-19肺炎症例に合併した静脈血栓塞栓症の治療成績	静脈学. 2021.08; 32 (2): 224.	Others
22	中堤 啓太, 大友 康裕	救命救急センター	【消化器一般外科医のための腹部外傷外科手術講座】総論 腹部外傷患者に対する救命外来・緊急手術における感染対策 withコロナ時代の緊急手術	手術. 2021.05; 75 (6): 937-943	Others
23	大友 康裕	救命救急センター	本邦の外傷医療は本当に向上したか 防ぎえる外傷死(Preventable Trauma Death;PTD)への取り組み	日本外傷学会雑誌. 2021.05; 35 (2): 113	Others
24	鈴木 利直, 白石 淳, 大友 康裕, 他	救命救急センター	REBOAIに関する現状と展望 外傷診療におけるREBOAの外傷手術適用 日本外傷データベースを用いた記述研究	日本外傷学会雑誌. 2021.05; 35 (2): 133	Others
25	世良 俊樹, 佐伯 辰彦, 佐尾山 裕生, 他	救命救急センター	緊急RBC製剤・REBOAを持ち出し、ドクターヘリで重症外傷患者を転院搬送した1例	日本外傷学会雑誌. 2021.05; 35 (2): 141	Others
26	中堤 啓太, 遠藤 彰, 関谷 宏祐, 他	救命救急センター	ScienceとしてのAcute Care Surgery 下部消化管穿孔に対する緊急手術後の創部感染における予防的Negative pressure wound therapyの効果に関する多施設後ろ向きコホート研究	Japanese Journal of Acute Care Surgery. 2021.04; 10 (2): 42	Others
27	遠藤 彰, 内山 紗也, 小島 光暁, 他	救命救急センター	ScienceとしてのAcute Care Surgery 重症外傷患者に対する医師病院前派遣の有効性についての検討	Japanese Journal of Acute Care Surgery. 2021.04; 10 (2): 44	Others
28	遠藤 彰, 斎田 文貴, 持田 弦, 他	救命救急センター	NOMIの治療戦略 NOMIの初回手術における手術戦略についての検討	日本外科学会定期学術集会抄録集. 2021.04; 121回 PD-12	Others
29	森下 幸治, 大友 康裕, 庄古 知久, 他	救命救急センター	厚生労働省外傷外科医養成事業における院内体制調査報告書の分	日本外科学会定期学術集会抄録集. 2021.04; 121回 SF-079	Others

小計10件

小計10件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別	
30	高山 渉, 遠藤 彰, 大友 康裕	救命救急センター	ScienceとしてのAcute Care Surgery 血液型と重症腹部外傷患者予後に関する多施設共同研究	Japanese Journal of Acute Care Surgery. 2021.04; 10 (2): 44	Others	小計10件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

合計30件

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 研究者等の責務、研究計画書に関する手続・記載事項、研究に関する登録・公表、インフォームド・コンセントを受ける手続等、倫理審査委員会の要件等、利益相反の管理、研究に係る試料及び情報等の保管、モニタリング及び監査	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反マネジメントの対象、マネジメントの概要、手続等（書類の記入方法等）	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年14回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年10回
・ 研修の主な内容 研究不正の防止、広報規則の遵守、令和4年倫理指針の改正に関する最新情報、利益相反管理について（研修会に参加できない場合は、随時e-learningで受講が可能）	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

○内科専門研修プログラム

1) 東京医科歯科大学内科専門研修プログラム（以下、本研修プログラム）は、東京医科歯科大学病院を基幹施設として、茨城県・千葉県・埼玉県・神奈川県・山梨県・長野県・静岡県・島根県・福岡県・東京都内近隣医療圏にある連携施設および特別連携施設で内科専門研修を行います。東京都にとどまらず、他県の各医療圏で研修を積むことにより、都心や各地域を理解した医療も行えるように訓練され、内科専門医としての基本的臨床能力獲得後は、内科領域Subspecialty専門医への道を歩む場合と高度な総合内科のGeneralityを獲得する場合、もしくは内科系集中治療医を目指す場合を想定して、複数のコース別に研修をおこなって内科専門医を育成します。

2) 初期臨床研修を修了した医師は、本研修プログラム専門研修施設群での3年間（基幹施設1年以上＋連携施設および特別連携施設1年以上）で、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、「研修カリキュラム（項目表）」に定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。

○小児科専攻医研修プログラム

東京医科歯科大学小児科専攻医後期研修プログラムは、「最高レベルの一般診療と最先端の専門医療の提供」をモットーに、小児医療の水準向上・進歩発展を図り、小児の健康増進および福祉の充実に寄与する優れた小児科専門医を育成することを目的とします。また「小児科医は子どもの総合医である」という基本的姿勢に基づいて「子どもの総合診療医」「育児・健康支援者」「子どもの代弁者」「学識・研究者」「医療のプロフェッショナル」の5つの資質を備えた小児科専門医となるべく、一定の専門領域に偏ることのない幅広い研修を提供し、上記の社会的要望に応えられるような優れた小児科医の育成を目指します。

○皮膚科研修プログラム

研修を終了し所定の試験に合格した段階で、皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる十分な知識と技術を獲得できることを目標とする。医師としての全般的な基本能力を基盤に、皮膚疾患の高度な専門的知識・治療技能を修得し、関連領域に関する広い視野をもって診療内容を高める。皮膚科の進歩に積極的に携わり、患者と医師との共同作業としての医療の推進に努める。医師としてまた皮膚科専門医として、医の倫理の確立に努め、医療情報の開示など社会的要望に応える。

○精神科専門医研修プログラム

精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。

基幹病院となる東京医科歯科大学病院精神科は、41床の開放病棟であり、急性期の精神病状態の患者の対応は限定されるものの、十分な指導体制のもとに、生理学的検査・心理検査実施による診断や治療に対する詳細な検討、電気けいれん療法、身体合併症診療、リエゾン診療、デイケア活動や小集団精神療法への参加などの全般的な研修が可能である。また、司法精神医学、児童精神医学、老年精神医学に関しては、専門の研修体制を整備しており、全般的な研修に加えて、柔軟に取り入れることができる。

また、連携施設には、首都圏の総合病院を中心に、民間の精神科病院も複数擁している。それぞれ特色のある病院であり、希望に応じて柔軟な研修体制を選択することが出来る。

○外科専門研修プログラム

1) 専攻医が医師として必要な基本的診療能力を習得すること

- 2) 専攻医が外科領域の専門的診療能力を習得すること
- 3) 上記に関する知識・技能・態度と高い倫理性を備えることにより、患者に信頼され、標準的な医療を提供でき、プロフェッショナルとしての誇りを持ち、患者への責任を果たせる外科専門医となること
- 4) 外科専門医の育成を通して国民の健康・福祉に貢献すること
- 5) 外科領域全般からサブスペシャリティ領域（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺外科）、それぞれの領域の専門医取得へと連動すること

○整形外科専門研修プログラム

整形外科の研修で経験すべき疾患・病態は、骨、軟骨、筋、靭帯、神経などの運動器官を形成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性です。また新生児から高齢者まで全ての年齢層が対象となり、その内容は多様です。この多様な疾患に対する専門技能を習得するために、本研修プログラムでは1ヶ月の研修を1単位とする単位制をとります。全カリキュラムを脊椎、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍の10の研修領域に分割し、基幹病院および協力病院をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた単位数以上を修得し、4年間で48単位を修得するプロセスで研修を行います。

また東京医科歯科大学整形外科集談会への参加（年2回）および同会での研究発表（3年目まで年1回）、外部の学会での発表（年1回以上）と論文執筆（研修期間中1編以上）を行うことにより、各専門領域における臨床研究に深く関わりを持つことができます。

○産婦人科研修プログラム

当研修プログラムでは、産婦人科医としての基本的な診療技術、幅広い知識の習得を超えて、婦人科腫瘍、周産期、女性医学、生殖医療、内視鏡手術などの専門的かつ高度な研修が可能です。さらに連携施設での研修により、地域医療で求められる幅広い知識・技能をも習得することが可能です。

研修終了後は東京都下のみならず、地域医療の担い手として都外も含めた多様な施設で就業できます。さらに後期研修後には、大学院への進学や各種サブスペシャリティ領域の研修を開始する準備も整っており、継続的にスキル・キャリアアップできます。

○眼科専門研修プログラム

東京医科歯科大学病院では、幅広い分野の紹介患者があり、眼科全領域の疾患が経験できる。しかも各専門分野において、専門性の高い医療を提供しているため最先端の診断治療を学び、経験できる。また希少症例も経験することができる。

専攻医の研修は、眼科病棟、外来および手術室をローテーションすることで行われる。まず各プログラムの疾患の基本について研修を行い、基本的検査、診断技術および処置、手術を習得し、それぞれのプログラムの目標到達を目指す。毎週行う症例カンファレンスでは、プレゼンテーションの訓練を行う。また、月一回のspot diagnosisでは画像読影能力を高め、リサーチプロセスでは英語でのディスカッションの能力とリサーチマインドを培う。また、各分野の医師から専門分野の疾患レクチャーを医局勉強会で受ける。さらに、周産母子センター等の関連診療科と連携し未熟児診療を含めた全身疾患に伴う眼病変も学習し、他科連携も連携委員会を中心に指導を行う。また東京医科歯科大学では、専攻医や所属医が英語文献、書籍からアップデートした知識を常に吸収できる環境への配慮にも重点を置いている。学会報告や論文作成を専門研修基幹病院在籍中に専攻医は積極的に行う。

○耳鼻咽喉科専門研修プログラム

・本学には耳鼻咽喉科と頭頸部外科が独立した教室として併存しながら、実臨床において一つの教室として機能している。これにより、耳鼻咽喉科・頭頸部外科の幅広い専門分野全てにおいて、高度の医療を提供することができている。従って、どの分野においても偏り無く最新医療を研修することができる。

・本学には国内随一の歯学部があり、歯科領域の幅広い専門分野において高度な診療・研究が行

われている。これら各分野と協力して診療を行うことで、顔面深部外科手術後の再建や咀嚼・嚥下診療、咬合と無呼吸の一貫した診療など、他施設では不可能な高度な診療を経験できる。

・小児科・NICU、神経内科、消化器外科、形成外科、呼吸器科など耳鼻咽喉科・頭頸部外科と関連する各科も国内随一の高レベルの診療を行っており、これらと連携した診療が研修できる。また、頭頸部・頭蓋底腫瘍先端治療センター、スポーツ医学診療センター（高気圧治療部を含む）や快眠センター、長寿・健康人生推進センターなど、当科と深く関わるセンターにおいて病院全体をあげて高度な診療を行っており、極めて高いレベルの診療が研修できる。

・学内には難治疾患研究所や医用生体材料工学研究所など、最先端医療に関わる大規模な研究施設を有しており、これらと連携した最先端の診療が経験できる。

・多彩な連携施設を有し、それぞれに専門を生かした高いレベルの指導を行える指導医が派遣されている。他大学の附属病院に加え、都心の中核病院や地方の基幹病院、各種専門病院を多数含んでおり、大学病院での最先端の専門的診療とともに、一般的な初期診療や地方の基幹病院での救急、高齢者医療や小児医療を含む多彩な臨床経験によって、将来どのような場でも通用する幅広くかつレベルの高い医療技術を身につけることができる。

○泌尿器科専門研修施設群専門研修プログラム

東京医科歯科大学泌尿器科専門研修プログラムは東京医科歯科大学病院を基幹施設とし、15の連携施設と4つの協力施設から構成されています。東京医科歯科大学泌尿器科研修プログラムの連携施設と協力施設は都会拠点病院、地方拠点病院、都会診療所を含み、幅広い研修が可能です。これらの中には、10がん診療拠点病院（4がんセンター含む）、7地域医療支援病院を含み、ほとんどの施設が悪性腫瘍を中心に症例の多い病院であり、これらの施設で質、量ともに十分な研修が受けられます。最先端手術として、ロボット支援手術を実施する病院が10施設、ガスレス・シングルポート・ロボサージャ手術（先端型腹腔鏡下小切開手術）を実施する病院が2施設、腹腔鏡下手術を実施する病院が8施設含まれます。また、小児泌尿器科、女性泌尿器科、透析医療、生殖医療、地域医療などの幅広い領域の研修が可能で、サブスペシャリティ領域の研修も十分に経験できます。さらに、基幹施設である東京医科歯科大学病院では、充実した臨床研究や基礎研究を行うことができ、国際発表も経験できます。また、専門研修後には、大学院への進学や専門分野の研修も可能です。国際的に活躍できる泌尿器科医師を育成することを目標にしています。

○脳神経外科プログラム

脳神経外科専門研修では、初期臨床研修後4年間の研修により、脳神経外科領域の疾患に対する診断、手術的治療および非手術的治療、リハビリテーションあるいは救急医療における総合的かつ専門的な知識と診療技能を獲得します。

本プログラムでは、4年間の研修期間で脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍などの脳神経外科が扱う疾患の診断、標準的治療、基本手術手技の習得を目標とします。さらに本プログラムには20名以上の日本脳血管内治療学会専門医が在籍しており、開頭手術と並行して血管内治療を学べる体制を強化しています。その他、基幹施設においてはてんかん外科、三叉神経痛を中心とした機能的疾患の治療にも力を入れており、多彩な症例を学ぶことができます。また、脳卒中センターにおけるstrokeカンファレンスなど、さまざまな複数診療科でのカンファレンスを行っており、他診療科との連携も充実しています。連携施設や関連施設とは新御茶ノ水セミナー、血管内治療症例検討会、脳腫瘍カンファレンス、鏡視下手術研究会などを合同で開催して全体的な診療レベルの向上に努めています。専門医取得後にはハーバード大学の研究室などとの連携による海外研修にも力を入れています。

○放射線科専門研修プログラム

放射線科専門医の使命は、放射線科領域の専門医として、放射線診療・放射線医学の向上発展に資し、医療および保健衛生を向上させ、かつ放射線を安全に管理し、放射線に関する専門家として社会に対して適切に対応し、もって国民の福祉に寄与することにあります。

放射線科専門研修プログラム整備基準では、放射線科専門医制度の理念のもと、放射線科専門医としての使命を果たす人材育成を目的として専門研修の経験目標を定めています。本研修プログ

ラムでは、研修施設群内における実地診療によって専門研修の経験目標を十分に達成できる研修体制の構築に努めていますが、実地診療のみでは経験が不足する一部の研修については、日本専門医機構が認める講習会（ハンズオン・トレーニング等）及び e-learningの活用等によって、その研修を補完します。

東京医科歯科大学放射線科専門研修プログラムは上記の整備基準に従い、放射線科領域における幅広い知識、錬磨された技能と高い倫理性を備え、コミュニケーション能力とプロフェッショナルリズムを備えた放射線科専門医をめざし、放射線科専攻医を教育します。

○麻酔科専門研修プログラム

本研修プログラムでは、多様な手術を施行する総合病院的な研修施設に加えて、小児麻酔、産科麻酔、心臓手術麻酔、集中治療、ペインクリニック、救急などの領域について、強化研修施設を組み入れるなどの形で専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医の育成をめざしている。

当院は東京都の中心に位置し、大学病院として高度な専門医療に対応するため経験豊富な専門医を有し、先進的な手術を受けた患者さんが最適なコースで回復できるような周術期管理を目指している。また、救急医療においても3次救急の受け入れを行っており、麻酔科専門医として必要な救急患者の管理を研修できる施設となっている。また、手術・麻酔を受けた患者の予後に関する研究や、様々なバイオマーカーの動態、新規医療機器に関わる臨床研究が行われ、研究活動との接点を持ちながら研修を進めることもできる。

○病理専門研修プログラム

東京医科歯科大学では医療に関する基本理念として、『心と身体(からだ)を癒す質の高い医療を、地域に提供するとともに、国内さらに世界へと広めていく』と掲げています。本プログラムにおいても、安定して確実な診断を行える技量を身に付け、地域基幹病院にて即戦力として活躍する人材を育成するとともに、教育者や研究者などへの進路にも対応できる知識と経験を積む機会も提示し、国際的に通用する人材の輩出も視野に入れた内容となっています。

○臨床検査専門研修プログラム

本研修プログラムでは、臨床検査医学総論、一般臨床検査学・臨床化学、臨床血液学、臨床微生物学、臨床免疫学・輸血学、遺伝子関連検査学、臨床生理学の基本7科目の研修を行います。基幹施設である東京医科歯科大学（TMDU）病院検査部で多くの研修を行います。また、連携施設である東京都教職員互助会三楽病院臨床検査科でも研修を行うことにより、深みのある研修となるように工夫しています。

○救急科専門研修プログラム

本研修プログラムの目的は、「国民に良質で安心な標準的医療を提供できる」救急科専門医を育成することです。救急科専門医育成プログラムを修了した救急科領域の専攻医は急病や外傷の種類や重症度に応じた総合的判断に基づき、必要に応じて他科専門医と連携し、迅速かつ安全に急性期患者の診断と治療を進めることが可能になります。また、急病や外傷で複数臓器の機能が急速に重篤化する場合は初期治療から継続して、根本治療や集中治療にも中心的役割を担うことも可能です。さらに加えて地域の救急医療体制、特に消防機関・救急搬送（プレホスピタル）と医療機関との連携の維持・発展、また災害時の対応にも関与し、地域全体の安全を維持する仕事を担うことも可能となります。

○形成外科研修プログラム

本プログラムでは基幹施設と連携施設の病院群で指導医のもとに研修が行なわれます。外傷、先天異常、腫瘍、瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド、難治性潰瘍、炎症・変性疾患、美容外科などについて研修することができます。

研修の一部には臨床系大学院を組み入れることもできます。また、Subspecialty領域専門医の研修準備をすることもできるよう配慮しています。更に、医師としての幅が広げられるよう、臨床

現場から見つけ出した題材の研究手法、論理的な考察、統計学的な評価、論文にまとめ発表する能力の育成を行います。専門研修プログラム修了後には専門知識と診療技術を習得し、他の診療科とのチーム医療を実践できる能力を備えるとともに社会性と高い倫理性を持った形成外科専門医となります。

○リハビリテーション科専門研修プログラム

本プログラムは、将来の日本のリハビリテーション医療を支え、新たな専門医の育成を行う指導的なリハビリテーション専門医を育てる教育システムを構築しています。またリハビリテーション領域の研究の発展のために基礎的な知識、方法を身に付け、研究を専門医取得後も継続して行なうことのできる医師を育てることを目標としています。

基幹研修施設である東京医科歯科大学病院は様々な高度医療を実施しています。その中でリハビリテーション部門は中央診療部門として年間1800名以上の患者のリハビリテーション医療に携わっています。疾患の内容は急性期疾患、整形外科術後、神経難病など多岐にわたり、研修中に多くの症例を経験することができます。一方、大学病院では様々な研究も行っており、臨床と同時に研究を行うことも可能です。リハビリテーション部門では、リハビリテーション医学分野として博士課程大学院生の教育も行っており、研修中にテーマを見つけた場合、さらに大学院に進学し、博士の学位取得を目指し研究を行うことも可能です。

○総合診療専門研修プログラム

将来、総合診療医として活動する場に応じて、診療所に比べて主に病院での研修に重点を置く研修（病院重点）や病院に比べて主に診療所での研修に重点を置く研修（診療所重点）など、多様なローテーションを組み立てることができる。そのために、規模としては中小規模病院・診療所・大学病院等、立地としては市中・郊外・遠隔地といった様々なセッティングの医療施設を用意している。

専攻医の選択での研修も充実している。

様々なセッティングの医療施設で、総合診療医としての核となる臨床能力や、専門医として必要なその他の臨床能力、手技を含めた多様な希望に応じた研修が可能である。あらゆる場面やニーズに総合診療医として対応できる能力習得を目標とする。

とくに、東京医科歯科大学に茨城県や長野県からの地域枠学生のために、茨城県や長野県の医師不足地域に立地している医療機関にても研修できるようになっている。

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	474人
-------------	------

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
内田 信一	腎臓内科	診療科長	36年	
森尾 友宏	小児科	診療科長	38年	
沖山 奈緒子	皮膚科	診療科長	22年	
高橋 英彦	精神科	診療科長	24年	
田邊 稔	肝胆膵外科	診療科長	36年	
大川 淳	整形外科	教授	39年	
宮坂 尚幸	周産・女性診療科	診療科長	32年	
大野 京子	眼科	診療科長	34年	
堤 剛	耳鼻咽喉科	診療科長	29年	

藤井 靖久	泌尿器科	診療科長	33年
前原 健寿	脳神経外科	診療科長	36年
立石 宇貴秀	放射線診断科	診療科長	26年
内田 篤治郎	麻酔・蘇生・ペインクリニック科	診療科長	31年
明石 巧	病理部	副部長	34年
東田 修二	検査部	部長	37年
大友 康裕	救命救急センター	センター長	37年
森 弘樹	形成・美容外科	診療科長	28年
酒井 朋子	リハビリテーション部	部長	32年
山田 徹	総合診療科	講師	18年

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容：ジェネラリストラダー制度のラダーレベル I～V や静脈注射認定プログラムの中で、高度な知識、技術習得のための研修を位置つけて実施した。・研修の期間・実施回数：2021年4月22日～2022年1月24日・計7回（E-Learning、Zoom研修）・研修の参加人数：計298名
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容 情報セキュリティ・個人情報保護講習会・研修の期間・実施回数 2021年12月14日～2022年3月31日・研修の参加人数 1209名 <ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容 OVID-19関連業務を正しく理解するために・研修の期間・実施回数 2021年4月20日～2022年3月15日・研修の参加人数 1202名
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 2. <u>現状</u>
管理責任者氏名	病院長 内田 信一
管理担当者氏名	(総務課長) 清水 勝広 (労務課長) 上村 七奈 (管理課長) 土屋 誠 (医事一課長) 磯部 敦志 (医事二課長) 岩瀬 英一 (医療支援課長) 下田 弘二 (医療品質管理課長) 渋谷 正則 (病院経営企画課) 平野 秀紀

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課総務係
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬剤部、中央電算室
		手術記録	中央電算室、病歴管理室
		看護記録	中央電算室、病歴管理室
		検査所見記録	中央電算室、病歴管理室
		エックス線写真	
		紹介状	中央電算室、病歴管理室
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	中央電算室、病歴管理室
		従業者数を明らかにする帳簿	総務部人事企画課・人事労務課
		高度の医療の提供の実績	医療支援課企画係
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	臨床研究監視室
		高度の医療の研修の実績	労務課医師研修係
		閲覧実績	総務課総務係
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事一課医事係 医事二課医事係
入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事一課医事係、医事二課医事係、薬剤部		
			<p>電子化されているものは中央電算室で、紙媒体のものは病歴管理室で一括管理している。病院外への診療情報の持ち出しは、診療情報提供、診療報酬請求等の特定の用途に制限している。やむを得ない事情により持ち出す場合には病院長の許可が必要となる。</p> <p>【総務部人事企画課・人事労務課】 本学の人事システムで一括管理を行っている。</p> <p>【医療支援課企画係】 ネットワーク上のファイルサーバー及びファイルにより保管管理している。</p> <p>【臨床研究監視室】 電子化されている諸記録は、臨床研究監視室で管理している。</p> <p>【総務課総合教育研修係】 紙媒体及び電子媒体で管理している。</p> <p>【総務課総務係】 文書にて保管し、年度毎にまとめている。(閲覧実績なし)</p> <p>【医事一課、医事二課】 〔紹介患者に対する医療提供の実績〕</p>

				<p>諸記録は、上記診療に関する諸記録と同じ。紹介患者数は、医事一課・医事二課で電子データ管理。</p> <p>〔入院患者数、外来患者数〕</p> <p>医事一課・医事二課で電子データ管理。</p>
規則第一条の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	【医療安全管理部、感染制御部】	電子化されている諸記録は、医療安全管理部、感染制御部それぞれの部署で管理し、紙媒体についてもそれぞれの部署で管理している。
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部		
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部 感染制御部		
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療安全管理部		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部		

【医療安全管理部、感染制御部】
電子化されている諸記録は、医療安全管理部、感染制御部それぞれの部署で管理し、紙媒体についてもそれぞれの部署で管理している。

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療安全管理部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事一課診療報酬対策室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		監査委員会の設置状況	医療企画部
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療支援課患者サービス係
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課総務係
		職員研修の実施状況	医療安全管理部 感染制御部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者が有する権限に関する状況	総務課総務係
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	監査室		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課総務係		
			<p>【医療安全管理部、感染制御部】</p> <p>電子化されている諸記録は、医療安全管理部、感染制御部それぞれの部署で管理し、紙媒体についてもそれぞれの部署で管理している。</p> <p>【医事一課診療報酬対策室】</p> <p>電子データで保存。</p> <p>【医療企画部】</p> <p>電子媒体により、医療企画部で一括管理している。</p> <p>【医療支援課患者サービス係】</p> <p>電子入力し、パスワード管理している。</p> <p>【総務課総務係】</p> <p>専用電話、専用メールアドレス、投書箱を設置済。</p> <p>【医療安全管理部】</p> <p>電子化されている諸記録は、医療安全管理部、感染制御部それぞれの部署で管理し、紙媒体についてもそれぞれの部署で管理している。</p> <p>【総務課総務係】</p> <p>病院規則に管理者が有する権限を明記</p> <p>【監査室】</p> <p>電子媒体情報にて、監査室で管理している</p> <p>【総務課総務係】</p> <p>役員会の運営に関する申し合わせの審議事項に明記。</p>

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	(事務部長)秋葉 泰樹	
閲覧担当者氏名	(総務課長)清水 勝広	
閲覧の求めに応じる場所	・病院特別会議室	
閲覧の手続の概要 閲覧の希望する者は、閲覧責任者の許可を得て閲覧することができる。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容： インフォームド・コンセントを徹底した患者本位の全人的医療、安全な医療の提供を行う。 ○医療現場でのインシデント報告を通しての検証及び事故防止対策を策定・実施する ○医療における基本の徹底と質の向上を図る。 ○上記の目的を実施するため、次の機構を組織する。 (1) 医療安全管理委員会…本院における医療事故防止に関する方策の検討・実施、各種マニュアルの策定及び研修等を行う。 (2) リスクマネージャー会議…各診療科、中央診療部門の中核となる実務者で構成し、日常における安全管理レポート等から事故の検証と再発防止につとめる。 (3) 医療安全管理部…安全管理レポートの調査分析等を行うとともに、事故防止に関するマニュアルの追加並びに指導を行う。 ○患者からの相談に対応するため、院内に患者相談室を置き、必要に応じ、関連部署との連絡調整を行い、相談内容を適切に処理する。</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無 (有・無) ・ 開催状況：年16回 ・ 活動の主な内容： ○医療事故防止に関する方策の検証・実施、各種マニュアルの策定及び研修等を行う。 ○安全管理レポート等からの事故の検証と再発防止策の検討 ○安全管理レポートの調査分析等を行うとともに、事故防止に関する指導を行う</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年2回
<p>・ 研修の内容 (すべて)： ○チームで取り組む医療安全について ○医療機器の安全管理について～ファントルくん運用後のレポートから～ ○「がん化学療法レジメンの公開と地域連携」について ○放射線診療の正当化と患者への情報提供について ○一体化に伴う医療安全管理体制の変更点と説明義務違反について ○医薬品安全管理体制に関する話題について (未承認新規医薬品、医科・歯科一体化後の現状と今後)</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ○インシデント・アクシデント報告の内容分析 ○医療安全管理委員会における重大事故に対する対策の検討 ○内容分析を踏まえたワーキンググループの設置 ○M&Mカンファレンスにおける、多職種・多診療科で今後の方向性の議論 ○臨床研究監視委員会において、インシデント。アクシデントレポートの確認 ○ICノート・病状説明テンプレートの導入による患者説明の充実</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ○感染の予防、教育活動、発生時の対応等及び抗菌薬の適正使用に関して審議・実施をするため感染対策委員会を置く。 ○感染対策委員会と連携し、医療関連感染の予防、教育活動及び医療関連感染発生時に速やかに対応するため、また、抗菌薬を適正に使用するため、管理・指導を行うことを目的として、感染制御部を置く。 ○医療関連感染の防止・対策に資するため、感染対策チームを置く。 ○院内の抗菌薬適正使用に資するため、抗菌薬適正使用支援チームを置く。 ○職員に対する研修に関する基本方針 <ul style="list-style-type: none"> (1) 感染対策の基本的考え方および具体的方策や、抗菌薬使用の適正化について、職員に周知徹底を図ることを目的に実施する。 (2) 感染対策に関する職員研修は、就職時の初期研修のほか、全職員および職種別対象を年2回以上開催する。抗菌薬適正使用に関する職員研修は、年2回程度開催する。 (3) 研修の開催結果を記録・保存する。 ○感染症の発生状況の報告に関する基本方針 <p>MRSA等の感染を防止するため、「院内感染現況報告」を週1回程度作成し、感染制御部にて確認・検討を行うとともに、対策チームを通じ院内への情報提供・注意喚起に活用する。また、検討結果は委員会にて報告され、再確認等、活用する。</p> ○院内感染発生時の対応に関する基本方針 <p>異常発生時は、その状況および患者への対応等を病院長に報告する。感染制御部にて速やかに発生の原因を究明し改善策を立案するとともに、状況に応じ委員会を開催する。改善策を実施するために感染制御部・対策チームを中心に全職員への周知徹底を図る。</p> 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年11回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ○院内感染防止に関する検討・実施・各種マニュアルの策定および教育・研修等を行った。 ○定期的(週1回)な院内感染状況報告と対策の協議ならびに抗菌薬使用状況等の分析を行った。 ○医療現場においての感染防止対策に関する取組みの評価を行った。 ○新型コロナウイルスに関する対策の策定、情報共有を行った。 ○抗菌薬サーベイランスについて報告を行った。 ○抗菌薬適正使用プログラムについて協議を行い、運用を開始した。 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年16回
<p>・ 研修の内容(すべて)：</p> <ul style="list-style-type: none"> ○病院全職員を対象とした院内感染、感染症及び抗菌薬適正使用等に関する研修 ○手指衛生実習 ○標準予防策 ○基本的な感染対策 ○PPE着脱講習 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 医療現場の感染対策に関する環境整備の定期的な確認及び指導。 (2) 感染に関するニュースレター及び各種研修資料の提供。 (3) 細菌検査担当者、薬剤部担当者とともに院内感染に関する情報を共有し改善に努める。 (4) エピネット等による針刺し事故等の報告分析と再発防止に努める。 (5) 平日は感染制御部医師、看護師、薬剤師、検査技師にて微生物ミーティングを行い、院内の医療関連感染の情報収集、分析を行っている (6) 広域抗菌薬開始症例のレビューや感染対策に関わる問題の共有を行い、必要時、感染症内科の介入や感染制御部が現場に赴き、適切な感染防止対策が実施されるよう伝達、指導を行って 	

いる

- (7) 耐性菌検出ベースラインを算出しアウトブレイクの予兆を早期に発見し対応している。
- (8) 感染経路別予防策は医療端末の病棟マップと病室前に表示し、全職員が把握できるように工夫している
- (9) 標準予防策の遵守や个人防护具の着用については、全職員研修および新入職者研修にて教育するとともに、病室前に防護具を設置し、職員が適切に使用できるように整備している
- (10) 抗菌薬適正使用の推進として血液培養陽性例の確認とフィードバック、感染症コンサルテーション診療、広域抗菌薬届出制、一部抗MRSA薬許可制等を導入している。
- (11) 検査診断の適正化として、血液培養施行状況のモニタリングとフィードバックを実施し、感染症検査全般の見直しと整備、迅速遺伝子診断を導入した。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年2回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： 全職員研修を以下の演題にて行った。 ○「がん化学療法レジメンの公開と地域連携」について ○医薬品安全管理体制に関する話題（未承認新規医薬品、医科・歯科一体化後の現状と今後） 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成（有・無） ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： ○医薬品の採用、購入 ○医薬品の管理（麻薬等の管理方法等） ○入院、外来への医薬品の供給・使用・管理 ○患者の持参薬歴情報の収集方法、処方箋の記載方法 ○患者に対する与薬や服薬指導 ○医薬品の安全使用に係る情報の取扱い ○部門（救急部、手術部、輸血部、化学療法部など）における医薬品の使用・管理など ○他施設（病院等、薬局等）との連携 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備（有・無） ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： ○Alecensa capsule（海外輸入品）（ALK陽性切除不能横紋筋肉腫） ○マイオピン点眼0.025%（近視患者および近視発症リスクが高いと考えられる小児） ・ その他の改善のための方策の主な内容： ○独立行政法人医薬品医療機器総合機構のホームページにあるPMDA医療安全情報や公益財団法人日本医療機能評価機構のホームページにある医療安全情報などから情報収集 ○リスクマネージャー会議での周知、お知らせ回覧ファイルによる情報提供 ○鎮静剤の使用に関し、院内ワーキングを設置 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年49回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： ○輸液ポンプ・シリンジポンプの安全な操作法 ○除細動装置 ○人工呼吸器の安全管理 等 ○医療機器の安全管理について 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： ○人工心肺装置及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、人工心肺、除細動装置、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置 等 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： ○Lumi x2（歯周外科手術後の創傷部、口腔軟組織に生じたアフタおよび知覚過敏） ・ その他の改善のための方策の主な内容： ○独立行政法人医薬品医療機器総合機構のホームページにあるPMDA医療安全情報や公益財団法人日本医療機能評価機構のホームページにある医療安全情報などから情報収集 ○リスクマネージャー会議での周知、お知らせ回覧ファイルによる情報提供 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格(医師・歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>○医療安全管理責任者は、医療安全管理部からの報告を受けるとともに、医療安全管理委員会に委員として出席し、医療機器安全管理責任者、医薬品安全管理委員会の報告を受ける体制となっている</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(8名)・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>○薬剤部 医薬品情報室において情報を整理、集約し、医薬品安全性情報を周知している。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>1) 未承認薬品・適応外使用医薬品については、治験・臨床研究担当薬剤師が臨床試験管理センターから当該審査委員会審査結果・緊急審査結果の情報を受け、次の手順で実施する。</p> <p>2) 審査結果内容に準じ、必要な場合には電子カルテ薬品マスターをDI室に作成依頼する。</p> <p>3) 情報ファイルを整理し、調剤室等処方調剤、注射セット現場に存置した「未承認薬品・適応外使用医薬品資料ファイル」にファイルする。</p> <p>4) アップデート情報については、毎朝の朝礼時に情報提供し、全薬剤師に周知する。</p> <p>5) 詳細な内容については、毎月の部員会において治験薬情報と共に報告する。</p> <p>6) 治験・臨床研究担当薬剤師は登録されている未承認薬品・適応外使用医薬品の使用状況についてモニタリングし、月報を作成し、医薬品安全管理責任者に報告する。</p> <p>・担当者の指名の有無(有)・無</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師) (所属：呼吸器内科 ， 職種 医師)</p> <p>(所属：肝胆膵外科， 職種 医師) (所属：統合診療機構 ， 職種 看護師)</p> <p>(所属：クオリティ・マネジメント・センター， 職種 医師) (所属：看護部 ， 職種 看護師)</p> <p>(所属：集中治療部， 職種 医師) (所属：看護部 ， 職種 看護師)</p> <p>(所属：救命救急センター， 職種 医師) (所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師)</p> <p>(所属：麻酔・蘇生ペインクリニック科 ， 職種 医師) (所属：看護部 ， 職種 看護師)</p>	

(所属：脳神経内科，職種 医師) (所属：心臓血管外科，職種 医師) (所属：手術部，職種 医師) (所属：歯科心身医療科，職種 歯科医師) (所属：歯科心身医療科，職種 歯科医師) (所属：顎関節症外来，職種 歯科医師)	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> ・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 ((有)・無) ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：IC委員会において、ICの取得状況とモニタリングの内容について報告を行っている。また、死亡退院事例検証においてICの有無についてのチェックを行い、不十分なものについて診療科への確認を行っている。 	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> ・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： <p>診療録監査要項・診療録監査実施要項に基づき、今年度より年4回、医師・歯科医師による同僚監査および各コメディカル（看護師、薬剤師、栄養士、リハビリ、診療情報管理士）による診療録監査を実施予定で、現在2回目まで完了。</p> <p>量的監査の他に、質的監査については入院患者から各診療科のカルテを任意に抽出し、診療録監査を行っている。結果については病院運営会議で報告し、各診療科へもフィードバックしている。</p> <p>また、学内HP、保険診療講習会、病院メルマガ等で診療録記載の留意点を指導・周知している。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> ・所属職員：専従（4）名、専任（2）名、兼任（12）名 うち医師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（7）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（1）名 うち看護師：専従（2）名、専任（1）名、兼任（1）名 <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の主な内容： <p>○医療事故防止に関する方策の検討・実施、各種マニュアルの方策及び研修等を行う。</p> <p>○安全管理レポート等からの事故の検証と再発防止につとめる。</p> <p>○安全管理レポートの調査分析等を行うとともに、事故防止に関する指導を行う。</p>	

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（3件）、及び許可件数（2件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・ 活動の主な内容：
 - 診療科長から担当部門長に対し、高難度新規医療技術の提供の実施に関する相談があった場合には相談のあった医療技術が高難度新規医療技術に該当するか一義的判断する。
 - 当該高難度新規医療技術の提供の実施の適否、実施条件等について評価委員会の意見を求める。
 - 評価委員会が述べた意見を踏まえ、当該高難度新規医療技術の提供の実施の適否、実施条件等について決定し、診療科長に通知し、病院長に報告する。
 - 高難度新規医療技術の提供を実施した診療科に対して、定期的及び対象患者に有害事象が発生した場合その他必要な場合において、診療録等の記載内容を確認し、病院長にその結果を報告する。
 - 高難度新規医療技術の提供を実施した診療科に対して、定期的に所属する者が高難度新規医療技術規則等を遵守して高難度新規医療技術の提供を実施しているか遵守状況を確認し、病院長にその結果を報告する
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（108件）、及び許可件数（98件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・ 活動の主な内容：

○未承認新規医薬品等の提供の適否、実施条件等について評価委員会の意見を求めること。

○評価委員会が述べた意見を踏まえ、当該未承認新規医薬品等の医療提供の実施の適否、使用条件等について決定し、診療科長に通知し、病院長に報告する。

○未承認新規医薬品等の医療提供を実施した診療科に対して、定期的及び対象患者に有害事象が発生した場合、又はその他必要な場合において、診療録等の記載内容を確認し、病院長にその結果を報告する。

○未承認新規医薬品等の医療提供を実施した診療科に対して、定期的に所属する者が未承認新規医薬品等規則等を遵守して未承認新規医薬品等の医療提供を実施しているか遵守状況を確認し、病院長にその結果を報告する。

・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 ・ 無)

・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (有 ・ 無)

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 5 4 9 件

・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 2 9 1 件

・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

○医療安全に係る各委員会からの説明と報告を受け、内容の精査を行う

○医療事故防止に関する方策の検証・実施、各種マニュアルの策定及び研修等 を行う。

○安全管理レポート等からの事故の検証と再発防止策の検討

○安全管理レポートの調査分析等を行うとともに、事故防止に関する指導を行う。

○M&M カンファレンスの開催 等

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・ 他の特定機能病院等への立入り (有 (病院名：群馬大学医学部附属病院) ・ 無)

・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ (有 (病院名：防衛医科大学校病院) ・ 無)

・ 技術的助言の実施状況

○書面調査のみであったため、技術的助言はなし。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

患者相談室を設置し、患者や家族からの相談や申し出に対応している。

対応内容については、連携メーリングリストを使用して迅速な情報共有を行っている。

対応経過については、日常的に患者相談室から医療安全管理部に報告を行っている。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

(医療安全)

○医療者が知るべき医療安全について、医療機器の安全使用、改正薬機法と保険薬局への情報提供などを含めた研修内容としている。

(研修内容)

○チームで取り組む医療安全について

○医療機器の安全管理について ～ファントルくん運用後のレポートから～

○「がん化学療法レジメンの公開と地域連携」について

○放射線診療の正当化と患者への情報提供について

○一体化に伴う医療安全管理体制の変更点と説明義務違反について

○医薬品安全管理体制に関する話題について (未承認新規医薬品、医科・歯科一体化後の現状と今後)

(感染対策)

2021年度における感染対策に関わる職員研修は全2回の実施であった。

・第1回「基本的な感染対策について」「薬剤耐性と抗菌薬適正使用プログラム(ASP)」(8/25～9/30の期間、Eラーニングにて実施)

・第2回「感染対策における地域連携(医菌連携含む)」「抗菌薬適正使用における培養検査の重要性」「MRSAの院内感染を防ぐために」(11/9～翌年1/4の期間、Eラーニングにて実施 医療安全管理研修と同時開催)

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者：2021年度特定機能病院管理者研修（公益財団法人 日本医療機能評価機構）

医療安全管理責任者：2021年度特定機能病院管理者研修（公益財団法人 日本医療機能評価機構）

医薬品安全管理責任者：2021年度特定機能病院管理者研修（公益財団法人 日本医療機能評価機構）

医療機器安全管理責任者：2021年度特定機能病院管理者研修（公益財団法人 日本医療機能評価機構）

（注）前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

①公益財団法人 日本医療機能評価機構、一般病院2、2017年5月30日・31日、
認定期間（2017年6月15日～2022年6月14日）

②公益財団法人 日本医療機能評価機構、一般病院3（Ver. 2）、2022年9月14日～16日

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

①受審した際の改善する該当項目が無かった。

②現時点で公表されていない

・評価を踏まえ講じた措置

①改善要望事項に該当する項目がなかったため、講じた措置はなし。

②公表されていないため、講じた措置なし

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療法第10条に定める管理者の要件を満たす医師であること。 2. 医療安全確保のために必要な資質・能力を有していること。 具体的には、医療安全管理業務の経験や、患者の安全を第一に考える姿勢及び指導力を有する者 3. 病院管理運営に必要な資質・能力を有していること。 具体的には、本院又は他院における組織管理経験を有し、高度な医療を司る特定機能病院の管理運営上必要な資質及び能力を有する者 4. 本院の理念と実践に深い理解があること。とりわけ以下の点について深い理解があること。 <ol style="list-style-type: none"> ① 働き方改革 ② チーム医療 ③ 公的医療制度 ④ 地域連携 <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無) ・ 公表の方法

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無) ・ 公表の方法 大学HPIにて公表 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
大川 淳	理事・副学長(医療担当)	○	医学部附属病院長候補者選考委員会規則第3条第1項第1号に基づき選出された理事 医療担当理事として大学及び病	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無

			院の運営に精通している	
藍 真澄	東京医科歯科大学 病院長補佐 東京医科歯科大学 病院保険医療管理 部長 東京医科歯科大学 病院医療情報部長 東京医科歯科大学 臨床研究監視室長		東京医科歯科大学病院運営会議 からの推薦を受け、東京医科歯科 大学病院長候補者選考委員会規 則第3条第1項第2号に基づき 選出された者 病院長補佐、保険管理部長及び医 療情報部長、臨床研究監視室長と して、病院運営に精通している	有・無
大野 京子	大学院医歯学総合 研究科教授		東京医科歯科大学病院運営会議 からの推薦を受け、東京医科歯科 大学病院長候補者選考委員会規 則第3条第1項第2号に基づき 選出された者 本院の眼科長として病院運営及 び診療科管理に関し広く精通し ている	有・無
依田 哲也	東京医科歯科大学 歯学部長 大学院医歯学総合 研究科教授		東京医科歯科大学病院運営会議 からの推薦を受け、東京医科歯科 大学病院長候補者選考委員会規 則第3条第1項第3号に基づき 選出された者 歯学部長及び口腔外科系診療領 域長として、大学、病院の運営に 精通している	有・無
安藤 昌之	公益財団法人 東京 都保健医療公社 豊島病院 院長		東京医科歯科大学病院長候補者 選考委員会規則第3条第1項第 4号 豊島病院院長として病院管理に 関し広くかつ高い見識を有して いる	有・無
南 砂	株式会社読売新聞 東京本社 常務取締役 調査 研究本部長		東京医科歯科大学病院長候補者 選考委員会規則第3条第1項第 4号 読売新聞東京本社常務取締役・調 査研究本部長として病院管理に 関し広くかつ高い見識を有して いる	有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・合議体の主要な審議内容 <ul style="list-style-type: none"> (1) 病院内諸規則の制定改廃に関する事項 (2) 病院内の人事に関する事項 (3) 病院の運営方針、中期計画、予算及び決算に関する事項 (4) その他病院の運営に関する重要事項・審議の概要の従業者への周知状況 ・審議の概要の従業者への周知状況 会議資料配付システムにより周知 ・合議体に係る内部規程の公表の有無 (有・無) ・公表の方法 大学HPにて公表 ・外部有識者からの意見聴取の有無 (有・無) 	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
内田 信一	○	医師	病院長,内科系診療領域長,腎臓内科長
新田 浩		歯科医師	首席副病院長(歯科統括),歯系診療部門長,歯科総合診療領域長,歯科総合診療部長
藤井 靖久		医師	副病院長(医療安全),医系診療部門長,泌尿器科長
小池 竜司		医師	副病院長(診療・地域連携),病院長補佐(臨床研究),臨床試験管理センター長
堤 剛		医師	副病院長(手術・先進医療・働き方改革),感覚・皮膚・運動機能診療領域長,耳鼻咽喉科長
木下 淳博		歯科医師	副病院長(教育・診療報酬)(歯系),医療情報部(歯科部門)長,歯科医療情報センター長
宮崎 泰成		医師	病院長補佐(診療整備・内科),呼吸器内科

			長,快眠センター長
大野 京子		医師	病院長補佐（診療整備・外科）,眼科長
高橋 弘充		薬剤師	病院長補佐（メディカルスタッフ）,薬剤部長
藍 真澄		医師	病院長補佐（診療報酬）,医療情報部（医科部門）長,保険医療管理部長,臨床研究監視室長
井津井 康浩		医師	病院長補佐（医療連携・広報）,臨床栄養部長,医療連携支援センター長
工藤 篤		医師	病院長補佐（安全管理）,医療安全管理部長
具 芳明		医師	病院長補佐（感染）,感染症内科長,感染制御部長
大友 康裕		医師	病院長補佐（救命救急）,救急科長,救命救急センター長
若林 健二		医師	病院長補佐（集中治療・ベッドコントロールセンター）,集中治療部長,ベッドコントロールセンター長
植木 穰		医師	病院長補佐（災害）,災害テロ対策室長
武内 寛明		教育職	病院長補佐（ウイルス制御）
秋葉 泰樹		事務	病院長補佐（経営改善）,事務部長
浅香 えみ子		看護師	病院長補佐（サービス・環境整備）,看護部長
水口 俊介		歯科医師	病院長補佐（再整備・医療安全）（歯系）,先端歯科診療センター長
森山 啓司		歯科医師	病院長補佐（臨床研究・教育等）（歯系）,口腔育成系診療領域長,矯正歯科副科長
原田 浩之		歯科医師	病院長補佐（手術・病棟・医歯連携等）（歯系）,口腔外科長,検査部長
岩田 隆紀		歯科医師	病院長補佐（感染対策・働き方改革等）（歯系）,歯周病科長
田邊 稔		医師	外科系診療領域長,肝胆膵外科長

森尾 友宏		医師	小児・周産・女性診療領域長,小児科長,周産期母子医療センター長,難病診療部長,稀少疾患先端医療センター長
前原 健寿		医師	脳・神経・精神診療領域長,脳神経外科長
吉村 亮一		医師	放射線診療領域長,放射線治療科長
宮坂 尚幸		医師	特殊診療領域長,周産・女性診療科長
興地 隆史		歯科医師	口腔維持系診療領域長,むし歯科長
笛木 賢治		歯科医師	口腔機能系診療領域長,診療管理部門長,義歯科長
依田 哲也		歯科医師	口腔外科系診療領域長,顎口腔変形疾患外来長
前田 茂		歯科医師	歯科麻酔・歯科心身診療領域長,歯科麻酔科長
三浦 雅彦		歯科医師	口腔放射線診療領域長,歯科放射線科長
内田 篤治郎		医師	基盤診療部門長,麻酔・蘇生・ペインクリニック科長,手術部長,MEセンター長
森 毅彦		医師	血液内科長,がん先端治療部長
保田 晋助		医師	膠原病・リウマチ内科長,膠原病・リウマチ先端医療センター長
山田 哲也		医師	糖尿病・内分泌・代謝内科長
橋本 正良		医師	総合診療科長
岡本 隆一		医師	消化器内科長,潰瘍性大腸炎・クローン病先端医療センター長
笹野 哲郎		医師	循環器内科長
末永 光邦		医師	臨床腫瘍科長
佐藤 信吾		医師	緩和ケア科長
池田 貞勝		医師	がんゲノム診療科長
吉田 雅幸		医師	遺伝子診療科長
石川 欽也		医師	長寿・健康人生推進科長,長寿・健康人生推進センター長
春木 茂男		医師	食道外科長

徳永 正則		医師	胃外科長
絹笠 祐介		医師	大腸・肛門外科長,低侵襲医療センター長
中川 剛士		医師	乳腺外科長
岡本 健太郎		医師	小児外科長
工藤 敏文		医師	末梢血管外科長
水野 友裕		医師	心臓血管外科長
大久保 憲一		医師	呼吸器外科長
朝蔭 孝宏		医師	頭頸部外科長
大橋 健一		医師	病理診断科長,病理部長
沖山 奈緒子		医師	皮膚科長
森 弘樹		医師	形成・美容外科長
田中 顕太郎		医師	再建形成外科長
吉井 俊貴		医師	整形外科長
古賀 英之		医師	運動器外科長
酒井 朋子		医師	リハビリテーション部長
横田 隆徳		医師	脳神経内科長,神経難病先端医療センター長
壽美田 一貴		医師	血管内治療科長
高橋 英彦		医師	精神科長
竹内 崇		医師	心身医療科長,メンタルヘルス・リエゾンセンター長
立石 宇貴秀		医師	放射線診断科長,放射線部長
大塚 和朗		医師	光学医療診療部長
柳下 和慶		医師	高気圧治療部長,スポーツ医学診療センター長
東田 修二		医師	検査部長
久保田 英雄		医師	材料部長
内藤 省太郎		医師	血液浄化療法部長
合屋 雅彦		医師	不整脈センター長
関矢 一郎		医師	輸血・細胞治療センター長
山田 徹		医師	コロナ外来診療センター長
金澤 学		歯科医師	歯科技工部長

足達 淑子		歯科衛生士	歯科衛生保健部長
松尾 浩一郎		歯科医師	オーラルヘルスセンター長
岡田 英理子		医師	総合教育研修センター長
伏見 清秀		医師	クオリティ・マネジメント・センター長
岡田 卓也		医師	国際医療部長
品田 佳世子		歯科医師	歯科衛生士総合研修センター長
若林 則幸		歯科医師	義歯科副科長
小野 卓史		歯科医師	矯正歯科長
岩本 勉		歯科医師	小児歯科長
島田 康史		歯科医師	むし歯科副科長
豊福 明		歯科医師	歯科心身医療科長
丸川 恵理子		歯科医師	口腔インプラント科長
戸原 玄		歯科医師	摂食嚥下リハビリテーション科長
荒川 真一		歯科医師	口腔健康管理科長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無 (有・無)
- ・ 公表の方法
大学HPにて公表

- ・ 規程の主な内容
病院長は、次の権限を有する。
 - (1) 副病院長、病院長補佐、第5条に定める組織の長、東京医科歯科大学医学部附属病院の院内組織に関する内規(平成16年4月1日制定)第5条に規定する各診療科の長の任命及び解任に関する事。ただし、看護部および医療技術職員の役職に関する要項(平成25年8月1日制定)に基づき役職が付されている医療技術職員については除く。
 - (2) 病院予算の執行に関する事。

 - (3) 病院の診療許可に関する事。

- ・ 管理者をサポートする体制(副院長、院長補佐、企画スタッフ等)及び当該職員の役割
副病院長を4名置き、本院の管理運営に関する企画・立案に関わるとともに、病院の教育・研究及び診療に関わる次の職務を分担し、病院長を補佐する。
 - (1) 医療安全・診療に関する事。
 - (2) 救急・重症系医療に関する事。
 - (3) 手術・先進医療に関する事。
 - (4) 環境整備・医療サービスに関する事。12名の病院長補佐を置き、次の職務の企画立案等を検討し、提言する。
 - (1) 教育・研修に関する事。
 - (2) 研究・診療に関する事。
 - (3) 組織・管理運営・経営に関する事。
 - (4) 地域医療・企画広報・危機管理に関する事。
 - (5) 環境整備・医療サービスに関する事。事務部に企画室を置き、理事、病院長、副病院長、看護部長、事務部長、病院統括部長、事務スタッフ(企画室)で構成された企画戦略会議を実施し、病院の将来構想および経営戦略に関する事を審議することにより、管理者をサポートしている。

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
国立大学附属病院長会議による、病院長のリーダーシップ及び病院長を支えるサポート体制の強化等、病院執行部のガバナンス強化を目的とした「病院長塾」、「病院経営次世代リーダー養成塾」に病院長、副病院長等が参加している。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況					有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 監査委員会の開催状況：年 2回 ・ 活動の主な内容： 医療安全管理や高難易度新規医療技術、未承認医薬品等に関する活動監査及び事例対応検証を実施。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無） ・ 委員名簿の公表の有無（有・無） ・ 委員の選定理由の公表の有無（有・無） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有・無） ・ 公表の方法：本学及び本院のHPに掲載。 					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
中 島 勸	埼玉医科大学 総合医療センター 医療安全管理学 教授	○	埼玉医科大学総合医療センター医療安全管理学教授として、医療安全に対し豊富な経験と知識を有している。	有・無	1
児 玉 安 司	新星総合法律事務所 弁護士 国立がん研究センター 理事 医師		医療安全の問題に取り組むなど、医学及び法学の立場から幅広い視野視点を有し、医療安全に関し精通している。	有・無	1

豊田 郁子	NPO 法人 架け橋 理事長		患者・家族と医療をつなぐNPO 法人架け橋理事長として、患者・家族と医療従事者のより良い関係の促進やコミュニケーションに関する豊富な知見を有している。	有・ <input checked="" type="radio"/>	2
福田 桂子			看護業務や地域医療、療養生活支援等に対し豊富な経験と知識を有している。	有・ <input checked="" type="radio"/>	3
木津喜 雅	本学東京都地域医療政策学講座 准教授		東京都における地域医療政策に対し豊富な経験と知識を有している。	<input checked="" type="radio"/> ・無	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
監査室による内部監査において、管理者等の法令適合状況を検証

- ・ 専門部署の設置の有無 (有 ・ 無)
- ・ 内部規程の整備の有無 (有 ・ 無)
- ・ 内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)
- ・ 公表の方法
大学HPに掲載

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 大学の役員会で病院の予算執行状況等管理運営に関する重要事項を審議することとする。 ・ 会議体の実施状況（ 年41回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ）（ 年19回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ） ・ 公表の方法 大学HP 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：役員会			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
田中 雄二郎	学 長	○	<input checked="" type="radio"/> 有・無
大川 淳	理 事・副学長		<input checked="" type="radio"/> 有・無
古川 哲史	理 事・副学長		<input checked="" type="radio"/> 有・無
若林 則幸	理 事・副学長		<input checked="" type="radio"/> 有・無
木村 彰方	理 事・副学長		<input checked="" type="radio"/> 有・無
高田 正雄	学外理事（非常勤）		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
鐘江 康一郎	学外理事（非常勤）		有・ <input checked="" type="radio"/> 無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input type="radio"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法 病院運営会議、HP、医療端末

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>本院では、パンフレットやホームページにより、病院の理念、目標、案内、各診療科等の治療内容及び統計データについて触れ、より多くの方々に情報発信を行っている。</p> <p>また、広報誌オアシス及び市民公開講座を定期的に作成、開催するなどして、本院の果たす役割を伝えている。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>1. アレルギー疾患先端治療センター</p> <p>内科・小児科・皮膚科・耳鼻科のアレルギー専門医が横断的に密接に協力して総合的にアレルギー疾患の治療を行う。それにより、全身のアレルギー疾患を同時に根本から治療することが可能。</p> <p>2. 稀少疾患先端医療センター</p> <p>様々な臓器に症状がおこる稀少難病に対して、その稀少難病毎に、内科・小児科・外科・耳鼻科・皮膚科等の複数の診療科の専門医が横断的に密接に協力して診療を行うことにより、全人的医療の提供が可能となる。</p> <p>3. がん先端治療部</p> <p>がん治療の進歩は目覚ましく、仕事をしながら治療を継続する長期生存患者が増えており、こうした患者を支援していくための横断的な診療・支援部門を設置することにより、患者・</p>	

家族に対する支援を適切かつ迅速に提供することができる。

4. オーラルヘルスセンター

入院中の口の健康増進を支援するため、口腔外科、歯周病、老年歯科、歯科麻酔、障害歯科等の専門医と歯科衛生士で構成され、病院横断的に多くの診療科や看護部などと連携して口腔ケアの推進に取り組んでいる。